

魚谷常吉	平野零兒	鳥居龍藏	長與善郎	浦本浙潮	細川澗松	西村眞琴	中村竹四郎	辻潤	高橋義雄	高橋義雄	牧野菊之助	末弘嚴太郎																	
味覺法樂	滿蒙の秘密室	滿蒙其他の思ひ出	滿支このごろ	漫筆七部集	街の自然愛好者	凡人	星岡隨筆	子子以前	子のあ	子のあ	法窓餘滴	法窓雜記																	
上四六 裝入判	並四六 裝入判	布四六 裝入判	上四六 裝入判	布四六 裝入判	洋四六 布判	布四六 裝入判	上四六 裝入判	布四六 裝入判	並四六 裝入判	並四六 裝入判	上四六 裝入判	布四六 裝入判																	
204	235	327	311	360	364	176	288	320	565	516	344	316																	
一〇〇	三〇〇	二二〇	二二〇	二〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	二〇〇																	
秋豐閣	平原社	岡倉書房	岡倉書房	人文書院	荅北文庫	双雅房	新英社	昭森社	秋豐閣	秋豐閣	主張社	日本評論社																	
月七	月一	月八	月八	月一	月一十	月五	月一十	月五	月七	月七	月七	月三																	
▲皮の味、出汁の話、料理の地方色、技巧と持味、鯛の撰物其他の料理に関する話を収む。	▲満洲國皇帝の御半生、執政に關するの記、女總司合川鳥芳子外六篇。	▲旅順の春、二つの國境へ、ザクリスカ、支那人と日本人其他の紀行隨筆を収む。	▲四十一一年前の滿洲に於ける人類學と考古學蒙古の古昔、私の讀書と藏書其他の隨筆集。	▲東京の女大坂の女、芝居の雪、家庭日記、伊勢の春、揚柳詩抄其他に分け収めた隨筆集。	▲安談神經、ターキー打診、死刑執行者の心理、憂鬱症の解剖其他の醫學隨筆を収む。	▲著者の自叙傳及び感想等を収めた書で、出郷、女學雜誌と文學界外八篇。	▲屍體繪卷、自然と人體との記念、年賀狀、追憶十七年、日光其他より成る隨筆集。	▲六十歳を迎へて、伊香保土産、夜咄、トルストイ、婦人の笑顔其他より成る感想集。	▲文字行脚の方面から支那を取扱つたもので文字の鑑賞、文字の趣味其他。	▲野鳥に就ての隨想を収めたもので、佛法僧ねえどりと芭蕉の句に現れた鳥其他。	▲アイヌに關する隨筆を収めたもので、禽獸のコトバと人間のコトバとの境其他。	▲法律に關する論說、感想正を収録したもので、法窓雜記、非常時と勞働法其他。	▲司法生活四十一年の回顧、伎に就いて其他の時論、感想、選録、劇を収む。	▲著者の生涯を隨筆體にて叙述したもので、上卷は文久元年より明治四十四年まで、下卷は明治四十五年より昭和七年までの出来事を叙述す。	▲PENペン草、あむぶれつしよん、夢幻と逆説の三篇に分け収めた隨筆集。	▲往還漫言、中村竹四郎、松子庵雜錄(秦秀雄)の二篇に分け収めた隨筆集。	▲水平線上の幸、兵亂の生んだ女性異景其他の隨筆を収めそれに卅葉の繪をす。	▲富士讃仰、地方情調、説苑、追想錄、雜篇、朗詩歌陣其他に分け収めた隨筆集。	▲京都漫筆、書房漫筆、俚語漫筆、新年漫筆、研究室漫筆外二篇に分け収めた隨筆漫筆集。	▲旅順の春、二つの國境へ、ザクリスカ、支那人と日本人其他の紀行隨筆を収む。	▲四十一一年前の滿洲に於ける人類學と考古學蒙古の古昔、私の讀書と藏書其他の隨筆集。	▲東京の女大坂の女、芝居の雪、家庭日記、伊勢の春、揚柳詩抄其他に分け収めた隨筆集。	▲安談神經、ターキー打診、死刑執行者の心理、憂鬱症の解剖其他の醫學隨筆を収む。	▲著者の自叙傳及び感想等を収めた書で、出郷、女學雜誌と文學界外八篇。	▲屍體繪卷、自然と人體との記念、年賀狀、追憶十七年、日光其他より成る隨筆集。	▲六十歳を迎へて、伊香保土産、夜咄、トルストイ、婦人の笑顔其他より成る感想集。	▲文字行脚の方面から支那を取扱つたもので文字の鑑賞、文字の趣味其他。	▲野鳥に就ての隨想を収めたもので、佛法僧ねえどりと芭蕉の句に現れた鳥其他。	▲アイヌに關する隨筆を収めたもので、禽獸のコトバと人間のコトバとの境其他。

金田一京助	竹野家立	後藤朝太郎	鳥崎藤村	森於菟	相馬黒光	式場隆三郎	森田たまも	水野葉舟	徳川夢聲	中山太郎	飯島曼史	中村清二				
ゆ	野鳥	文	桃	木	黙	安	も	集	夢	耳	見	見				
う	鳥	字	の	芙		談	め	村	諦	の	る	たり				
か	隨	行		蓉	移	神	ん	の	軒	あ	讀	聞				
ら	想	脚	乗	蓉	移	經	隨	無	隨	か	む	たり				
布四六 裝入判	上四六 裝入判	洋四六 布判	並四六 裝入判	布四六 布判	布四六 裝入判	布四六 裝入判	上四六 裝入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判	上四六 裝入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判				
349	290	706	230	226	447	409	390	365	313	262	266	342				
二〇〇	二〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇				
章華社	椽書房	知進社	岩波書店	時潮社	女性時代社	南光社	中央公論社	人文書院	秋豐閣	象文閣	人文書院	古今書院				
月二十	月十	月一十	月六	月九	月六	月九	月七	月二十	月二十	月十	月四	月三				
▲アイヌに關する隨筆を収めたもので、禽獸のコトバと人間のコトバとの境其他。	▲野鳥に就ての隨想を収めたもので、佛法僧ねえどりと芭蕉の句に現れた鳥其他。	▲文字行脚の方面から支那を取扱つたもので文字の鑑賞、文字の趣味其他。	▲六十歳を迎へて、伊香保土産、夜咄、トルストイ、婦人の笑顔其他より成る感想集。	▲屍體繪卷、自然と人體との記念、年賀狀、追憶十七年、日光其他より成る隨筆集。	▲著者の自叙傳及び感想等を収めた書で、出郷、女學雜誌と文學界外八篇。	▲安談神經、ターキー打診、死刑執行者の心理、憂鬱症の解剖其他の醫學隨筆を収む。	▲東京の女大坂の女、芝居の雪、家庭日記、伊勢の春、揚柳詩抄其他に分け収めた隨筆集。	▲村の無名氏、身邊小品、季節の三篇に大別して収めた小品集。	▲東京の女大坂の女、芝居の雪、家庭日記、伊勢の春、揚柳詩抄其他に分け収めた隨筆集。	▲安談神經、ターキー打診、死刑執行者の心理、憂鬱症の解剖其他の醫學隨筆を収む。	▲著者の自叙傳及び感想等を収めた書で、出郷、女學雜誌と文學界外八篇。	▲屍體繪卷、自然と人體との記念、年賀狀、追憶十七年、日光其他より成る隨筆集。	▲六十歳を迎へて、伊香保土産、夜咄、トルストイ、婦人の笑顔其他より成る感想集。	▲文字行脚の方面から支那を取扱つたもので文字の鑑賞、文字の趣味其他。	▲野鳥に就ての隨想を収めたもので、佛法僧ねえどりと芭蕉の句に現れた鳥其他。	▲アイヌに關する隨筆を収めたもので、禽獸のコトバと人間のコトバとの境其他。

夏目漱石	正岡子規	菊池寛	吉田絃二郎	河野與一	ボオル・ガツシエ	式場隆三郎	横田瑞穂	小林多喜二	木崎好尚	武者小路實篤	前川好堅	河盛	内田百閒		
文學	文學	文學	文學	文學	文學	文學	文學	文學	文學	文學	文學	文學	文學		
讀本	讀本	讀本	讀本	讀本	讀本	讀本	讀本	讀本	讀本	讀本	讀本	讀本	讀本		
468	468	498	514	222	169	226	224	590	116	309	182	414			
1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400			
第一書房	第一書房	第一書房	第一書房	岩波書店	耕進社	ナウカ社	ナウカ社	章華社	山本書店	竹村書房	三笠書房	新潮社			
九月	十月	十月	十一月	七月	六月	四月	三月	二月	六月	七月	二月	十一月			
▲小品隨筆紀行日記俳句斷片書翰に到るまで 文豪漱石の全貌を収めた文學讀本。	▲俳聖、歌聖、批評家、先覺者としての子規の 文學を収めた讀本。	▲小説、戯曲、隨筆、評論等菊池寛氏の文學を 綜合し拔萃せるもの。	▲初秋はうれしけれど、秋十月、怠惰なる秋、 雪、美しき夢、みそさざい其他の作品を収む。	▲第四卷はアミエルの四十八歳から四十九歳 までの日記を収む。	▲オウゾル・シュウル・オアズスのガツシエ家に 蔵された五人の畫家の書簡集。	▲ゴリキイと各國の批評家及び作家たちとの 間に交換された書簡を収む。	▲一九二六年より一九二八年までの日記を収 む。附小林多喜二書簡及小説「人を殺す大」。	▲頼山陽が十八歳より五十三歳までの間に各 方面へ出した書翰を集めたもの。	▲大正七年から十四年に至る志賀直哉氏から 編者に宛てられた手紙を収む。	▲第五卷はスタンダールの日記及び書簡を収 む。	▲大正八年の後半より十一年までの著者の日 記を収録。	▲ファイリツプが友人に宛てた若き日の手紙及 二十歳の日記並に書簡集を収む。	▲大正三年五月より六月までの日記を著者の 文字をそのままに複製せるもの。	▲「ハイネの家庭生活」の中から百二十一種 の手紙を選抜して編譯す。	▲ルイ十四世時代の佛蘭西の政治、財政、社 會、風俗を書簡體により辛辣に批評した名著。

照井漫三	春山行夫	川路柳虹	川路柳虹	川路柳虹	鷺山第三郎	神部孝	徳富健次郎	蘇武	齋藤
詩	詩	詩	詩	詩	詩	詩	詩	詩	詩
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
朗	朗	朗	朗	朗	朗	朗	朗	朗	朗
讀	讀	讀	讀	讀	讀	讀	讀	讀	讀
279	325	218	160	105	388	196	97	256	414
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
白水社	第一書房	耕進社	耕進社	耕進社	新生堂	新潮社	岩波書店	資文堂	サイレン社
六月	五月	十月	五月	一月	七月	十一月	五月	二月	六月
▲詩の朗讀の由來、マチネ、ボエチツク、朗讀 技術、發聲法、アクセント其他を記述す。	▲詩の朗讀の由來、マチネ、ボエチツク、朗讀 技術、發聲法、アクセント其他を記述す。	▲詩の朗讀の由來、マチネ、ボエチツク、朗讀 技術、發聲法、アクセント其他を記述す。	▲詩の朗讀の由來、マチネ、ボエチツク、朗讀 技術、發聲法、アクセント其他を記述す。	▲詩の朗讀の由來、マチネ、ボエチツク、朗讀 技術、發聲法、アクセント其他を記述す。	▲自然詩人ワズワアスの小傳及び評論を記述 し、作品を掲ぐ。	▲IMAGINATION and FANCYの詩(原一郎) 星(川路柳虹)心臓(堀口大學)外廿五篇。	▲ハアバート・リドのホブキンズ論(佐藤 清)或る日の詩(深尾須磨子)其他。	▲第三輯は譯詩を特輯せるもので、ボオル・ウレ リ「海」の幕「中込純次」其他。	▲詩の對象、形態、方法、價値の各論に亘つて 體系的に解説す。

(D) 詩歌・俳句・民謡

詩論・作法

横山 青娥	西條 八十	福田 正夫	山中 散生	萩原 朔太郎	深尾 須磨子	丸山 薫	中山 昌樹	中 勘 助	白鳥 省吾	萩原 朔太郎	千家 元麿
作詩法の研究と推敲	詩 謠 讀 本	自由詩作法	超現實主義の交流	本定青	イヴの笛	集詩一 日の集	美しき魂	海にうかばん	結婚の詩	現代詩人全集	現代詩人全集
上四六判 313	新四六判 231	上四六判 306	上四六判 86	洋四六判 197	上四六判 191	布四六判 83	洋四六判 295	上四六判 122	布四六判 166	布四六判 141	布四六判 146
二、五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	二、三〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
學藝社	健文社	資文堂	ボン書店	版畫莊	出版部	版畫莊	新生堂	岩波書店	東宛書房	新潮社	新潮社
月六	月一十	月一十	月九	月三	月五	月九	月四	月二十	月二	月四	月四
▲詩法の研究、推敲の實際、詩歌の鑑賞、基礎問題の四部にて詩の作り方を説く。	▲詩はどこから来たか、季節の抒情詩、母をうたへる詩、巴里のおもひで外三篇。	▲自由詩の歴史、自由詩とはどんなものかを述べ、その作り方、鑑賞法を説く。	▲文化護謨作家大會に於ける講演(ブルトン)詩六篇(ブラシノス)其他。	▲蝶を夢む、農夫、閑雅な食慾、鷓鴣、唇の亡魂くづれる肉體其他を収めた詩集。	▲イヴの笛、異國の夢其他の抒情詩及び搖籃の歌、流刑、櫻の實の歌の三篇の物語を収む。	▲朝敬章、愛日章、夕映章、星夜章、忌日章に分け収めた詩集。	▲美的殉教、美しき魂、碎かれたる香料、暗夜の星辰、熱帯の黄昏外二篇を収む。	▲海に浮ばん、誓の音、今や別れし、音聲許由、とんと山風其他を収めた詩集。	▲結婚生活を描ける「結婚の詩」及び幼女の成長とその死を描ける「星と語る」を収む。	▲愛情詩篇、月に吠える、青猫、郷土望景詩、散文詩の五篇に分けた詩集。	▲自分は見た、夏草、虹、太陽樹の四篇に分け収めた詩集。

大木 尊夫	新林 富士朗	北岡 克衛	西條 八十	加藤 健	鈴木 章弘	松田 解子	高橋 新吉	北原 白秋	千家 元麿	百田 宗治	内田 忠	室生 犀星
集詩國境の町	集詩骨折頭蓋標本	集詩鯉	詩を想ふ心	詩	詩と歌謠と自選詞華集	集詩辛抱づよい者へ	集詩新吉抄	全集(白秋集外) 一九三六年版	蒼海詩集	跳橋	集詩田園挽歌	返花
布四六判 314	布四六判 55	布四六判 31	布四六判 310	布四六判 91	布四六判 261	布四六判 124	布四六判 116	布四六判 479	布四六判 292	布四六判 26	布四六判 82	布四六判 190
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
學藝社	耕進社	民族社	新陽社	竹村書房	詩の社	同人社	版畫莊	アルス	文學案内社	版畫莊	椎の木社	新陽社
月九	月七	月四	月四	月一十	月四	月一	月八	月九	月八	月八	月八	月二
▲流行歌篇、主題歌篇、放浪詞篇、譯詞篇、抒情詩篇に分けた詩集。	▲哀しみのウタ、剖検室の二篇に分け収めた詩集。	▲昭和八年より九年までの作品十七篇を蒐めたもので、鯉、秋日、秋の樂事其他。	▲詩及び隨筆を収めたもので、新居、珠玉の歌、亡き母を念ふ、下ノ關の一夜其他。	▲山彦、雨、記録、冬の日、三月、櫓の歌、パンと茨、花林其他より成る詩集。	▲現詩壇、現歌謠壇に活躍しつつある人々の作品を網羅す。	▲坑内の娘、全女性進行曲、乳房、勞働者、どよめきの中で其他のプロ詩を収む。	▲著者の選集で、落葉、銀河、女、刃、雲の輝き、何の花ぞ、悪日外數十章。	▲昭和十年度に於ける白秋氏の總作品及び總目録を蒐集網羅せるもの。	▲散歩、冬、海邊で、海、窗の姉妹、黄昏の海、青年の像、大いなる景其他の詩を収む。	▲天のうなじ、天使のお産、裸婦、跳橋、風の人の外七篇を収めた特製詩集。	▲硝子はその他のものを、思考それ自身、雨の音楽外廿七篇を収めた詩集。	▲詩、俳句、和歌を収めたもの。

鹽野保男	鳥崎藤村	横山青娥	吉田一穂	中勘助	田中冬二	佐藤春夫	梶浦正之	青柳かざを	
藤村(春陽堂文庫)	日本名詩選	稗子	機	花	春夫(岩波文庫)	豹	街と女と戀	悪の華	
上四六	並四六	並四六	上四六	並四六	並四六	並四六	上四六	上四六	
製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	
223	276	386	22	121	86	269	102	67	
一三〇	六〇	一八〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	六〇	六〇	六〇	
寶文館	春陽堂	學藝社	ボン書店	岩波書店	昭森社	岩波書店	ボン書店	詩歌の社	
月七	月二十	月一十	月二十	月五	月七	月三	月五	月十	
▲兩棲動物、波頭に分けてアフォリズムと詩を収めたもの	▲若菜集、夏草、落梅集の三篇に分け収めた詩集	▲過去六十年間に於ける日本詩の逸什を集め評釋をも掲げた詞華集	▲岩の上、泥、咒、海鳥、業、鴉を飼ふツアラトウストラ其他の詩を収む	▲孟母斷機、曾哲、われら日本を愛す、千代の城、戀は甘く其他より成る詩集	▲夕暮、雨、家、谿間の山葵田、春日遅々、早春、晩秋薄暮其他より成る詩集	▲殉情詩集、車塵集、魔女の三篇に分け収めた詩集	▲鯛魚、土龍、胎動、鶴と龜、異性交渉、冬、海、豹其他の新現實派の詩を収む	▲生活感情、巷の探訪、愛慾諸相の一斷面を歌つた詩集	▲ボオドレエルの世界的名著「悪の華」の翻譯

八田 鐘 郎	中村爲治	堀口 大 學	堀口 大 學	中山 昌 樹	能勢 陽 三	生田 春 月	村上 菊 一	上 田 進	矢野 龍 溪	堀口 大 學	金田 一 京	堀口 大 學
エセーニン詩抄	キツブリング詩集	月下の一群	シユヘルヴィエル詩抄	新生・詩集	聖キリスト傳	泰西名詩譯集	巴里の旭	ブーシキン詩抄	墳	マリイロオランサン詩畫集	アイヌユウカラ	醉ひどれ船
上四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六
製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判
241	140	748	183	382	332	300	178	224	17	65	350	25
一〇〇	二〇〇	一五〇	二〇〇	一五〇	一〇〇	一〇〇	六〇	一〇〇	三〇〇	九〇	二〇〇	二〇〇
白馬社	岩波書店	第一書房	版畫莊	新生堂	ナウカ社	資文堂	春陽堂	ナウカ社	媽祖書房	昭森社	岩波書店	仲展社
月九	月五	月四	月一	月一	月四	月一	月四	月三	月三	月六	月一十	月二十
▲私は自己の才能に對して深い信頼の念を抱いてゐる、私は田園最後の詩人其他	▲キツブリングの詩を収めたもので、序曲、陸軍兵士に、マンダレ、戀人の祈願文其他	▲フランス近代の詩人六十六家三百四十篇を収めた詞華集	▲森の奥、この沈黙のうしろ其他の詩及び沖の小娘外三篇のコントを収む	▲ダンテの「新生」及び「詩集」の本文を掲げ、註解を附す	▲ソヴエトのプロレタリア詩人デミヤン・ペイドマイの長篇風刺詩「聖キリスト傳」の譯	▲シエクスピア始め各國の名詩の名譯を集めた舊敘の書	▲他國者、老婆の絶望、野蠻な女と氣取つた女、港其他を収めた散文詩集	▲歌人、農村、望みもきえさり、銅像のやうな番兵が其他のブーシキンの詩を譯す	▲沈黙と悲哀の詩人また白耳義のブリユウジユの歌手たるロオデンバツハの散文詩の譯	▲虎、馬、犬、鎮靜劑、女たちの肖像其他の詩を収め、繪畫をも掲ぐ	▲アイヌの叙事詩「神々のユーカーラ」及「英雄のユーカーラ」を譯す	▲ランボオの詩「醉ひどれ船」の譯

文學(翻譯詩集・歌論・作歌法)

フランシス・ジャム著 三好達治譯	夜の歌	新刊 上四六 製入判	137	一〇〇	野田書房	月一十	▲誕生の夜、青い鳥の夜、古い屋敷の夜、サン・ジュアン祭の夜、他の詩を収む。
足立重譯著	戀愛詩集	洋四六 洋布判	233	一〇〇	三笠書房	月三	▲小舟の中にて、荒れた公有地、悲しみに煩ふ、花嫁其他を収めた「戀愛詩集」の譯。
成田一夫譯	戀愛詩讀本	布四六 製入判	330	一〇〇	日本書莊	月九	▲英國の詩人がうたへる戀愛詩を翻譯せるもの。
オスカア・ワイルド著 日夏耿之介譯	ワイルド詩集	並四六 製入判	262	一〇〇	新潮社	月一十	▲ラズンナ、自由女神、エロオスの花園、第四樂章、集外詩篇其他のワイルドの詩を収む。
金子薫園	歌の作り方	上四六 製入判	335	一〇〇	新潮社	月十	▲例歌を引いて短歌の作り方を説明せる書で古今名歌評釋、落合直文集評釋を附す。
新田寛	近世名歌三千首新釋	布四六 製入判	569	一〇〇	厚生閣	月二十	▲近世歌壇一流の作家二十八人の短歌凡そ三千三百首を録し、註解、口譯を施す。
大坪草二郎	愚庵の歌	上四六 製入判	187	一〇〇	竹翠書院	月一十	▲愚庵の歌の代表作を評釋、鑑賞せるものでその生涯と歌風、初期の歌外八篇。
岡山巖	現代歌人論	上四六 製入判	325	一〇〇	人文書院	月十	▲窪田空穂、木下利玄、岡流、川田順、土屋文明、齋藤茂吉外三歌人を評論す。
瀧脇義雄	現代女流短歌の鑑賞	布四六 製入判	306	一〇〇	厚生閣	月十	▲日本女性と短歌、短歌鑑賞上の知識、女流歌壇を概観し、現代女流短歌を鑑賞す。
短歌研究社編	作歌讀本	上四六 製入判	184	一〇〇	春陽社	月二	▲短歌の作り方、味ひ方、現代名歌選、代表歌人大觀、現歌壇鳥瞰等作歌上の知識を述べ、觀、喫煙文學其他の歌論及び隨筆を収録。
川田順	山海居歌話	上四六 製入判	328	一〇〇	非凡閣	月五	▲拾玉集大觀、俊成名歌評釋、藤原定家論、西行傳記歌對其他の和歌に關する論說を収む。
川田順	俊成・定家・西行	上四六 製入判	330	一〇〇	人文書院	月四	

文學(歌論・作歌法・歌集)

北村眞佐雄	新短歌讀本	上四六 製入判	219	一〇〇	平原社	月六	▲短歌の作り方、古今名歌の鑑賞、短歌の歴史等に亘つて解説す。
松村英一	短歌管見	布四六 製入判	295	一〇〇	人文書院	月六	▲短歌に關する評論、感想を収めたもので、諸家近作論、二人の無名歌人其他。
窪田空穂	短歌に入る道	並四六 製入判	136	一〇〇	新潮社	月十	▲短歌の作り方を説明せるもので、歌といふもの、概念とその精神、歌の形式其他。
大井廣	短歌入門講座	並四六 製入判	191	一〇〇	言海書房	月六	▲短歌への手引書で、第一巻は短歌創作論で歌の對象、感情の表はれ方外一章。
尾山篤二郎	平明書屋歌話	上四六 製入判	283	一〇〇	西書房	月八	▲西行法師、高市連黒人の歌、牧水の追想、西行と遊女外十八篇の歌話集。
中村薫編著	名歌辭典	洋四六 洋布判	783	一〇〇	明治書院	月九	▲我國の名歌約八千首を蒐集し五十音順に排列し、作者、原據を名示す。
大坪草二郎	明治天皇御製謹釋	洋四六 洋布判	300	一〇〇	岡村書店	月十	▲明治天皇の御製中の三百首を春季、夏季、秋季、冬季、聖訓及び補遺に分け謹釋す。
加藤一郎	和歌俳句の解釋と鑑賞	洋四六 洋布判	608	一〇〇	岡村書店	月一十	▲男女中等學校の教科書中より和歌千二百首、俳句六百句を選び解釋、鑑賞及び批評を施す。
久保田不吉	赤彦歌集	並四六 製入判	257	一〇〇	岩波書店	月一十	▲二十歳より五十一歳で歿するまでの赤彦の作品中より一千五百三首を選出せる歌集。
久保田不吉	赤彦歌集	並四六 製入判	257	一〇〇	岩波書店	月一十	▲昭和七年一月より昭和十年十二月までの作歌六百九十一首を精選せる歌集。
岡施	アキラ朝彦歌集	布四六 製入判	288	一〇〇	岩波書店	月六	▲「大にふする面」以後の歌三百餘首を収録した歌集。
小野克子	歌鮎となれ	並四六 製入判	156	一〇〇	荻原社	月五	
前田夕暮	生くる日に	並四六 製入判	198	一〇〇	春陽堂	月五	▲大正二年から大正三年に至る約二年間の勞作中より六百餘首を収めた歌集。

文學(歌集)

金子 薫園	石川 啄木	石川 まき子	井上 好澄	小林 富美子	尾上 榮舟	生方 たつゑ	川 田 順	渡邊 順三	北原 白秋	金子 薫園	若山 牧水
片わ	本悲し	集歌君	現代女學生歌集	歌集高	自選細風	集歌山花	集歌山海	集歌團行	白南風	新選金子薫園集	新選若山牧水集
春陽堂(130)	一握の砂以後	影草	原集	抄原	抄原	集抄	集抄	集抄	集抄	集抄	集抄
並 菊半	並 新菊	布 四六	上 四六	上 四六	上 四六	上 四六	上 四六	上 四六	上 四六	上 四六	上 四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
320	49	175	317	222	210	227	154	176	644	236	246
一、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
春陽堂	書物展望社	香蘭詩社	日本書房	協和書院	改造社	出版部	春陽堂	文泉閣	アルス	新潮社	新潮社
月五	月一十	月四	月三	月十	月二十	月一	月一	月六	月七	月七	月八
▲約二百七十首の短歌を収めた著者の第一歌集。	▲啄木の最後の歌集「悲しき玩具」の原本たるノートをそのまゝ複製せるもの。	▲著者最近の歌から三百五十二首を選び収めた短歌集。	▲各府縣に於ける女學校生徒の短歌を収めた歌集。	▲大正八年より昭和十一年までの短歌を収めたもの。	▲静夜、永日、日記の端より、白き路、空の色外四篇に分けて約八百首を収めた自撰歌集。	▲昭和五年より十年までの著者の短歌を収めた歌集。	▲著者の作風を一變した轉期を劃する第三歌集「山海經」の定本。	▲煤煙の街(坪野哲久)橋梁架設工事(青江龍樹)鞭に抗する(西原正春)其他。	▲大正十五年七月より昭和九年二月に至る作品千三百三十三首を収めた歌集。改訂普及版。	▲片われ月、小詩國、伶人、わがおもひ、覺めたる歌、昭和集其他に分け収めた歌集。	▲牧水の短歌選集で、「海の聲」より、「獨り歌へる」より「別離」より「路上」より其他

文學(歌集)

小泉 千櫻	尾上 榮舟	吉井 勇	小日山直登	土岐 哀果	窪田 空穂	佐佐木信綱	香取 秀眞	成瀬 幸恵	堀口 大學	川 田 順	アララギ同人編	日本歌人協會編
素月集	素月集	素月集	大嶺を踰ゆ	春の夕暮に	春の夕暮に	春の夕暮に	天の眞禰	床次竹次郎歌集	涙の念佛	自選日	アララギ年刊歌集	昭和十一年度歌集
並 菊半	上 四六	上 四六	上 四六	並 菊半	並 菊半	上 四六	布 四六	布 四六	布 四六	上 四六	上 四六	並 四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
342	407	227	204	205	224	225	597	124	53	214	316	320
一、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
改造社	雄山閣	改造社	小日山家	春陽堂	春陽堂	改造社	學藝書院	モナス	昭森社	改造社	岩波書店	舊書房
月六	月四	月一十	月二	月九	月九	月二十	月五	月九	月八	月一十	月二	月五
▲大正七年より昭和二年までの短歌千百十四首を収録せる歌集。	▲昭和五年九月以後から昭和十年末までの作品を収めた短歌集。	▲夏のおもひで、酒ほがひ、わかき日、紅燈行、昨日まで其他に分け収めた自選歌集。	▲北滿洲の沙金地帯を踏査した時の歌を収めた歌集。	▲發途、船中、鴨綠江、大連、ソファの上に女、街と家と其他の歌を収む。	▲大正六年の春から七年の春までの一年間に於ける長歌及び短歌を収む。	▲春風、時事、豪士吟、つるはしの音、京都その他、底の小石其他に分け収めた自選歌集。	▲十九歳から還暦までの著者の短歌を蒐輯せる歌集。	▲政治家として又工まざる歌人たりし床次竹次郎氏が口吟んだ短歌を集めたもの。	▲故與謝野寛氏の墓前に捧げられた哀悼短歌約五十首を収む。	▲大正七年より昭和九年に至る短歌六百六十九首を収めた自選歌集。	▲昭和九年度のアララギに掲載されたものより一千八百五十首の短歌を選んだ歌集。	▲日本歌人協會に所属する會員百五十名の昭和十年中發表の作品から自選した歌集。

文學(歌集・俳論・作句法)

松村 英	山崎 剛平	柳原 白蓮	土屋 文明	若山 牧水	山野 井洋	若山 喜志子
歌集(初集)	挽歌(木下尚江)	踏歌(春風堂)	歌集(自選)	歌集(水)	歌集(わが)	歌集(水)
上四六	上四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
213	121	108	205	279	91	279
一八〇〇	一六〇〇	三〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
改造社	砂子屋書房	春陽堂	改造社	改造社	樺太社	岩波書店
月一十	月九	月四	月一十	月六	月六	月十
▲昭和五年五月から十年八月に至るまでの作 品中より自選せる歌集。	▲挽歌、ひとりずまる、目白臺風景、雪の日 の四篇に分けて長歌及び短歌を収む。	▲著者の短歌を収めたもの。	▲かつて刊行されたふゆくさ、往還集、山谷 集から自選せる歌集。	▲秋風の歌、砂丘、朝の歌に分けて八百四十 七首を収めた歌集。	▲樺太のけざむい、風土に於ける下層労働者の ありのまゝの生活を短歌に託せし記録。	▲海の聲、獨り歌へる、別離、路上、死か藝 術か、みなかみ、外九篇に分けて収めた歌集。

俳論・作句法

文學(俳論・作句法・作句集)

松村 英	水原 豊	富士川 游	萩原 井泉水	萩原 井泉水	高濱 虚子	嶋田 青峰	武田 蒼塘	萩原 朝太郎
新様季寄せ	波の群	俳諧詩寺一茶	俳句の道	俳句の道	俳句の道	俳句の道	俳句の道	俳句の道
上四六	布四六	並四六	並四六	並四六	上四六	上四六	並四六	容四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
502	378	37	464	232	230	319	241	165
二〇〇〇	二〇〇〇	三〇〇	一〇〇〇	三〇〇	九〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
神書房	發行所	厚徳書院	千倉書房	新潮社	新潮社	新潮社	松榮堂	第一書房
月七	月十	月九	月三	月十	月三	月四	月一十	月三
▲節令、天象、地象、植物、動物、人事、新 年、季節に分けて且つ春夏秋冬に區別す。 ▲俳句に關する感想、批評、雜纂を収めたも ので、短歌と俳句との交流其他。	▲一茶の略傳、性格、宗教、内觀、自然觀、 人生觀、慈悲心、念佛生活等を述ぶ。	▲樂しみながら自然に俳句が作れる方法を述 べた俳句讀本。	▲俳句をはじめて作らうとする人々の爲に書 いた入門書で、はじめて入る人に外四編。	▲總論、俳句を解すること、俳句を作ること 外五篇にて俳句の初歩を述ぶ。	▲俳句とはどういふものか、現代俳句とはど ういふものか、俳句の作り方を説明す。	▲俳句の作り方、自然觀、寫生の事其他。	▲詩としての蕪村の俳句の本質を詩人たる著 者が解明せる書で、芭蕉私見を附す。	▲春、夏、秋、冬、連作の部に分け収めた俳 句集。一特選定集全三四一。

高屋窓秋白	い夏野	龍星閣	七月	▲雑、蛇、蒲公英、南風、海邊、露、おもひ求めて、雪其他に分け収めた句集。
中村草田男	長子	沙羅書店	二月二十	▲昭和四年九月より十一月四月までのホトトギス雑詠句を主として収めた著者の第一句集
山口誓子	凍港	沙羅書店	九月	▲大正十五年より昭和七年までの作品を集めた俳句集。特製製皮本全三冊。
楠田橙黄子	橙園	龍星閣	二月	▲大正四年から九年までの作句中高濱虚子氏の選を受けたものより抄録せる句集。
資文堂年刊俳句集	年刊俳句集	資文堂	六月	▲昭和十年に發表された俳句を各誌より採録し季題別に配列す。
俳句集編纂所刊	俳句集	素人社	八月	▲「夢路や霞俄に」としきり」を始め大正十三年以降の作品を収めた句集。
齋藤俳小星	俳句集	素人社	八月	▲「夢路や霞俄に」としきり」を始め大正十三年以降の作品を収めた句集。
渡邊水巴	俳句集	交蘭社	七月	▲昭和十一年の初夏に至る作品中より自選す。
尾崎足編	俳句集	巧藝社	四月	▲昭和八年六月より十年五月までの各俳誌より約一萬句を収録せる句集。
久保田万太郎	ゆきげが	双雅房	八月	▲昭和十年五月より十一年四月までの一年間に於ける俳句を纏めたもの。
小杉余子	余子句	岩岡書店	五月	▲余子句集以後の作千百餘句を四季に分け収めた句集。
小澤武二編	余子句	層雲社	六月	▲層雲三百號記念として同人の俳句を輯めた句集。
前田雀郎	川柳	交蘭社	五月	▲川柳は俳諧の眞面目を繼承すべきであると、いふ事を史的に、内容的に説明す。

(E)小説・戯曲

和岡天民子撰	特選集	和川柳部社	三月	▲昭和十年度に於ける川柳の名句を各派各誌に備せず選べる川柳名句集。
江崎小秋	江崎小秋歌謡選集	佛教年鑑社	十月	▲江崎小秋氏の民謡、童謡、佛教、教育に關する歌謡を収録せるもの。
富田衛	民謡おせんころがし	ボン書店	四月	▲待ちぼうけ、河原月夜、麓朝霧、草刈唄、馬子唄の五篇に分け収めた民謡集。
野口雨情	新編草の花	新潮社	八月	▲「草の花」旅の風草の二部より成る民謡集で、旅の風草は各府縣の名所風物を歌ふ。
白鳥省吾	現代歌謡百話	東宛書房	三月	▲歌謡をあらゆる角度から論じた書で、民謡の起源と進展、最近の歌謡の展開其他。
白鳥省吾	現代歌謡百話	東宛書房	三月	▲各地に於ける民謡の起源、本質等を研究せるもので、青森地方の民謡(山田積重)其他
白鳥省吾	現代歌謡百話	東宛書房	三月	▲各地に於ける民謡の起源、本質等を研究せるもので、青森地方の民謡(山田積重)其他
河野たつろ	童謡	東宛書房	六月	▲思ひ出のうた、なかよしのうた、旅で、空と水、土と草木外二篇に分けた童謡集。
十一谷義三郎	あど・ぼるうん	改造社	十二月	▲あど・ぼるうん、紅雀、ゆとびあ開見記、人間なれば外五篇の小説集。

荒木 鏡	樋田 研一	水上 瀧太郎	倉田 百三	丸岡 明	北條 民雄	加藤 武雄	室生 犀星	豊田 三郎	吉田 絃二郎	中河 與一	林 美美子	宇野 千代
小説	小説	小説	小説	小説	小説	小説	小説	小説	小説	小説	小説	小説
小満	石川 啄	創作遺	生きもの	いのちの初夜	喘ぐ白鳥	兄いもうと	新しき軌道	青磧	愛戀無限	戀	愛	あひびき
中	木	産	て	録	鳥	と	道	磧	限	情	き	き
布四六	上四六	上四六	布四六	並四六	並四六	上四六	並四六	布四六	布四六	上四六	上四六	上四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
270	517	528	432	252	354	415	206	265	501	489	338	198
一、三〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、六〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	二、四〇〇	一、五〇〇
協和書院	第一書房	中央公論社	天來書房	沙羅書店	創元社	新潮社	山本書店	協和書院	講談社	第一書房	改造社	新陽社
月一十	月七	月二十	月五	月九	月二十	月三	月七	月八	月五	月五	月一十	月三
▲砂の上、雪明り、木蔭、五分の魂、晩年の花、湖の中、外二篇の風俗的な小説を収む。	▲不出世の天才詩人石川啄木の生涯と歌とをまとめて描いたモデル小説。	▲遺産、停年、二代目、樹齡、世繼、夏期實習、銀座復興、姉と妹の八篇を収めた創作集。	▲山麓、驢馬の事件、足跡、霧の中等四章より成る小説。	▲眞實に生きんとせる女性を主人公に描ける小説集で、沙子の軸心外二篇。	▲二人の男と一人の女の古くしてしかも永久に新しき悲劇を中心に人生哀歡の諸相を描く。	▲癡癡養所に呻吟する著者の創作集で、いのちの初夜、問木老人、癡院受胎外五篇。	▲山麓、驢馬の事件、足跡、霧の中等四章より成る小説。	▲文藝懇話會賞を受賞した室生氏の傑作小説「兄いもうと」を収む。一廉價版。	▲新しき軌道、抗議、一つの敵、車上、賭、科學、高原、結婚披露會外一篇の短篇集。	▲寂しき人生と人間苦の悲劇を描いた名長篇で、朝の山、北國日和外十五項。	▲新しい女性の道徳、熱情と純粹の悲劇を描ける藝術的長篇小説。	▲枯葉、追憶、葡萄の岸、鯉、泉、幸福、愛情、市立女學校の八篇の短篇を収む。

小島 政二郎	矢田 津世子	武野 藤介	武野 藤介	新田 潤	坪田 譲治	梶井 基次郎	梶井 基次郎	尾崎 士郎	坪田 譲治	安藤 規夫	佐藤 規夫	小林 秀雄	仲町 貞子
感	神	微の生えた貞操	壁に咲く花	片意地な街	風の中の子	梶井基次郎小説全集	梶井基次郎小説全集	河	お化けの世界	本論F O U	規夫著	Xへの手紙	梅の花
脈	坂	操	花	街	子	全集	全集	鹿	世界	U	紙	紙	花
上四六	並四六	上四六	並四六	上四六	並四六	上四六	上四六	上四六	並四六	上四六	上四六	上四六	上四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
499	369	158	314	354	238	379	446	324	296	80	73	350	
一、三〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
新潮社	改造社	ボン書店	健文社	人民社	竹村書房	作品社	作品社	竹村書房	竹村書房	版畫莊	野田書房	砂子屋書房	
月一	月二十	月九	月四	月十	月二十	月四	月一	月三	月五	月四	月一	月六	
▲近代生活の中に最も尖端に生きようとする女の胸底に潜む眞の心を底ける長篇小説。	▲父、蔓草、神樂坂、弟、旅役者の妻より、秋扇外三篇の小説を収む。	▲微の生えた貞操、髪、餌、封緘葉書の戀文、跛の女、模造品外十二篇を収めたコント集。	▲壁に咲く花、告知板の文字、秋波、香水と眞、戀人賣買業其他を収めたコント集。	▲煙管、ひげ、片意地な街、自轉車、知識失業者、癡、映畫館のある街の七篇の小説集。	▲東西朝日新聞に連載された兒童文學で、兒童の心理と家庭人の温情とを描く。	▲下巻は冬の日、ある崖上の感情其他の小説及び家其他の遺稿並に附録を収む。	▲河鹿、セキレイの集、生理、悲劇を探す男、待機外六篇の短篇を収めたもの。	▲雪後、心の風景、Kの昇天及び習作十五篇。	▲子供に對する愛情を描いた作品で、お化けの世界、善太の四季、遊ぶ子供外七篇、普及版。	▲巴里で任つた日本の藝術家を主人公にした奇妙な構想になる小説に安中氏の挿畫を加ふ。	▲評論家小林秀雄氏の名篇「Xへの手紙」の限定版。	▲福音、友だち、牛乳、梅の花、日本、後編者、大型の名刺其他を収めた短篇小説集。	

高見順	起承轉々	布四六 裝入判	302	一、〇〇〇	改造社	月七	▲嗚呼いやなことだ、晴れない日、路地、男女、私生児、起承轉々其他の小説を収む。
牧野信一	鬼涙	布四六 裝入判	397	三、〇〇〇	芝書店	月二	▲月あかり、ゼーロン、城ヶ島の春、鬼の門痴日、鬼涙村外十篇の創作集。
高橋新吉	小説長篇狂	並四六 製入判	336	一、〇〇〇	學而書院	月四	▲長篇小説「狂人」及び短篇「桔梗」の二篇を収む。
里見弴	金の鍵の匣	並四六 製入判	451	一、八〇〇	中央公論社	月七	▲また一人、M子、間隙、逆効果、雪崩、忍辱の日々外八篇の短篇集。
尾崎士郎	空想部	上四六 製入判	343	一、八〇〇	新潮社	月七	▲東京郊外の牛追村を背景に特殊の生活をしてみせる人達の生活を描ける長篇小説。
北村小松	空中戦史	並四六 製入判	270	一、〇〇〇	岡倉書房	月七	▲大空の闘士達、氣球殺しのリユーク、赤色戦闘機外五篇の空中戦の話を受む。一普及版。
坂口安吾	黒谷村談	並四六 製入判	293	一、〇〇〇	竹村書房	月七	▲黒谷村、木枯の酒會から、風博士外三篇より成る創作集。一普及版。
徳田秋聲	勳秀作家	上四六 製入判	508	二、〇〇〇	中央公論社	月四	▲勳章、死に親しむ、稻妻、裸像、町の踊り場、日の暈外十篇の創作を収む。
丹羽文雄	閨助	並四六 製入判	342	一、〇〇〇	竹村書房	月三	▲ある喪失、閨秀作家、小さい結婚、晩秋初久期其他の短篇及び隨筆を収む。
井伏鱒二	結婚の條件	上四六 製入判	254	一、八〇〇	竹村書房	月一十	▲著者の自叙傳「鷓助集」及び中篇小説「川」を収む。
菊池寛	結婚の條件	布四六 裝入判	321	一、〇〇〇	講談社	月五	▲戀愛から結婚への波瀾の途を描き現代人の求むる結婚の條件に一大暗示を與へた長篇。
鶴田知也	コシヤマイン記	上四六 製入判	303	一、〇〇〇	改造社	月十	▲蝦夷地の雪に滅び行くアイヌ族の英雄を描いた「コシヤマイン記」外六篇を収む。
長與善郎	この男を見よ	布四六 裝入判	350	一、八〇〇	三笠書房	月四	▲この男を見よ、間道、花東、世はさきさま友情難、背水、女新教育等を収めた小説集。

神戶政郎	三面鏡	上四六 製入判	412	一、八〇〇	四條書房	月十	▲現社會の底を流れてゐる矛盾、悩み、嘆き、奮めきを描ける長篇小説。一普及版。
武田麟太郎	市井事	並四六 製入判	331	一、〇〇〇	竹村書房	月七	▲日本三文オペラ、釜ヶ崎、若もの外六篇より成る創作集。一普及版。
座古愛子	不知火	洋三六 布判	184	九、〇〇〇	獨立堂	月五	▲救済な運命にもまれた末、不思議な御攝理で救はれた一結婚の一生を描いた事實小説。
寺崎浩	祝典	上四六 製入判	362	一、七〇〇	双雅房	月十	▲體圓の脈、時計、隙間、診察、底、角、港季節、耳、部落、祝典外四篇の短篇を収録。
片岡鐵兵	女性恐怖症	上四六 製入判	431	一、〇〇〇	芝書店	月五	▲陋巷、怨憎會、ダンスホール、第二の更年期、女性恐怖症外二篇を収めた創作集。
小田嶽夫	城外	並四六 製入判	321	一、〇〇〇	竹村書房	月一十	▲城外、落日、あたたかい夜、一葦の花、道山暮るる、井上女塾外五篇の短篇を収む。
尾崎士郎	創作情欲	上四六 製入判	328	一、八〇〇	集林書房	月一十	▲情欲、母、或る遠景、夜の停車場、肉體、平俗、國際離婚外六篇より成る創作集。
石川達三	深海魚	上四六 製入判	362	一、〇〇〇	改造社	月二十	▲深海魚、あめりか、鯨、天國の略圖、禁斷春爛漫、首纏外二篇の短篇小説を収む。
山本有三	眞實	並四六 製入判	454	三、〇〇〇	新潮社	月十	▲家庭教育戀愛社會等凡ゆる問題を取扱つた名作で、義捐金、本當のこと外十九項。
久米正雄	新抄	上四六 製入判	447	一、〇〇〇	講談社	月九	▲戀と藝術の懷みを抱く純情の處女を中心として描いた長篇小説。
菊池寛	新道	上四六 製入判	410	一、〇〇〇	日本ダブ社	月五	▲如何に戀愛し如何に結婚すべきかを美しき主人公と共に描ける新戀愛小説。
和田日出吉	人生の活路	上四六 製入判	412	一、〇〇〇	第一書房	月二十	▲古今未曾有の大事事件と云はれる帝人事件の眞相を描いた小説。一廉價版。
小瀧淳人	人生の活路	洋四六 布入判	340	一、〇〇〇	泰文館	月五	▲社會事相を佛教の立場から創作風に描いたもので、二重橋前、恩人、樁火其他。

加賀	下村	福田	島木	尾崎	岸田	室生	堀	堀	横光	深田	吉川	下村
貞二	虎六郎	清人	健作	士郎	國士	犀星	辰雄	辰雄	利一	久彌	英治	千秋
血	魂	脱	第	續々	雙	聖	聖	聖	盛	青	青	生
の	は		一	人生	面	處	家	家			空	々
鶯	歩		義	劇場	神	女	族	族	裝	猪	官	流
鶯	む	出		場								轉
並四六	洋四六	布四六	上四六	並四六	上四六	並四六	上四六	並四六	上四六	並四六	上四六	並四六
製入判	布入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
251	190	265	355	453	432	360	186	73	337	336	295	542
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
文學案内社	泰文館	協和書院	人民社	竹村書房	創元社	新潮社	野田書房	野田書房	新潮社	竹村書房	新英社	中央公論社
月五	月十	月九	月十	月二十	月二十	月二	月十	月一	月二	月七	月一	月二十
▲繪師良秀の「地獄愛の屏風」完成の由来を描いた芥川氏の遺傑作。	▲津輕の野づら、あすならうの二篇の文藝作品を収めたもの。一廉價版。	▲渾沌未分、上田秋成の晩年、ドイゲイル物語、莊子、鶴は病みき外四篇の短篇を収む。	▲手紙の女、夕風、死なぬ伊織、手函、レスナリ館の五篇を収む。一普及版。	▲一夫妻の複雑な心理行程を描ける長篇小説一普及版。	▲電光、教師の態度、餘つた日常、月夜の船の四篇を収めた著作集。	▲青年の志を抱いて樺太より帝都に出て来た青年の眼に映せる都會の有様を描く。	▲現代の習的な青年男女の複雑で、多岐で、微妙な戀愛心理を描いた長編。一普及版。	▲門を敲く、船出の群、篇を上げる等三部より成る長篇小説。	▲あめんちあ、木馬の駈者、奇怪なる實在物ムハメットと煙草外七篇の小説を収む。	▲三章より成るプロレタリア長編小説で、家系、子持の生徒、夫のふない原其他。	▲第一部はバリを中心とする現代の社會運動史の生きた記録に基ける小説。	▲女性を取扱つた短篇小説を収めた書で、流れ藻、結末、波になる女、水の音其他。

芥川	深田	岡本	大佛	横光	中山	伊藤	横光	楠田	横光	立野	勝野	高見
龍之介	久彌	かの子	次郎	利一	義秀	富士夫	利一	民夫	利一	信之	金政	順
地獄	野づら	鶴は病み	紙の女	天	電	長都	時	扉	流	流	二十世紀の黎明	女
變	ら	き	女	使	光	會	計	開	集	集	集	體
布新	並新	上四六	並四六	並四六	上四六	上四六	並四六	上四六	上四六	並四六	並四六	並四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
88	249	300	213	415	203	427	427	158	425	293	300	310
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
野田書房	作品社	信正社	竹村書房	創元社	作品社	第一書房	創元社	方世閣	沙羅書店	ナウカ社	第一書房	竹村書房
月四	月五	月十	月七	月五	月二	月二	月九	月一	月十	月四	月一	月十
▲繪師良秀の「地獄愛の屏風」完成の由来を描いた芥川氏の遺傑作。	▲津輕の野づら、あすならうの二篇の文藝作品を収めたもの。一廉價版。	▲渾沌未分、上田秋成の晩年、ドイゲイル物語、莊子、鶴は病みき外四篇の短篇を収む。	▲手紙の女、夕風、死なぬ伊織、手函、レスナリ館の五篇を収む。一普及版。	▲一夫妻の複雑な心理行程を描ける長篇小説一普及版。	▲電光、教師の態度、餘つた日常、月夜の船の四篇を収めた著作集。	▲青年の志を抱いて樺太より帝都に出て来た青年の眼に映せる都會の有様を描く。	▲現代の習的な青年男女の複雑で、多岐で、微妙な戀愛心理を描いた長編。一普及版。	▲門を敲く、船出の群、篇を上げる等三部より成る長篇小説。	▲あめんちあ、木馬の駈者、奇怪なる實在物ムハメットと煙草外七篇の小説を収む。	▲三章より成るプロレタリア長編小説で、家系、子持の生徒、夫のふない原其他。	▲第一部はバリを中心とする現代の社會運動史の生きた記録に基ける小説。	▲女性を取扱つた短篇小説を収めた書で、流れ藻、結末、波になる女、水の音其他。

文學(小説文庫類)

大下宇陀兒	大下宇陀兒	泉鏡化	泉鏡花	岡本綺堂	江戸川亂歩	森鷗外	小栗虫太郎	江戸川亂歩	大下宇陀兒	佐々木俊郎	海野十三
阿片夫人	唄ふ白骨	歌行燈	婦系圖	怪獸	鏡地獄	雁	完全犯罪	吸血鬼	奇蹟の扉	恐怖の城	恐怖の口笛
並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製
306	323	110	279	378	256	227	145	358	377	392	301
六〇	六〇	三〇	九〇	三〇	六〇	六〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇
春陽堂	春陽堂	岩波書店	新潮社	新潮社	春陽堂	岩波書店	春陽堂	新潮社	新潮社	春陽堂	春陽堂
月十	月十	月二	月四	月一十	月二十	月二	月二	月十	月十	月一十	月一十
▲阿片夫人、不運な果報者、三三六番地の秘密、鏡面の綱の四篇の探偵小説を収む。	▲唄ふ白骨、闇の中の顔、鬼頭夫妻の遊戯三昧の三篇の探偵小説を収む。鬼頭夫妻の遊戯三昧の三篇の探偵小説を収む。	▲明治文學史上の、名作として知られてゐる鏡花の中篇小説。	▲江戸川亂歩氏の代表的名作探偵小説「黄金假面」を収む。	▲泉鏡花氏の傑作「婦系圖」の前篇及び後篇を収む。	▲怪歌、恨の蝶螺、眞鬼海鬼、浦島、經惟子の秘密、岩井紫妻の戀外六篇の短篇を収む。	▲鏡地獄、押繪と旅する男、火星の運河、目羅博士と不思議な犯罪外五篇の探偵小説集。	▲嘗て雑誌「スバル」に連載せられた森鷗外一代の傑作「雁」を収めたもの。	▲完全犯罪、W.B.合綺譚、夢殺殺人事件、聖アレキセイイ寺院外五篇の探偵小説を収む。	▲江戸川亂歩の代表的傑作「吸血鬼」を収めたもの。	▲需家江崎家に起つた殺人事件をめぐる、その葛藤を描ける探偵小説。	▲恐怖の口笛、くるがね天狗、緑色の汚點、鍵から抜け出した女其他の探偵小説を収む。

文學(小説文庫類)

鈴木三重吉	角田喜久雄	直木三十五	直木三十五	村井弦齋	村井弦齋	吉田絃二郎	村松梢風	週刊朝日編輯局編	大下宇陀兒	濱尾四郎	甲賀三郎	甲賀三郎
桑の實	下水	源九郎義経	源九郎義経	小貓	小貓	高原の日記	巷談時雨双紙	黒衣の訪問客	金色	殺人小説集	支倉事件	支倉事件
並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製	並菊半製
165	376	372	393	226	224	185	320	262	302	416	241	207
二〇	九〇	九〇	九〇	三〇	三〇	六〇	六〇	六〇	六〇	九〇	六〇	六〇
岩波書店	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	新潮社	春陽堂	朝日新聞社	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂
月二	月十	月六	月八	月六	月八	月十	月九	月五	月十	月八	月十	月十
▲大正二年に國民新聞に連載した長篇で、おみと云ふ女を主人公にせるもの。	▲蛇男、狼男、ペリカンを盗む、三銃士、發狂、下水道外七篇の探偵小説を収む。	▲長篇時代小説「源九郎義経」の前篇を収めたもの。	▲直木三十五の比較的晩年の作源九郎義経を収めたもの、後篇は芽ぐむもの以下十三章。	▲村井弦齋の小説「小貓」の前篇を収めたもの。	▲明治文壇の人氣作家村井弦齋の有名な長篇小説「小貓」の後篇。	▲小説「高原の日記」を収めたもの。	▲巷談時雨双紙、利根へ落ちる星、薊のお紋湯島のお新、女曲馬師外六篇の時代小説集。	▲黒衣の訪問客(益田道三)、大阪・別府・心中二重奏(原田静人)其他の事實小説集。	▲未決囚人、變な醫學士、金獅子座其他より成る探偵小説。	▲彼が殺したか、死者の權利、悪魔の弟子、殺された天一坊外七篇の探偵小説集。	▲長篇探偵小説「支倉事件」の前篇で、呪の手紙より訊問(一)までを収む。	▲後篇は訊問(二)より大團圓まで。

文學(小説文庫類)

城昌幸	松本泰	細田民樹	甲賀三郎	林房雄	林房雄	森下雨村	岡本綺堂	岡本綺堂	岡本綺堂	泉鏡花	小酒井不木	幸田露伴
死人に口なし	昇降機殺人事件	眞理の春	姿なき怪盗	青	青	青斑	續半七捕物帳	續半七捕物帳	續半七捕物帳	高野聖・眉かくしの霊	大雷雨夜の殺人	太郎坊
並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	布 菊半	布 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半
製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載
328	306	371	403	267	296	372	255	244	240	134	355	107
三〇	六〇	九〇	九〇	六〇	六〇	九〇	六〇	六〇	六〇	六〇	九〇	三〇
春陽堂	春陽堂	新潮社	新潮社	改造社	改造社	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	岩波書店	春陽堂	岩波書店
月一十	月一十	月一十	月一十	月三	月三	月三	月二十	月二十	月二十	月一	月一十	月一十
▲死人に口なし、燭涙、復活の靈液、人花、もう一つの裏路其他より成る探偵小説集。	▲昇降機殺人事件、供養煎餅、毒杯を繞る人々外八篇より成る短篇探偵小説集。	▲日本の生動する社会的現實を通じて何が眞實であるかを探求せる小説。	▲青年新聞記者獅子内俊次の活躍を描ける長篇探偵小説。	▲長編小説「青年」の上巻。	▲長編小説「青年」の下巻。	▲長篇探偵小説「青斑猫」を収めた書で、俄貴族、青い自動車其他。	▲岡本綺堂氏の長篇小説「續半七捕物帳」の第一巻で、十五夜御用心より菊人形の昔まで。	▲第二巻は蟹のお角よりかむる蛇まで。	▲第三巻は河豚太鼓より廻り燈籠まで。	▲「高野聖」及び「眉かくしの霊」の二篇の小説を収む。	▲大雷雨夜の殺人、愚人の毒、メチユーサの首、人工心臓外五篇の短篇探偵小説を収む。	▲太郎坊、夜の雪、不安、付焼丸の四篇を収む。

文學(小説文庫類)

岩野泡鳴	國枝史郎	國枝史郎	甲賀三郎	泉鏡花	櫻井忠温	夢野久作	小酒井不木	佐藤春夫	水谷準	佐藤春夫	江戸川亂歩	保篠龍緒	
血煙天明	血煙天明	血煙天明	血染の紙入	註文帳・白鷺	銃	超人・野博士	展望塔の死美人	都會の憂鬱	都會の憂鬱	都會の憂鬱	南の方紀行	人間椅子	白狼無宿
並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半	並 菊半
製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載	製 載
105	238	230	301	291	313	273	357	171	317	180	233	356	
三〇	六〇	六〇	六〇	六〇	九〇	六〇	九〇	六〇	六〇	六〇	六〇	九〇	
春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	岩波書店	新潮社	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	
月七	月二十	月二十	月二十	月六	月二	月十	月十	月九	月十	月八	月一	月一十	
▲岩野泡鳴氏の小説「世帯」を収めたもの。	▲長篇時代小説「血煙天明」の前篇で、駕籠を襲ふ者より湖半の血煙まで。	▲後篇は不運の兄妹より明朗秋の晝までを収む。	▲血染の紙入、隠れた手、浮ぶ魔鳥の三篇よりなる探偵小説集。	▲小説「註文帳」及び「白鷺」の二篇を収録せるもの。	▲明治三十七八年の日露戦役に於ける砲火の香後に活動した將士の逸事を網羅せる書。	▲超人・野博士、巡査辭職、冥土行進曲、近眼者と迷宮事件外一篇より成る探偵小説集。	▲展望塔の死美人、呪はれの家、死の接吻、通夜の人々外六篇の短篇探偵小説を収む。	▲一人の男の平板なたゞ困憊し切つただけの生活を描いた長篇小説。	▲都魔、七つの闇、北極莊綺譚、死の頸飾、國際奇談俱樂部夜話の五篇の探偵小説を収む。	▲厦門の印象、章美雪女士之墓、集美學校、鷺江の月明、漳州、朱雨亭の事を収む。	▲人間椅子、お勢登場、毒草、双生児、夢遊病者の死、灰神樂外五篇の短篇探偵小説集。	▲白狼無宿、愛國魔人の二篇の中篇探偵小説を収む。	

野村愛正	光るりを行く	日本小説文庫(295)	並 菊半製	292	六〇	春陽堂	月五	▲悲惨な農村の生活を春景に戀愛の葛藤を描ける長篇で、別荘の應接其他。
横溝正史	芙蓉屋敷の秘密	日本小説文庫(119)	並 菊半製	336	六〇	春陽堂	月一十	▲芙蓉屋敷の秘密、女王蜂、赤い水泳着、カリオストロ夫人外四篇の探偵小説を収む。
甲賀三郎	波斯猫の死	日本小説文庫(101)	並 菊半製	335	六〇	春陽堂	月一十	▲波斯猫の死、二つの帽子、毒蛇、放送殺人金魚の頭外七篇の短篇探偵小説を収む。
大下宇陀兒	街の毒草	日本小説文庫(56)	並 菊半製	297	六〇	春陽堂	月七	▲長篇探偵小説「街の毒草」及び太鼓鯨本店怪盗餘聞、殊勲外六篇の短篇を収む。
加藤武雄	三つの眞珠	日本小説文庫(125)	並 菊半製	251	六三	春陽堂	月二十	▲田舎娘の純情と都會の令嬢の戀にはさまれた農村の青年を描ける長篇小説。
加藤武雄	三つの眞珠	日本小説文庫(125)	並 菊半製	280	六三	春陽堂	月二十	▲後篇は捨てられてより大團圓までを収む。
木々高太郎	網膜脈視症	日本小説文庫(108)	並 菊半製	210	六三	春陽堂	月十	▲網膜脈視症、就眠儀式、妄想の原理、ねむり妻、膽囊(改訂)の五篇を収めた探偵小説集
横溝正史	幽霊騎手	日本小説文庫(118)	並 菊半製	331	六五	春陽堂	月十	▲幽霊騎手、九時の女、寄木細工の家、丘の三軒家、腕環外四篇を収めた探偵小説集。
三上於菟吉	雪之丞變	日本小説文庫(162)	並 菊半製	372	九四	春陽堂	月七	▲三上於菟吉氏の長篇傑作小説「雪之丞變」の前篇を収む。
三上於菟吉	雪之丞變	日本小説文庫(162)	並 菊半製	358	九四	春陽堂	月八	▲東西朝日新聞夕刊紙上に連載された雪之丞變化の後篇。
里見弴	夜櫻	春陽堂文庫(15)	並 菊半製	245	六三	春陽堂	月四	▲夜櫻、三人の弟子、小暴君、最初の泊、夏の夜、川波の音外八篇の短篇を収む。
志賀直哉	夜の光	新潮文庫(204)	並 菊半製	258	六五	新潮社	月一十	▲老人、娘、母の死と新しい母、憶ひ出した事、赤西彌太外九篇を収む。
海野十三	流線の間	日本小説文庫(200)	並 菊半製	287	六〇	春陽堂	月九	▲流線間、空襲下の日本、太平洋雷撃戦隊空行かば外三篇の軍事探偵小説集。

國枝史郎	あさひの鏡	上四六製	603	一六〇	一誠社	月一十	▲法術使の妖姫飛天夜叉及び鬼火の姥の奇怪な行狀を中心に描ける大衆小説。
水野章庵子	東家樂燕講演集	布四六製	252	〇〇	高山堂	月六	▲南部坂雪の別れ、赤垣源藏徳利の別れ、召集令外九篇の東家樂燕の浪曲を収む。
森川譯補	命がけメリー・スレッツサー	並 四六製	297	一〇〇	生命の光社	月二十	▲一女工から献身してアフリカ傳道者となつたメリー・スレッツサーの傳記。
大佛次郎	江戸の青空	洋四六製	687	一六〇	博文館	月十	▲佐幕黨一味の横暴なる江戸市中を背景に義侠熱血兒鞍馬天狗の活躍を描ける大衆小説。
木村哲二	江戸の實話	上四六製	595	一六〇	一誠社	月二十	▲江戸の青空、ある日の半四郎、毒水賦、春宮册子時開外九篇の時代小説を収む。
三田村虎魚	江戸の實話	上四六製	408	二〇〇	政教社	月六	▲悪人のないお家騒動、講釋の移替、話に聞いた近藤勇外十六篇の江戸の實話を収む。
三上於菟吉	艶説隠れ蓑	上四六製	293	一八〇	サイレン社	月四	▲艶説隠れ蓑、春色毒胡蝶、毒婦一國圖、艶容美少年録、風流風土記の五篇の小説集。
大佛次郎	大久保彦左衛門	布四六製	415	一四〇	博文館	月三	▲作者獨特の立場から大久保彦左衛門の眞面目を描ける大衆小説。
大佛次郎	大久保彦左衛門	布四六製	383	一四〇	博文館	月十	▲作者獨特の立場から新解釋をなして大久保彦左衛門を小説化するもの。
竹田敏彦	女よ男を裁け	布四六製	380	一四〇	サイレン社	月二十	▲女よ男を裁け、白衣の妹、水銀、大船に乗つた夢、灯を守る戀外五篇の小説を収む。
飯田風谷	編新家庭講談	並四六製	429	一〇〇	警察思潮社	月八	▲尊號宣下(中山大納言の忠節)桃山譚(主計頭清正の孤忠)其他の歴史講談を収む。

大衆文藝・傳記小説・考證讀物

志賀直哉

和

解

並 菊半製

一〇〇

春陽堂

月七

▲志賀直哉氏の大正六年の作「和州」を収めたもの。

澤川順次郎	橋外男	山中峯太郎	川口松太郎	吉川英治	土師清二	鷲尾雨工	長谷川伸	長谷川伸	新居格	子母澤寛	土師清二	村松梢風
支那情怨史	酒場ルーレット紛擾記	西郷隆盛	三味線やくざ	戀山彦	戀染八丈嶋	劍豪物語	蹴手繰り音頭	國定忠治の子	妖艶花のクレオパトラ	霧の白菊	我鬼奉行	海賊
上四六 製入判	上四六 製入判	並四六 製入判	並四六 製入判	上四六 製入判	並四六 製入判	上四六 製入判	布四六 製入判	上四六 製入判	洋四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判
371	355	424	395	503	432	320	623	413	349	424	361	479
一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
南光社	春秋社	新潮社	新潮社	新英社	新小説社	春秋社	博文館	サイレン社	新潮社	サイレン社	サイレン社	一誠社
月一	月二十	月一	月一	月五	月八	月二	月九	月十	月十	月六	月七	月八
▲支那の歴史に關する情怨を歴史上より叙述したもので、傳説をも含む。	▲酒場ルーレット紛擾記、白耳義の地圖、戀と砲弾外一篇の小説を収む。	▲西郷隆盛の生涯を描いた長篇小説で、袴を裂く、天を疑ふ、賣場に供して其他。	▲三味線やくざ、新月かつら川、湯槍曾の平太郎、鳥歸りの源吉外四篇を収めた小説集。	▲元祿の華奢風流の黄金時代を背景に三味線名器山彦をめぐる美女、役者等の葛藤を描く。	▲戀染八丈嶋、ぐでん流彌太郎、平十郎小判戀、御子上典、藤外二名の劍豪を物語る。	▲宮本武蔵、塚原卜傳、多藝御所、伊藤一刀齋、御子と伊呂波の伊四郎を描く。	▲義理と人情に絡まれて關東軍兵の加擔を放棄して願みない伊呂波の伊四郎を描く。	▲國定忠治の子、久六彦六、彌太五郎翼、念佛しら浪、火染めの女外七篇の時代小説集。	▲美女であると共に女傑たりし埃及の情熱の女王クレオパトラの生涯を物語風に描く。	▲霧の白菊、健太健次郎、吉五郎傳法唄、火江戸侍の四篇の時代小説を収む。	▲我鬼奉行、和蘭陀囃子、俠盜ふくる組の三篇の時代小説を収む。	▲徳川三代將軍の時代を背景に西國の海賊若首領村上種太郎を中心に描ける讀物。

木村綾	吉川英治	子母澤寛	大佛次郎	小笠原長生	瀬戸英一	筑波四郎	村松梢風	平野止夫	吉川英治	谷譲次	玉水常治	子母澤寛	
梶牛・鷗外・漱石	治英短篇	黄昏地蔵	大豪清水次郎長	瀬戸英一情話選集	正傳國定忠次	駿河富士	親	新編忠臣蔵	新編忠臣蔵	巖窟王	自由	地獄囃子	
上四六 製入判	洋四六 製入判	布四六 製入判	上四六 製入判	布四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	並四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	並四六 製入判	並四六 製入判	並四六 製入判	
397	583	532	419	416	365	335	373	519	775	475	344	386	
一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	
千倉書房	新英社	博文館	改造社	日本業社	岡倉書房	サイレン社	サイレン社	第一書房	新潮社	新潮社	白揚社	新小説社	
月一	月二十	月三	月六	月二十	月四	月八	月九	月三	月二十	月一	月六	月五	
▲高山樗牛、森鷗外、夏目漱石、二葉亭四迷と乃木石林將軍外八篇の大衆小説集。	▲大谷刑部、御鷹、めくら笛、鍋島甲斐守、玉堂琴士外七篇の短篇時代小説を収む。	▲黄昏地蔵、心中火取蟲、あばれ行燈、子負ひ蟲、さむらひ鷗外一篇の股旅小説集。	▲千古に輝く捕公一門の忠勇義烈を描いた小説で、春雷、足利兄弟外八項。	▲侠客中での侠客清水の次郎長の傳記を物語つたもので、大俠の生ひ立其他。	▲再勤、やすかた日記、今様鬼界ヶ島、姉を殺す、契縛の繩外四篇を収む。	▲國定忠次の正傳を描いた小説で、形代の女房、生首十兩、形ひ喧嘩、赤城山外一篇。	▲長篇時代小説「駿河富士」及び短篇時代小説「喜遊の時代」を収む。	▲若き日の親鸞を描ける宗教小説で、出家、女人禁制、亡父の仇其他、普及版。	▲史證を歪曲せぬ程度に元祿文化の様相とその中に生きた赤穂義士を描いた長篇小説。	▲波瀾萬疊原作を凌ぐとまで云はれた小説。	▲デユマの大作「巖窟王」に構想をとつて、波瀾萬疊原作を凌ぐとまで云はれた小説。	▲民権自由の爲に戦つた大阪事件に關係し脱獄した後の数年間の潜伏中における體驗録。	▲地獄囃子、月を渡る雁、とら安の一生、天狗の又八外三篇の股旅小説集。

大佛次郎	石狩二郎	下村悦夫	海音寺潮五郎	吉川英治	菊池寛	三上於菟吉	古館清朗	野村胡堂	野村胡堂	村松梢風	海音寺潮五郎	川口松太郎
ブウランジエ將軍の悲劇	小説百貨店の人柱	美女狩秘話	恥を知る者	野槌の百	日本武將譚	日	トルストイ	轟半	轟半	東海美女	天正女合戦	鶴八鶴次郎
上四六 製入判 209	並四六 製入判 270	上四六 製入判 682	並四六 製入判 402	並四六 製入判 327	上四六 製入判 433	上四六 製入判 590	上四六 製入判 495	洋四六 布入判 676	布四六 製入判 506	春四六 布入判 398	上四六 製入判 461	上四六 製入判 361
一、一〇〇	一、〇〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
改造社	公望閣	一誠社	新小説社	新小説社	黎明社	黎明社	春秋社	博文館	博文館	出立命部館	春秋社	新英社
月十	月二	月二十	月八	月九	月一	月六	月十	月十	月三	月十	月八	月三
▲まとい女房、津ノ國屋香以、獅子牡丹、淡右衛門兄弟、吉原同會外三篇の時代小説集。	▲東西朝日新聞に連載された小説で、眞實に近い宮本武蔵を描く。	▲人間宮本武蔵の魂と人生を描ける「宮本武蔵」の水火の巻。	▲名作「明治一代女」の外乗合馬車、風流深川唄の二篇の小説をも収めたもの。	▲日本救世軍の總帥山室軍平氏の迂曲曲折の生涯を描けるもの。	▲近代都心の一横断面を活寫し、獵奇と戦慄の渦巻を描ける探偵小説。	▲女形役者雪之丞が父母の仇、土部駿河守を討つまでの復讐と戀の物語。	▲山彦とよぶ将棋の駒の秘密をめぐるつての葛藤を描ける小説で、纏いたち其他。	▲第三巻は吉良泰姫の戀より直義の死を経て正儀京都を回復すまでを収む。	▲與平次霧、お紋蛇日傘、やくざ法華、月夜闇夜、お千代置土産外二篇の股旅小説集。	▲流弾八丁沖、まぼろし花嫁、鶯娘南部旅、お勢以の道外三篇を収めた時代小説集。	▲ジャン・ジアック・ルソアの傳記を小説風に描いたもので、最初の舞臺其他。	▲佐藤信淵の出現した文化年間から明治維新までを描いた歴史小説。

邦枝完二	吉川英治	吉川英治	川口松太郎	鎌田研一	三上於菟吉	三上於菟吉	角田喜久雄	鷺尾雨工	淡邦三	土師清二	廣瀬哲士	今野賢三
まとい女房	武藏	武藏	明治一代女	山室軍平	幽霊賊	雪之丞變化	妖棋傳	吉野朝太平記	與平次霧	流弾八丁沖	新歴史ルソ	黎明に戦う
並四六 製入判 356	上四六 製入判 588	上四六 製入判 568	上四六 製入判 374	洋四六 布入判 458	並四六 製入判 274	上四六 製入判 677	上四六 製入判 490	上四六 製入判 517	並四六 製入判 389	上四六 製入判 469	上四六 製入判 366	上四六 製入判 690
一、〇〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
新小説社	講談社	講談社	新小説社	日本業社	サイレン社	サイレン社	新潮社	春秋社	新小説社	一誠社	春秋社	春秋社
月六	月五	月十	月三	月二	月二	月一十	月六	月三	月六	月一十	月二十	月十
▲まとい女房、津ノ國屋香以、獅子牡丹、淡右衛門兄弟、吉原同會外三篇の時代小説集。	▲東西朝日新聞に連載された小説で、眞實に近い宮本武蔵を描く。	▲人間宮本武蔵の魂と人生を描ける「宮本武蔵」の水火の巻。	▲名作「明治一代女」の外乗合馬車、風流深川唄の二篇の小説をも収めたもの。	▲日本救世軍の總帥山室軍平氏の迂曲曲折の生涯を描けるもの。	▲近代都心の一横断面を活寫し、獵奇と戦慄の渦巻を描ける探偵小説。	▲女形役者雪之丞が父母の仇、土部駿河守を討つまでの復讐と戀の物語。	▲山彦とよぶ将棋の駒の秘密をめぐるつての葛藤を描ける小説で、纏いたち其他。	▲第三巻は吉良泰姫の戀より直義の死を経て正儀京都を回復すまでを収む。	▲與平次霧、お紋蛇日傘、やくざ法華、月夜闇夜、お千代置土産外二篇の股旅小説集。	▲流弾八丁沖、まぼろし花嫁、鶯娘南部旅、お勢以の道外三篇を収めた時代小説集。	▲ジャン・ジアック・ルソアの傳記を小説風に描いたもので、最初の舞臺其他。	▲佐藤信淵の出現した文化年間から明治維新までを描いた歴史小説。

文學(大衆文藝・傳記小説・考證讀物・探偵小説)

大泉 黒石	創作老	子	布三六判	403	一〇〇	春秋社	月二十	▲發端的物語、接續的物語、承前物語の三篇に分けて老子を描ける創作。
日黒 十郎	浪人(物語讀物)	往來物語	上四六判	384	一〇〇	言海書房	月五	▲若い、數人の浪人の生活を描いた小説で、刺客志願、劍客三羽鳥、おろしや其他。
奥平 祥一	若き日の尊徳	尊徳	上四六判	379	一〇〇	春秋社	月三	▲涙多き少年時代から刻苦精勵の青年期に至るまでの尊徳の姿を描く。
白井 喬二	若衆	若衆	上四六判	399	一〇〇	サイレン社	月五	▲美劍士白井權八の國元世發に絡る戀と横暴廣懲の経緯を描ける大衆小説。
藤森 成吉	説小渡邊華山	華山	並四六判	683	一〇〇	改造社	月二十	▲渡邊華山を主題とした純文學的長篇歴史小説。普及版。
長谷川 伸	薬人形の婿	婿	上四六判	402	一〇〇	サイレン社	月六	▲薬人形の婿、おけき湊唄、細川血違磨、三段敵、自分の首外四篇の大衆小説集。
黒沼 健	アリ・パパの呪文	呪文	洋四六判	334	一〇〇	日本公論社	月六	▲セイヤブ女史の探偵小説「アリ・パパの呪文」の續編。
河瀬 廣	當りくじ殺人事件	殺人事件	並四六判	295	一〇〇	黒白書房	月三	▲「怖ろしき藝術」及び「九年母の秘密」の二篇の探偵小説を収む。
伊東 銳太郎	怖ろしき藝術	藝術	並四六判	304	一〇〇	サイレン社	月十	▲「怖ろしき藝術」及び「九年母の秘密」の二篇の探偵小説を収む。
佐野 甚七	小法醫學科學は裁く	裁く	上四六判	872	二〇〇	大同書院	月十	▲科學は裁く及び谷底の死體の二篇の法醫學小説を収む。
大下 宇陀兒	蛾	蛾	上四六判	401	一〇〇	春秋社	月八	▲蛾、風船殺人、戦慄の五百圓、地底の樂園、三角社事件、貫太郎物語の六篇。
井上 良	完全殺人事件	殺人事件	上四六判	376	一〇〇	春秋社	月二十	▲フレンシの探偵小説「完全殺人事件」

文學(探偵小説)

露 下 淳	觀光船殺人事件	殺人事件	上四六判	349	一〇〇	春秋社	月一	▲倫敦を振り出しに犯人と探偵が世界中の港を通つて行く「觀光船殺人事件」の續。
西田 治	消ゆる女	女	洋四六判	326	一〇〇	日本公論社	月七	▲「ビガリス」の探偵小説「消ゆる女」の譯で、イグ・デニランの失踪外二十一章。
別府 三郎	黄色い犬を配せる探偵小説	探偵小説	並四六判	240	一〇〇	黒白書房	月一	▲ブルダア・ニエの港町に次々と起る殺人事件に黄色い犬を配せる探偵小説。
エレイ・クキーン	希臘樞の秘密	秘密	並四六判	342	一〇〇	サイレン社	月四	▲「希臘樞の秘密」を譯せるもの。
エ・S・ガブドナー	偽眼殺人事件	殺人事件	並四六判	294	一〇〇	日本公論社	月二	▲充血した義眼と眼玉のぬけた赤黒い眼高の奇怪な秘密を描ける探偵小説。
アンソニー・ハックレイ	絹靴下殺人事件	殺人事件	洋四六判	346	一〇〇	日本公論社	月十	▲若き女性が次々に殺されてゆく「バアクレイ」の探偵小説「絹靴下殺人事件」の譯。
土屋 光司	絹靴下殺人事件	殺人事件	洋四六判	346	一〇〇	日本公論社	月十	▲古創綺譚(アドラー)ロヂエ街日記(ベルヂエ)霧の夜(デーヴィス)の三篇を収む。
延原 謙	決闘の相手	相手	上四六判	309	一〇〇	春秋社	月五	▲決闘、魚の鱗、鱗、女と瀕死者、無氣味な老醫師其他の探偵短篇小説を収む。
木々 高太郎	決闘の相手	相手	布四六判	302	一〇〇	春秋社	月十	▲ウイリアムスの傑作探偵小説「月光殺人事件」の譯で、遠乗りの途上外十八章。
V・ウイリアムス	月光殺人事件	殺人事件	並四六判	278	一〇〇	日本公論社	月六	▲偽救世主(アポリネル)病める温室(プレイク)作家の最後(ステーマン)外十三篇。
江戸川 乱歩	現代世界探偵小説傑作集	傑作集	洋四六判	467	一〇〇	春秋社	月三	▲京都に起つた小笛殺人事件の真相を描いた犯罪事實小説。
山本 禾太郎	小笛事件	事件	上四六判	374	一〇〇	いぶる社	月三	▲疑感、確信、發見の三幕より成る悲劇を描けるアガサ・クリステイの探偵小説。
クリステイ	悲劇	悲劇	並四六判	287	一〇〇	黒白書房	月二	▲山峽の夜、北水洋逃避行の二篇の探偵小説を収む。
河瀬 廣	悲劇	悲劇	並四六判	287	一〇〇	黒白書房	月二	▲山峽の夜、北水洋逃避行の二篇の探偵小説を収む。
伊東 銳太郎	山峽の夜	夜	上四六判	370	一〇〇	春秋社	月十	▲山峽の夜、北水洋逃避行の二篇の探偵小説を収む。

文學(探偵小説)

アガサ・クリスティー作 原 謙譯	アームストロング著 中西武夫譯	甲賀三郎 死化粧する女	大坂圭吉 死の快走船	伴大矩著 紙魚殺人事件	夢野久作 少女の地獄	末廣浩二 新作探偵小説選集	海野十三 深夜の市長	木々高太郎 人生の阿呆	アントニー・アボット作 新井無入譯	D・セイヤー作 黒沼健譯	アントニー・バクリ作 人見秀夫譯	大下宇陀兒 鼠
世界探偵小説全集(2)	アリの不在証明	かきおろし探偵小説選集(3)	英米探偵小説新傑作選集	かきおろし探偵小説選集(1)	新作探偵小説選集	深夜の市長	人生の阿呆	世界探偵小説選集(1)	世界探偵小説選集(1)	世界探偵小説選集(1)	世界探偵小説選集(1)	世界探偵小説選集(1)
上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判
331	179	289	318	312	246	253	326	338	330	431	298	468
一、三〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
柳香書院	絢天洞	黒白書房	いぶるる社	日本公論社	黒白書房	いぶるる社	春秋社	版畫莊	黒白書房	春秋社	黒白書房	春秋社
月一	月六	月六	月六	月一	月三	月十	月七	月七	月二	月六	月四	月一
▲英國現代の女流作家アガサ・クリスティーの「十二の刺傷」を翻譯せるもの。	▲火曜日の夕方、木曜日の午後、約二時間の後の三幕より成る探偵小説。	▲空家の一室に発見された死化粧を凝らせる美女より端を發せる探偵小説。	▲死の快走船、とむらひ機關車、雪解、デパ1トの絞刑吏外六篇を収めた探偵小説集。	▲グアン・ダインに匹敵する作家ロウスの「ゾルリイ・レインの最後の事件」の譯。	▲白面の殺人鬼を相手に苦闘する一少女が暴露する愛慾地獄の萬華鏡を描ける探偵小説。	▲「露の鏡」(金來成) 綺譚・六三四一(光石介太郎) 棒紅殺人事件(星庭俊一) 外二篇外二篇の短篇を収めた探偵小説。	▲雑誌「新青年」に連載された長篇探偵小説で主人公たる良吉を純粹な體験描寫で描く。それに挑戦する紐育警察部長を中心に描く。	▲シエルスベリイ女子大學に突如起つた怪事件を描く。	▲平和な農場に招待された六人の客の中の女蕩しが殺された事件を扱つた探偵小説。	▲假裝情死、帆船殺人、老院長の幸福、白面鬼、嵐外四篇の探偵小説を収めたもの。	▲マイヤリスが探偵小説賞金一萬を得た傑作「トレント殺害事件」の譯。	▲二十世紀鐵假面、時史三種、源内燒六術和尚の三篇の探偵小説を収む。

文學(探偵小説)

イサベル・マイヤリス作 寺田 龍譯	小栗虫太郎 二十世紀鐵假面	藤山安夫譯 廢人	北町一郎 白日夢	デヴィッド・フロム作 大矩譯	マシヤール作 爆弾	水谷 準譯	横溝 正史 薔薇と鬱金香	城 昌 幸 ひと夜の情熱	ルーフス・キング著 泉 一郎譯	モリス・ルブラン著 保 藤 緒譯	蒼井 雄 探偵船 富家の惨劇	G・D・Hコル作 西村 久譯	小栗虫太郎 紅發駱駝の秘密
世界探偵小説全集(2)	二十世紀鐵假面(15)	廢人(15)	白日夢	英米探偵小説新傑作選集(1)	世界探偵小説選集(1)	世界探偵小説選集(1)	薔薇と鬱金香	ひと夜の情熱	白魔の一夜	の冒険二つ 富家の惨劇	探偵船 富家の惨劇	文化村の殺人	紅發駱駝の秘密
上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判
308	361	282	488	328	281	403	308	286	320	384	326	361	
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	
サイレン社	春秋社	黒白書房	春秋社	日本公論社	黒白書房	春秋社	昭森社	サイレン社	春秋社	春秋社	日本公論社	春秋社	
月三	月九	月六	月四	月五	月二	月二十	月四	月六	月二	月三	月十	月二	
▲二十世紀鐵假面、時史三種、源内燒六術和尚の三篇の探偵小説を収む。	▲廢人團に戦を挑む英情報局員と妙齡の一女性を描ける探偵小説。	▲野球戦の劇的本舞打の行方を振出しに相次いで突發する殺人事件を描く探偵小説。	▲風韻揃すべき筆致のうちに凛冽たる人間心理の明暗を描ける探偵小説。	▲國際的陰謀の渦に巻き込まれた幼きカアリ姉弟の運命を描ける探偵小説。	▲蜘蛛と百合、蠟人、貝殼館綺譚、面、猫と蠟人形、薔薇と鬱金香外四篇の探偵小説集。	▲たくらみ、ひと夜の情熱、短銃、偽計、面白い話其他より成る怪奇探偵情艶小説集。	▲キングの「白魔の一夜」及びボリストの「失踪した男」「死人の靴」の三篇を収録す。	▲有名な歌姫エリザベス・オルマンの怪死に發端せる事件を描く探偵小説。	▲有名な歌姫エリザベス・オルマンの怪死に發端せる事件を描く探偵小説。	▲探偵小説賞首席當選作で、慘劇相づく船富家を主題に描く。	▲倫敦近郊の文化村に起つた毒殺事件を描き保守的な郊外居住者を諷刺せる探偵小説。	▲明治より現代を舞臺にして紅發駱駝の秘密を描ける探偵小説。	

文學(探偵小説)

クキ	井上英三	變装の家	洋四六判	322	一〇〇〇	日本公論社	八月	▲エラリー・クイーンの眞面目を發揮した力作「變装の家」を翻譯せるもの。
大下	宇陀兒	ホテル・紅館・赤い蝙蝠	洋四六判	243	一〇〇〇	末廣書房	月二十	▲「ホテル・紅館」及び「赤い蝙蝠」の二篇の探偵小説を収む。
井上	F.W. クロフツ著 良夫譯	ボン・スン事件	洋四六判	289	一〇〇〇	春秋社	月六	▲全篇がドラマチックに描かれたクロフツの傑作で、ルース莊園の變事外十五章。
伴大	J. デイクソン・カア作 大矩譯	魔棺殺人事件	洋四六判	295	一〇〇〇	日本公論社	月三	▲棺を破つて立ち上る屍體! 魔術學者の怪死をめぐる巧妙な密室の殺人事件を描く。
小栗	虫太郎	魔童	洋四六判	236	〇〇〇	黒白書房	月四	▲怪奇と妖異を取らせた探偵小説「魔童子」を収め、「紅毛傾城」を附載す。
神戸	政郎	溝口アパート	洋四六判	346	一〇〇〇	四條書房	月十	▲自稱英文學者溝口茂助の經營する溝口アパートに住む人々の動靜や事件を描ける長編。
蘭	郁二郎	探偵夢	洋四六判	276	一〇〇〇	古今莊	月十	▲夢鬼、魔像、森の囁き、歪んだ夢、自殺、鐵路の六篇の探偵小説を収む。
酒井	M.G. エバア・ハート作 嘉七譯	霧中殺人事件	洋四六判	281	一〇〇〇	日本公論社	月九	▲米國の新進女流作家エバアハートの最も傑出した作品「霧中殺人事件」の翻譯。
楠瀬	正澄	名刑事捕物實話	洋四六判	456	一〇〇〇	講談社	月七	▲名探偵の體驗談中より犯罪の原因や動機、捜査の經過中波瀾多く興味あるものを収む。
甲賀	三郎	ものいふ牌	洋四六判	373	一〇〇〇	春秋社	月八	▲ものいふ牌、死後の復讐「強盗、生ける屍處美人の眼外三篇の中篇探偵小説集」。
三角	寛	探偵桃色の捕縄	洋四六判	407	一〇〇〇	新潮社	月九	▲隱影の金指輪、十八人斬り、許して死んだ美人、桃色の捕縄外四篇の探偵捕物物語。
岡田	眞吉	妖魔の復讐	洋四六判	291	一〇〇〇	黒白書房	月一	▲妖婦カリオストロと俠盜ルパンとの快闘を描ける探偵小説。
多々	羅四郎	臨海莊事件	洋四六判	308	一〇〇〇	春秋社	月五	▲臨海莊と云ふアパートに起つた奇怪なる殺人事件を取扱つた探偵小説。

文學(探偵小説・諧諷小説・軍事小説・戦記文藝)

和	田邦坊	ウチの女房にや髭がある	上四六判	323	一〇〇〇	新陽社	五月	▲家の女房にや髭がある、女房戦術、お若い時は朗かにの三篇のユーモア小説を収む。
柳	家金語樓	拾萬圓の夢	上四六判	322	一〇〇〇	日業社	月二十	▲拾萬圓の夢、廣告戦、明るい家庭、ちから水、東京驛、法學士其他の傑作落語を収む。
中	野實	女軍突撃隊	上四六判	328	一〇〇〇	千代田書院	月七	▲長篇諧諷小説「女軍突撃隊」短篇諧諷小説「巖ちやんとトロフイー」(東は西)を収む。
林	二九太	新婚テキキスト	上四六判	427	一〇〇〇	昭森社	月六	▲青酸加里時代、海とプチ・ブル、新婚テキキスト、ポーナスを焼く其他のユーモア小説集。
杉	森鵬程	ユーモア物語	上四六判	376	一〇〇〇	言海書房	月二	▲放送喜劇議會大騒動記、幕末名物男女座談會、政界掛合萬歳其他のユーモア物語集。
柳	家金語樓	愉快な水兵さん	上四六判	283	一〇〇〇	日業社	月七	▲滑稽小説「愉快な水兵さん」及び「珍小僧敬太郎」の二篇を収録す。
獅子	文六遊	遊覽列車	上四六判	414	一〇〇〇	改造社	月一	▲ユーモア小説、諷刺小説、コント等を収めたもので、西洋變遷傳其他。
獅子	文六榮	天	上四六判	308	一〇〇〇	白水社	月一十	▲長篇ユーモア小説「樂天公子」及び「靈魂工業」外五篇の短篇諧諷小説を収む。

▲支那を舞臺に取つた國際小説で、弘聯隊長の傳奇的實話より取材す。

文學(翻譯小説)

永田 逸郎	今 日 出 海 譯 作	原 百 代	岩 倉 具 榮	小 田 嶽 夫	生 桑 島 遼	小 林 正	中 島 健 藏	吉 村 正 一	園 信 一	石 中 象 治	杉 捷 夫	小 山 省 三	ニコライ・ゴオリ
地 果 行	地 の 果 行	魂 を 衡 る 男	太 陽 期	説 小 大 過 渡 期	ス タ ン ダ ア ル 選 集	ス タ ン ダ ア ル 選 集	ス タ ン ダ ア ル 選 集	カ ミ 人 生 サ ー カ ス	白 き 處 女 地	少 年 時 代 の 變 轉	死 の 如 く 強 し	死 せ る 魂	死 せ る 魂
並 四 六 判	並 四 六 判	並 四 六 判	上 四 六 判	布 四 六 判	並 四 六 判	並 四 六 判	並 四 六 判	並 四 六 判	並 四 六 判	布 四 六 判	並 四 六 判	並 四 六 判	並 四 六 判
311	280	135	193	440	293	298	357	321	219	315	393	412	412
一〇三	一〇三	九三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	八六	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三
第 一 書 房	白 水 社	作 品 社	作 品 社	第 一 書 房	竹 村 書 房	竹 村 書 房	竹 村 書 房	白 水 社	改 造 社	建 設 社	白 水 社	慈 雨 書 洞	慈 雨 書 洞
月 九	月 一	月 八	月 六	月 八	月 八	月 二	月 一	月 七	月 二	月 七	月 三	月 三	月 三
▲殺人罪を犯してスベイン外人部隊に投じた一佛蘭西人と其を追ふ一探偵を主人公に描く		▲「アンドレ・ジイド」の「地の糧」及び「ひと様々」の二篇の翻譯		▲「プロシヤ士官、太陽、微笑、山間の十字架架」と稱する男の手記風に成る小説	▲「世界大戦に佛聯格將校として出征した「私」と稱する男の手記風に成る小説	▲「伊太利貴族の思ひ出、娼薬、バリアノ公爵夫人外三篇の短篇小説を収む。	▲「動亂の支那及大膽なる新女性性の戀愛行動と彷徨する若きインテリ群を描いた小説。	▲「プロシヤ士官、太陽、微笑、山間の十字架架」の四篇の短篇を収め男女相要論を附す。	▲「世界大戦に佛聯格將校として出征した「私」と稱する男の手記風に成る小説	▲「伊太利貴族の思ひ出、娼薬、バリアノ公爵夫人外三篇の短篇小説を収む。	▲「動亂の支那及大膽なる新女性性の戀愛行動と彷徨する若きインテリ群を描いた小説。	▲「プロシヤ士官、太陽、微笑、山間の十字架架」と稱する男の手記風に成る小説	▲「世界大戦に佛聯格將校として出征した「私」と稱する男の手記風に成る小説

文學(翻譯小説)

今 日 出 海 譯 作	菊 池 仁 康	野 阿 千 伊	廣 津 和 郎	杉 捷 夫	齊 田 禮 門	留 川 幸 子	深 澤 正 策	堀 口 大 學	菅 野 大 學	荻 原 弘 夫	大 石 常 雄	大 石 常 雄
二 つ の 交 響 樂	プ ー シ ャ キ ン 全 集	小 山 岳 氷 河 を 越 えて	美 貌 の 友	ビ ュ ル と ジ ャ ン	パ ル ム の 僧 院	母	母	南 方 飛 行 便	南 方 飛 行 便	ナ ル チ ス と ゴ ル ト ム	翼 の あ る 下 蛇	翼 の あ る 上 蛇
洋 四 六 判	布 四 六 判	布 四 六 判	並 四 六 判	並 四 六 判	並 四 六 判	並 四 六 判	布 四 六 判	並 四 六 判	並 四 六 判	布 四 六 判	並 四 六 判	並 四 六 判
308	282	243	455	376	315	665	174	336	243	418	499	424
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	九〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
白 水 社	ボ ン 書 店	ボ ン 書 店	日 本 公 論 社	那 須 書 房	白 水 社	サ イ レ ン 社	教 文 館	第 一 書 房	第 一 書 房	建 設 社	耕 進 社	耕 進 社
月 二 十	月 二 十	月 二	月 二 十	月 一	月 八	月 六	月 九	月 二	月 四	月 十	月 十	月 五
▲「ジイド」の「田園交響樂」と「イザベル」の二篇を収む。	▲第二巻はプロロウスキイ、スベードのクイン、ベヨートル大帝の黒ン坊の三篇。	▲「ベルキンの小説、ガリユヒン村の歴史、エジプトの夜、未完の原稿、解説を収載	▲「鼓立する大壁、星明りの氷河等を舞臺にアルベンの精神と感情を描いた山岳小説。	▲「青年が社會的存在をかち得たかを描く。	▲「社會の全面を潰破しつゝ如何に美貌多才の青年が社會的存在をかち得たかを描く。	▲「鼓立する大壁、星明りの氷河等を舞臺にアルベンの精神と感情を描いた山岳小説。	▲「ベルキンの小説、ガリユヒン村の歴史、エジプトの夜、未完の原稿、解説を収載	▲「鼓立する大壁、星明りの氷河等を舞臺にアルベンの精神と感情を描いた山岳小説。	▲「青年が社會的存在をかち得たかを描く。	▲「社會の全面を潰破しつゝ如何に美貌多才の青年が社會的存在をかち得たかを描く。	▲「鼓立する大壁、星明りの氷河等を舞臺にアルベンの精神と感情を描いた山岳小説。	▲「ベルキンの小説、ガリユヒン村の歴史、エジプトの夜、未完の原稿、解説を収載

永戸俊雄著	富澤純一郎著	梶原勝三郎著	マキシム・ゴールキー著	内田岐三雄著	堀口大學生著	ラ・ロクスラーヌ著	新居格著	堀口大學生著	杉本良吉著	モオリアック著	中村光夫著	新居格著	バアル・バック著	昨上賢造著
流	リユシエン	四	戀	猶太人の悲劇	山と風と太陽と泉	無人島漂流記	息子達	未完の告白	マルチンの罪	ベルエイル家の人々	ベラ	分裂せざる家	復	復
四六	四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六
324	306	638	301	246	380	460	240	394	272	549	417	342	342	342
二〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
新潮社	作品社	中央公論社	西東書林	第一書房	第一書房	第一書房	第一書房	芝書店	作品社	白水社	第一書房	改造社	改造社	改造社
月二十	月六	月七	月十	月十	月七	月六	月九	月四	月九	月一十	月二十	月二	月二	月二
▲スベイン名物の地方風物に取材しその異常興奮の旋風中に動く人物を描き出す小説。	▲ユナニスムの作家ロマンが若く美しい現代娘をヒロインにした長篇小説。	▲ロシヤ・インテリゲンチヤの歴史、社會的體験、没落過程を描いた「四十年」の第三部。	▲ユダヤ生れの資本家ダウイッド・ゴルドを主人公にせる小説。	▲佛文壇の行動的前線に立つシヤンソンの敵、白い歌、他國の女外一篇の中篇を収む。	▲單身無人の孤島に漂流した一船長の數奇な體験を物語る。	▲軍閥、匪賊、逸樂蛇艶の女、富饒と貧困、軍閥の醜態等を配して支那農民生活を描く。	▲戦亂、匪賊、逸樂蛇艶の女、富饒と貧困、軍閥の醜態等を配して支那農民生活を描く。	▲エスプリの無軌道を往く一少女の反抗に依つて描いたジイドの新しき戀愛觀。	▲パフメーチェフの最も代表的な作品「マルチンの罪」を翻譯せるもの。	▲輕騎兵下士官上りのチエロワがパリ社會界に躍り出すまでの愛慾を描ける長篇小説。	▲癡者への接吻、母の二篇の小説を収めたもの。	▲豪放にして深刻なる現代支那の農民を描ける三部作「大地の家」の第三部。	▲ミルトンの「復樂園」を譯し註を施せるもの。	▲ミルトンの「復樂園」を譯し註を施せるもの。

原トス久一郎著	浦松佐美太郎著	ウイム・パル著	湯淺芳子著	近藤光治・竹内道之助著	蘇武緑郎著	堀口大學生著	マキシム・ゴールキー著	山本政喜著	高橋健二著	上野壯夫著	ツルゲ・テフ著	中山三郎著	
アンナ・カレリーニ	アルプス	アルプス	私	若き娘	わが幼年時代	わが青春記	わが生立の記	戀	ルーマニア日記	ルーマニア日記	ルーマニア日記	ルーマニア日記	
洋四六	並四六	並四六	上四六	上四六	並四六	並四六	並四六	洋四六	布四六	布四六	布四六	布四六	
530	293	315	343	421	450	345	450	445	208	275	806	806	
一、五〇	九〇〇	九〇〇	一、二〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	
新潮社	岩波書店	岩波書店	ナウカ社	三笠書房	那須書房	第一書房	那須書房	第一書房	建設社	ナウカ社	第一書房	第一書房	
月一	月九	月五	月七	月一	月六	月一	月六	月十	月八	月三	月五	月五	
▲下巻は第五篇より第八編まで及び新刊、鶏卵大の發物、佛陀外二篇の短篇を収む。	▲下巻は一八六四年の登攀の上巻に續く箇所からマツタイホルン初登攀までを収む。	▲難攻不落と云はれたアルプスの征服記で、上巻は發端よりエクランの初登攀までを収む。	▲社會に對する憎惡感を一勞働者の生活記録と社會への愛に眼覺める一勞働者の生活記録と。	▲「短篇「若き娘の告白」の譯。	▲「短篇「若き娘の告白」の譯。	▲「短篇「若き娘の告白」の譯。	▲「短篇「若き娘の告白」の譯。	▲「短篇「若き娘の告白」の譯。	▲「短篇「若き娘の告白」の譯。	▲「短篇「若き娘の告白」の譯。	▲「短篇「若き娘の告白」の譯。	▲「短篇「若き娘の告白」の譯。	▲「短篇「若き娘の告白」の譯。

文學(翻譯文庫類)

ジョルジュ・サンド作 宮崎 嶺雄譯	愛の妖精	並 菊半 製 裁	303	四〇	岩波書店	月九	▲ジョルジュ・サンドの田園小説の第三作たる「愛の妖精」の翻譯。
コレット作 福永 英二譯	青い野に生れたる	並 菊半 製 裁	149	三三	春陽堂	月九	▲十六歳の少年と十五歳の少女を主人公に性の發芽を描けるコレット女史の小説。
チャック・ロンドン作 本多 顯彰譯	荒野に生れたる	並 菊半 製 裁	303	四〇	岩波書店	月二	▲荒野に生れたる狼の一生を描いた動物小説で、荒野に生れたる外四部。
トルストイ作 宮原 晃一郎譯	生ける屍・闇の力	並 菊半 製 裁	300	六〇	春陽堂	月四	▲トルストイの「生ける屍」及び「闇の力」の二篇を収む。
マキシム・ゴオリキイ著 平井 肇譯	伊太利物語	並 菊半 製 裁	308	六〇	改造社	月五	▲ゴオリキイの前後十年に及ぶ伊太利での生活の中に書かれた作品集で、樂想外廿六篇。
ホフマン作 秋山 六郎兵衛譯	牡猫ムルの人生	並 菊半 製 裁	311	九〇	岩波書店	月四	▲下巻は終養時代の偶然の氣紛れた戯れ、より高き教養の有益なる結果、成熟時代の二節。
ジャック・コクトオ著 東郷 青児譯	怖るべき子供達	並 菊半 製 裁	198	六〇	新潮社	月十	▲コクトオの「怖るべき子供達」の邦譯。
スタンダール著 桑原 武夫譯	カストロの尼	並 菊半 製 裁	146	六〇	岩波書店	月五	▲尼僧に戀する武士を描けるスタンダールの「カストロの尼」の譯。
シャミツソイ作 井汲 越次譯	影を失くした男	並 菊半 製 裁	127	六〇	岩波書店	月一十	▲祖國を失へるもの、憤みを藝術化するシャミツソイの「影を失くした男」の翻譯。
メレジュコフスキイ著 米川 正夫譯	神々の死	並 菊半 製 裁	303	九〇	新潮社	月七	▲基督教者ジニリアンの一生を描いたメレジュコフスキイの三部作「下巻は第二篇より」。
メレジュコフスキイ著 米川 正夫譯	神々の死	並 菊半 製 裁	255	六三	新潮社	月八	▲内的存在と外的現實と表現に關するあらゆる場合を諷刺せる喜劇小説。
アンドレ・ジイド作 河上 徹太郎譯	鎖を離れたプロメテ	並 菊半 製 裁	120	三〇	岩波書店	月六	▲チエーホフの名作「世間」及び「妻」を収録す。
チエーホフ作 神西 清譯	世間・妻	並 菊半 製 裁	206	九〇	岩波書店	月六	

文學(翻譯文庫類)

ドレーデ著 櫻田 佐譯	月曜物語	並 菊半 製 裁	290	四〇	岩波書店	月二	▲最後の授業より始まつて盲の皇帝に終る四十一篇の短篇を収む。
ブウルジエ作 木村 太郎譯	黒衣の花嫁	並 菊半 製 裁	302	六〇	春陽堂	月二十	▲歐洲大戦を背景としに情熱の激しさを描いた長篇「ラザリイヌ」の譯。
アルツイバシエフ著 米川 正夫譯	最後の線	並 菊半 製 裁	450	〇三	新潮社	月五	▲人生行路の最後の線たる死線を描ける奇怪な物語「最後の線」の前編の譯。
アルツイバシエフ著 米川 正夫譯	最後の線	並 菊半 製 裁	413	〇五	新潮社	月七	▲アルツイバシエフの小説「最後の線」の後編。
ラ村 詳一著	シエクスピア物語	並 菊半 製 裁	245	〇八	春秋社	月六	▲嵐、眞夏の夜の夢、冬物語、から騒ぎ、御意のまゝ、ヴェニス商人外五篇。
ラ村 詳一著	シエクスピア物語	並 菊半 製 裁	222	〇八	春秋社	月六	▲悍婦ならし、間逆の喜劇、以尺報尺、ハムレット、ベリクライズ外四篇。
コナン・ドイル作 菊地 武一譯	シャーロック・ホームズの冒険	並 菊半 製 裁	260	六〇	岩波書店	月二	▲コナン・ドイルの名作「シャーロック・ホームズの冒険」の譯。
ロマンローラン著 豊島 與志雄譯	ジャン・クリストフ	並 菊半 製 裁	279	九〇	岩波書店	月一	▲本巻に於ては「ジャン・クリストフ」の第十卷新しき日を収む。
バルザック作 和田 顯太郎譯	シユレーアン	並 菊半 製 裁	245	六〇	春陽堂	月九	▲後篇はこの物語の最後の事件を収めたもので、第三部「明日なき日」。
ツルゲーネフ作 湯浅 芳子譯	處女地	並 菊半 製 裁	259	六〇	岩波書店	月七	▲ツルゲーネフの傑作「處女地」前篇の譯。
湯浅 芳子譯	處女地	並 菊半 製 裁	247	九〇	岩波書店	月一十	▲十九世紀の七十年代に於けるロシアの人民派青年を描ける處女地の後篇。
ハウプトマン著 上道 直夫譯	情熱の書	並 菊半 製 裁	268	六〇	春陽堂	月九	▲ハウプトマンの小説「情熱の書」後篇の翻譯。
伊藤 武雄譯	僧の婚禮	並 菊半 製 裁	148	六〇	岩波書店	月七	▲ダンテの口を通して語られる性格と運命との分つべからざる關係を描く。

文學(翻譯文庫類)

アン・トーン・チェホフ著 秋庭俊彦譯	チエホフ傑作集	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	六 入判	洋	新潮社	四月	▲許嫁、可愛い女、女主人、貞操、子供たち ▲他のチエホフの短篇傑作を収む。
ドオデ子譯	チエホフ	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	春陽堂	九月	▲第二部はアンドレ鐵工所、螺盤工場、機ゼ ▲ナイドの持参金其他より成る。
八木さわ子譯	チエホフ	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	春陽堂	九月	▲第三部はセシルからきつと彼女は来ないま ▲でを収む。
ドオデ子譯	チエホフ	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	春陽堂	九月	▲結婚といふ汚名の爲に眞實の愛に生きるを ▲得ない薄命の佳人ゴオテイエを描いた小説。
チユーマ作	チエホフ	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	春陽堂	九月	▲ワイルドの最初にして且つ唯一の長篇小説 ▲たる「ドリアン・グレイの畫像」の譯。
西村孝次譯	ドリアン・グレイの畫像	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	岩波書店	九月	▲デイツケンズ <small>ズ</small> の歴史小説「二都物語」の第 ▲一卷及び第二巻を収む。
佐々木直次郎譯	二都物語	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	岩波書店	九月	▲アンドレ・ジイドの「贖金つくりの日記」 ▲を翻譯せるもの。
堀口大學譯	贖金つくりの日記	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	新潮社	四月	▲子供達と彼等の所へ現はれる幽霊との關係 ▲を突き止めようとする心理過程を描く。
富田彬譯	ねぢの回	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	岩波書店	九月	▲美しい處女哲學者ハイベシアと年若き修道 ▲僧を中心に掲げる小説の上巻。
村山勇三譯	ハイベシア	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	春秋社	七月	▲下巻は「一條の閃光」より「各人各處へ」 ▲までを収む。
村山勇三譯	ハイベシア	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	春秋社	七月	▲ジイドの精神的發展途上の一里程標であり ▲彼の懺悔の書である「背徳者」を収む。
川口篤譯	背徳者	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	岩波書店	九月	▲デルマリーの「パッド・ガール」の前編を譯 ▲せるもの。
ウイニア・デルマー著 牧逸馬譯	パッド・ガール	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	新潮社	五月	▲ウイニア・デルマーの小説「パッド・ガ ▲ールの後編」
ウイニア・デルマー著 牧逸馬譯	パッド・ガール	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 六〇	洋	新潮社	五月	

文學(翻譯文庫類)

ヘルデルリン作 波邊格司譯	一粒の麥若し死なずば	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	六 二六七	洋	岩波書店	二月	▲ヒューベリオン <small>ン</small> の精神的環境とその生ひ立 ▲ちを叙べ作者の哲學的主觀を取扱つた小説。
アン・トーン・チェホフ著 根津嘉三譯	一粒の麥若し死なずば	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	六 二六七	洋	岩波書店	二月	▲ジイドの名作「一粒の麥若し死なずば」の ▲譯。
ノギコフ・プリボイ著 平井隆譯	二つの魂・餘計者	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 一四二	洋	改造社	九月	▲日露戦争の俘虜物語「二つの魂」及び「餘計 ▲者」を収む。
モオパッサン作 林文雄譯	二つの魂・餘計者	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 一四二	洋	改造社	九月	▲準士官あがりのデュロワの愛慾生活を描け ▲る「ペラミ」の第一部の譯。
モオパッサン作 林文雄譯	二つの魂・餘計者	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 一四二	洋	改造社	九月	▲モオパッサンの「ペラミ」の第二部の譯。
アベ・ブアレオ作 大久保洋譯	マノン・レススコオ物語	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	六 二四六	洋	春陽堂	一月	▲近代的結婚型の女マノン・レススコオを主人 ▲公にせる小説。
アベ・ブアレオ作 大久保洋譯	マノン・レススコオ物語	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	六 二四六	洋	春陽堂	一月	▲マルコ・ポーロ旅行記の譯で、ポーロの傳 ▲記、人物、本書の價值等に就いて記述す。
深澤正策譯	マルコ・ポーロ旅行記	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	六 二四六	洋	改造社	十月	▲みづらみ、廣間で、運咲きの善後、アング ▲リカーの四篇を収めた短篇集。
關ニトルム作 關泰祐譯	湖の麗人	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 一三三	洋	岩波書店	三月	▲湖上之美人の譯題の下に明治以來既に人に ▲贈炎せるスコットの「湖の麗人」の翻譯。
入江直祐譯	湖の麗人	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 一三三	洋	岩波書店	三月	▲メルストツク村の悲歌隊と昔ながらの向高 ▲廊の樂師達を描いた物語。
阿部知二譯	湖の麗人	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 一三三	洋	岩波書店	三月	▲飼犬がアラスカへ賣られてそこで自然に狼 ▲にかへつて行くプロセスを描けるもの。
花岡兼定譯	湖の麗人	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 一三三	洋	岩波書店	三月	▲悲壯の大津、馬尾蘆の海、水海の旅、反歌 ▲より成るユリアンの旅の翻譯。
山内義雄譯	ユリアンの旅	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 一三三	洋	春陽堂	九月	▲シニツツレルの三幕より成る戯曲「戀愛 ▲三昧」の翻譯、原名リイペライ。
シニツツレル作 森鷗外譯	戀愛三昧	世界名作家文庫	並 菊半 製 裁	三 一三三	洋	岩波書店	六月	

マクシム・ゴリキイ著 原 惟 人 譯	私の大學。番人。 初戀について	並 菊 半 載 製 357	三〇	岩 波 書 店	三 月	▲▲バクル・ハイゼの小説「忘れぬ言葉」を 翻譯せるもの。 ▲▲ゴリキイの「私の大學」「番人」「初戀に ついて」の三篇を收む。
-----------------------	--------------------	---------------------	----	---------	-----	---

山 本 文 庫

定價各冊十・各冊四十頁乃至六十頁
送料三錢・山本書店

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	謝 佐 戸 平 齊 草 岸 大 竹 石 今 山 辻 三 佐 エ 十 川 野 川 野 野 山 ア 比 ア 中 藤 佐 野 川 野 野 山 ア 比 ア 中	百 小 田 ソ ヴ 眞 謝 從 ゲ 青 ア 地 小 青 人 花 鳥 の 園 大 尉 の お 祭 祭 記 葉 春 記 抄 詩 言 の 村 英 園 大 尉 の お 祭 祭 記 葉 春 記 抄 詩 言	紙 語 學 詩 茶 語 嬢 祭 記 葉 春 記 抄 詩 言 紙 語 學 詩 茶 語 嬢 祭 記 葉 春 記 抄 詩 言	並 菊 半 載 製 108	三〇	岩 波 書 店	三 月	▲▲バクル・ハイゼの小説「忘れぬ言葉」を 翻譯せるもの。 ▲▲ゴリキイの「私の大學」「番人」「初戀に ついて」の三篇を收む。
-------------------------------------	---	---	--	---------------------	----	---------	-----	---

眞 船 豐 颯	版 中 正 夫 赤	並 四 六 判 製 311	九〇	双 雅 房	十 月	▲▲故郷、傾家の人、赤鬼、爲三の四篇の戯曲 を收む。 ▲▲鏡、鼠落し、蛇、山鳩、狐舎の五篇を收め た戯曲集。一書及版。
---------	-----------	---------------------	----	-------	-----	--

戯

曲

44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31	伊 藤 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 ト ハ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ シ	勝 予 ア 馬 婚 乙 鏡 銀 魔 晚 ラ 北 鋸 愛 ち 予 ア 馬 婚 乙 鏡 銀 魔 晚 ラ 北 鋸 愛 誇 エ ィ 婚 乙 鏡 銀 魔 晚 ラ 北 鋸 愛 れ ジ エ 婚 乙 鏡 銀 魔 晚 ラ 北 鋸 愛 る エ ィ 婚 乙 鏡 銀 魔 晚 ラ 北 鋸 愛 の エ ィ 婚 乙 鏡 銀 魔 晚 ラ 北 鋸 愛 歌 エ ィ 婚 乙 鏡 銀 魔 晚 ラ 北 鋸 愛	歌 曲 紙 車 約 譚 拔 馬 秋 子 談 歌 歌 曲 紙 車 約 譚 拔 馬 秋 子 談 歌	並 四 六 判 製 173	九〇	白 水 社	二 月	▲▲故郷、傾家の人、赤鬼、爲三の四篇の戯曲 を收む。 ▲▲鏡、鼠落し、蛇、山鳩、狐舎の五篇を收め た戯曲集。一書及版。
---	--	---	--	---------------------	----	-------	-----	--

武藤 貞一	吉田 絃二郎	林 二九太	穂積 純太郎	瀬戸 英一	三宅 由岐子	翁 久允	谷口 雅春	宇野 信夫	伊馬 鶴平	齋藤 豊吉	仲澤 清太郎	香匠 谷英一
廢帝ニコラス	二條城の清正	大東京は曇り後晴れ	タノンポポ女學校	瀬戸英一脚本選集	愁記	迦如來	釋迦・維摩・耶蘇	巷談宵宮雨	桐の木の横町	女の世	裏町感化院	源氏物語
上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	並四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	布四六 製入判	和四六 製入判	並四六 製入判	並四六 製入判	並四六 製入判	上四六 製入判
351	319	448	316	434	406	134	377	310	296	215	299	243
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
春秋社	新潮社	昭森社	西東書林	岡倉書房	双雅房	日本書房	光明思想會	共同書籍	西東書林	西東書林	西東書林	河出書房
六月	一月	七月	二月	五月	五月	三月	十一月	十二月	六月	八月	九月	五月
<p>▲源氏の晩年に生れた薫君を主人公に描ける五幕の戯曲。</p> <p>▲浮標のない港・都會、羅針盤のない船・都會、盲目の深海魚・都會の三篇の脚本を収む。</p> <p>▲女の世界、春怨尼、にんしん、女・々・女、抜けうらの五篇を収めた喜劇脚本集。</p> <p>▲桐の木横町、ネオンの子たち、猫と税金、烏と燕尾服、毛糸風俗の五篇の喜劇脚本集。</p> <p>▲雪地獄、巷談宵宮雨、人情新小判一兩、子別れ街道、旅は道づれ外二篇の戯曲を収む。</p> <p>▲釋迦と維摩詰(三幕)耶蘇傳(五幕)の二篇の戯曲及び劇合評を収む。</p> <p>▲六幕にて釋迦を描ける戯曲。</p> <p>▲晩秋、母の席、姉の不幸、喪服、春愁記の五篇の戯曲を収む。</p> <p>▲夜の鳥、新四谷怪談、親、二筋道初篇、二筋道終篇、藤十郎の戀の六篇を収めた脚本集。</p> <p>▲タンポポ女學校、失業侍氣質、大軍の答案用紙外二篇の喜劇脚本を収む。</p> <p>▲大東京は曇り後晴れ、アバートの親分外八篇を収めたサラライマンユウ ア戯曲集。</p> <p>▲二條城の清正、義經出陣、名残の梅ヶ香、豊臣三代記、沙門空海外二篇の戯曲を収む。</p> <p>▲廢帝ニコラス(三幕)光秀の首級(一幕)三幕、西郷と山岡鐵舟(一幕)外二篇の戯曲集。</p>												

濱野 豊	秦 豊	昇 曙	中村 白	土井 逸	モリエール	クラリス	佐々木 直次郎	久 保 栄	シ ル	長谷川 伸	三橋 一夫	野村 政夫	島村 龍三
フアウスト	フアウスト	どん底	どん底	守銭奴	守銭奴	シタイン家の人々	シタイン家の人々	群	群	山の	山縣大貳	令女脚本集	戀愛都市東京
並四六 製入判	並四六 製入判	並四六 製入判	並四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	並四六 製入判	並四六 製入判	並四六 製入判	並四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判
297	529	296	154	235	401	121	233	228	205	94	228	205	94
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
改造社	資文堂	改造社	岩波書店	學藝社	改造社	岩波書店	春陽堂	西東書林	一成社	西東書林	新小説社	西東書林	西東書林
十一月	九月	八月	二月	六月	七月	二月	十一月	九月	二月	二月	七月	九月	五月
<p>▲風濤時代のドイツ社會に對する憤激を描いた五幕より成る戯曲。</p> <p>▲オスカール・ワイルドの戯曲「サロメ」を翻譯せるもの。</p> <p>▲シユロツフエンシタイン家の人々(五幕)ノルマン王ロベルト・ギスカアルの二篇。</p> <p>▲モリエールの「守銭奴(五幕)及び「俄醫者(一幕)」の譯。</p> <p>▲ゴリキイの名作「どん底(四幕)」の譯。</p> <p>▲ゴリキイの代表的傑作「どん底(四幕)」と小説「會て人間であつた人々」の二篇。</p> <p>▲ゲエテの名作「ファウスト」の第一部及び第二部を収む。</p> <p>▲報復と自由解放の英雄として國難克服をモットオとして描ける五幕より成る戯曲。</p>													

文學 (翻譯戲曲・演劇史・演劇一般)

クラリス ト著 演野 修譯	ホムブルクの子	並 菊半製	230	六〇	改造社	月一十	▲プロシヤの國民の偶像であるホムブルク公子を人間として描いた五幕より成る戯曲。
エルマー・ライス作 杉木 喬譯	街の風景	並 四六製	308	一〇〇	健文社	月八	▲地下鐵(九場)及び街の風景(三幕)の二篇の戯曲を収録。
シニツツレル作 茅野 蕭譯	緑の鵲	並 菊半製	119	三〇	岩波書店	月一十	▲「緑の鵲」と「つれあひ」の二篇の戯曲を収めたもの。
ゴーリキイ作 八住 利雄譯	野蠻人達・敵・子供達	並 菊半製	383	九〇	改造社	月八	▲戯曲集で、「野蠻人達」(四幕)、「敵」(三幕)、「子供達」(一幕)を収む。
山三 龍譯	雷雨	洋新編 並 菊半製	287	一〇〇	サイレン社	月二	▲現代中國に於ける最も若き劇作家曹禺氏の四幕より成る戯曲「雷雨」の譯。

(F) 演劇・映畫

演劇史・演劇一般

飯塚友一郎	演劇研究の方法	洋新編 布入判	369	二二〇	岡倉書房	月二	▲演劇研究の課題と方法に就いて論述した書で、演劇の研究への道、劇場史の課題外二篇。
豊田 豊	演劇 醉談	上四六 並 四六製	225	二〇〇	邦畫莊	月二	▲演劇評論、演劇隨筆、作家論、俳優評、劇評其他の演劇論を収む。
千賀イコ	解放された演劇	並 四六製	235	一〇〇	出版部	月五	▲演出家タイロフの一九一五年から一九二〇年の間に執筆された手記。
伊臣 眞	觀劇五十年	布新編 布入判	670	三三〇	新陽社	月十	▲觀劇五十年の思ひ出、歌舞伎の本流及新派劇新劇の潮流が如何に今日に至つたかを記す。
東京帝國大學演劇史研究會編	演劇史研究	洋新編 布入判	436	二〇〇	巧藝社	月四	▲元祿劇概説(高野辰之)元祿期の世話狂言に就いて(瀧田英二)外七篇。

文學 (演劇史・演劇一般・歌劇・レヴュー・舞踊・映畫)

岸田 國士	現代演劇論	布新編 上四六 並 四六製	473	二二〇	白水社	月一十	▲演劇に關する評論、感想、ノート類を収めたもので、演劇本質論外四篇に分つ。
池内 信嘉	樂逸話	上四六 並 四六製	176	一〇〇	協和書院	月二	▲故池内信嘉氏の遺稿集で、酒と鰻と蕎麥、小鼓家元の傳授外四十五篇。
池田 傑子	銀扇抄	布新編 上四六 並 四六製	150	一〇〇	演劇研究社	月五	▲星祭物狂、かき三題、杜若、淀君祈願、浮世繪草紙其他の舞踊劇を収む。
福田 義孝	サウオイ・オペラの研究	布新編 並 四六製	229	二〇〇	福田梅吉家	月二十	▲詩人ギルバートと音楽家サリアンの合作になるサウオイ・オペラに關する研究。
アプトンシクレーア著 伊藤儀一外二氏譯	映畫王フオツクス	上四六 並 四六製	602	一五〇	言海書房	月一	▲聖林映畫界の大立物ワイリアム・フオツクスの子孫及び米國映畫界の機構を暴露せる書
岩崎 昶	映畫の藝術	布新編 並 四六製	294	一八〇	協和書院	月四	▲映畫の動向其他映畫に關する事項を収む。
飯島 正	映畫の本質	並 四六製	350	二〇〇	第一書房	月一十	▲映畫の理論と實際とを本質より論究したもので、映畫の本質、映畫と文學其他。
飯島 正	映畫の論	並 四六製	374	二〇〇	西東書林	月四	▲論議、批判、現象、人物、史観に分け収めた映畫論で、映畫の原始性其他。
北川 冬彦	新粹映畫記	布新編 並 四六製	241	一〇〇	第一藝文社	月十	▲映畫の純粹精神を探求論述せる書で、動物映畫と教訓、映畫と詩外四十七章。
淺岡 與志雄	トオキイ脚本傑作集	並 四六製	240	一〇〇	絢天洞	月一	▲うら街の交響樂、雪之丞變化、妻上替薇のやうに、國定忠次外一篇。

本間久雄著 文學概論

第卅一二版發賣

夏書は「時」の試練を経て愈々其眞價を發揮し來る！
著者廣く東西の文學論を涉獵し且つ歐洲近代美學の傾向を參照して、飽迄も穩健なる學究的態度にて文學の百般を講じ、例證を特に古今の日本文學に求めて、文學原理の考察と共に、文藝鑑賞の實際に資す。編を分つ四、章を分つ十六。文學本質論より文學各論、文學批評論に至る迄、理路整然、資料豊富、文章亦明快、既に空前の好著として噴々の名聲を馳せたるもの。敢て大方讀書子の座右に薦む。

本間久雄著書目録

英國唯美主義の研究 (限定版)	定價金七・五〇
近世歐印象記 (三版)	送料金二・二〇
生活の藝術化 (四版)	定價金一・八〇
吾等如何に生くべきか (三版)	送料金一・八〇
婦人問題十講 (改訂版)	定價金二・五〇
文學論 攷 (再版)	送料金三・二〇

東京堂 下段九町麴東京(店本) 町保神田神東京(部賣小)
番〇七二

五、語學

(A) 言語學・國語・漢文

著者	書名	裝釘體裁	頁數	送料價	發行所	月行發	內容大意
原石鼎	言語學への出發 <small>「一考察としての言語に就て」</small>	布函四六 裝入判	240	一・五〇	東京旭印刷株式會社出版部	四月	▲緒論、は・ら・に就ての言語、貝食時代と言語外六篇にて言語學を叙述す。
田邊壽利	言語社會學	洋函四六 布入判	272	一・八〇	時潮社	四月	▲言語社會學の一般を論述し、言語の社會的機能を叙述す。
松岡靜雄	訂改日本言語學 <small>「日本歴史研究の基礎」</small>	洋函四六 布入判	408	一・四〇	刀江書院	十月	▲日本語原の生成と發達を明かにし、最近の國語用法をも解明す。 <small>「普及版」</small>
伊豆公夫	日本史學史 <small>「日本歴史研究の基礎」</small>	洋函四六 布入判	323	一・四〇	白揚社	五月	▲史學史の方法、現代の歴史學、「日本開化小史」における有産者性と封建性の競合其他
奥水實	表現學序說	洋函四六 布入判	154	一・〇〇	不老閣	十二月	▲表現學の問題、表現としての言語、表現の地位其他に分けて言語表現學を叙述す。

言語學(言語學一般・國語學・同研究)

中村好	法蘭西國文新解	洋四六判	356	一、〇〇	外語研究社	月六	▲要語法篇、文法篇、修辭法篇、解釋通則篇 ▲解釋各篇に分けて國文を解釋す。
太田行藏	國文の單語	洋三六判	231	九、七	開隆堂	月五	▲國文の單語を掲げ、用例を示し解説をなせる参考書。
北村澤吉	漢文法助字要訣	洋四六判	104	一、〇〇	中文館	月一十	▲漢文法の助字中比較的重要なもの五十五字を選び、之を字畫數により排列し解説す。
茅原東學	千字文考	和四六倍判	130	一、五〇	東學社	月一十	▲清孫呂吉謙益原注を底本として「千字文考正」を刪補し譯文を掲ぐ。
内野臺嶺	韓非子講話	上四六判	295	一、五〇	章華社	月九	▲韓非子の時代、傳記、著書及び註釋書、思想、政治論、君臣論、國家觀等を講述す。
普帝及學漢會編	孝經全解	並編	90	一、〇〇	普帝及學漢會	月八	▲孝經を解釋す。文義、參考、訓讀等に分けて
龍澤田德芳	新史記鈔詳解	布四六判	288	一、三〇	健文社	月六	▲史記の原文に讀方、語釋、通釋を施して解釋す。
後藤朝太郎	初等漢字の教へ方	上編編	216	一、〇〇	關書院	月五	▲兒童に初等漢字の教へ方を示したもので、漢字の出來方とその運用外四章。
川口白浦	諸子選釋	洋四六判	408	一、五〇	健文社	月六	▲諸子の原文に訓讀、通釋、語釋を施して解釋す。
普帝及學漢會編	大學全解	並編	69	一、〇〇	普帝及學漢會	月七	▲大學の原文に字解、文義及び訓讀を施して解釋す。
岡田正三	大學中庸孝經講義	洋四六判	177	一、〇〇	第一書房	月四	▲大學、中庸、孝經を解説し原文をも掲載せるもの。

漢文解釋參考書

漢文法

(B) 作文・習字・速記

星兵三郎	幼學綱要漢文講義	易分り	上四六判	256	一、〇〇	吉川弘文館	月五	▲幼學綱要中、各篇首に引用された經語即ち漢文篇を註解す。
谷口廻淵	日本樂府評釋	愛國詩史	布四六判	262	二、〇〇	廻淵書屋	月十	▲額山陽の「日本樂府」の原文に訓讀、摘解通釋、餘論を施して解釋す。
鳥田釣一	孟子新釋	本編日	布三六判	352	一、三〇	有精堂	月一	▲初學者が孟子を讀む參考として作つたもので、調點字義釋義を平易に施す。一普及版。
植原路郎	新しき手紙と葉書文	實學校	並四六判	373	一、〇〇	東榮堂	月一	▲日本外史に訓讀及び字解を施し原文をも取めたもので、上巻は平氏篇題言其他。
鳥田吉	新しき手紙と葉書文	實學校	並四六判	373	一、〇〇	東榮堂	月一	▲下巻は新田氏篇題言より樂翁公に上るの書までを收む。
植原路郎	生きた手紙の作り方	自在の立	並四六判	350	一、〇〇	東榮堂	月三	▲額山陽の「日本樂府」の原文に訓讀、摘解通釋、餘論を施して解釋す。
秋山五村	軍人新書翰文	學術的諸論文の書き方	上四六判	300	一、三〇	橘書店	月十	▲諸種の文例を掲げてあらゆる場合の手紙の書き方を示す。
國語の科學會編	現代文章作法解説	附・式辭演說と挨拶の仕方	並三六判	139	三、〇〇	東宛書房	月五	▲學術諸論の作り方、書き方を平易に説明せる書で、思想表現の技術と方法外五章。

作文・書翰文

▲軍人の爲の手紙文例及び式辭演說と挨拶の仕方を收む。

▲作文の準備、作文の技巧、文章の種類に分けて文章の作り方を解説す。

國語振興會編	東京府立第一中學校編	服部 嘉香	平田 義雄	森本 和司編	豊山 逸人	吉屋 信子	畑 由之助	倉本 長治	青柳 邦彦	青柳 邦彦	畑 由之助	小柴 好文
ボケ作文學習の友	訂改作文	實用作文講話	用書翰文の常識	教科書に準む女學生の新作文	口文女子手紙と美文	女性の文章の作り方	生きた商業書翰文	新商業書翰文	新青年手紙とはがき文	新青年手紙と端書文	青年口語の手紙と候文	手紙の書き方
洋三五判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判
203	281	408	189	427	348	307	347	201	412	364	394	435
光學社	慶文堂	出版協會	同文館	駿々堂	東榮堂	新潮社	東榮堂	新誠光文社	松榮堂	松榮堂	東榮堂	平原社
三月	十月	四月	四月	四月	四月	八月	一月	五月	六月	六月	二月	三月
▲中等學生の爲に漢字と熟語、誤り易い漢字同訓異字、送假名法等を説明す。	▲入試を目的とする作文上の用意を説き、模範文を掲げ構想指導、注意、過去入試を示す	▲言葉と文字と文章、日記文の書き方と文例書翰文の作り方と文例の三篇	▲書翰文が出来上るまでの根本過程を説ける書で、書翰文一般心得外二篇	▲各月の文章層を掲げ文例を示し教科書に準據して女學生の作文の作り方を解説す。	▲女子用の候文と口語文の文例を掲げ、手紙と美文の認め方を示す。	▲日々の生活に直接役立つやう文章の作り方を説いた書で、文章といふもの外十八章	▲註文、通知、案内、廣告、催促、勧誘其他に亘る商業書翰文を掲ぐ。附官省會社數字入文例をも掲ぐ	▲商業書翰文を書く上に必要な心得を説明し文例をも掲ぐ	▲女子手紙とはがき文の作り方の豫備知識と實際的の各種文例を収む	▲文例を掲げて青年の爲めの手紙と端書文の認め方を示す。	▲文例を掲げて青年の爲めの口語と候文の手紙の書き方を示す	▲種々の手紙の書き方を廣範圍に亘つて實例をもつて説明せるもの

高橋 福雄	懸賞界編輯部編	八波 則吉	上園 政雄編	安倍 季雄	横溝 蘇堂	青年雄辯研鑽會編	加藤 咄堂	大橋 水月編	松本 芳翠書	松本 芳翠書
辭典式手紙は斯うして作る	投稿心得 A・B・C	作文話 婦人手紙文範	選評名標語選集	お話のコツ	社交術 舌三寸の活殺	近世十分間模範演説と挨拶の仕方	實論と雄辯讀本	ペン書き方とくづし方	楷書指	楷書指
洋四六判	上四六判	布四六判	並四六判	布四六判	布四六判	布四六判	布四六判	上四六判	細長形	細長形
242	113	340	118	302	192	313	316	140	63	66
桑文社	櫻華社	講談社	櫻華社	白鳥社	玄洋社	岡村書店	講談社	東榮堂	駿々堂	駿々堂
三月	三月	二月	五月	四月	三月	十月	二月	八月	四月	十月
▲手紙は如何にしてどんな風に書くかといふ事を説明せるもの	▲一般投稿家に投稿に對する豫備知識を述べたもので、投稿十訓、漫畫の投稿外五章	▲各種手紙の認め方を作例に基いて説き現代女流大家の文範を掲ぐ	▲大正初年以來の標語當選史を大觀し、その中より優秀なる作品を撰定し鑑賞批評す	▲童話及び講話の話方を説明せるもので、お話の聴かせ方、話の種々相其他	▲社交として必要な座談法を述べたもので、座談の目的及び妙味其他	▲最も新しい祝賀、弔祭の挨拶とテーブル・スピーチの仕方を實例、作例をあけて説く。	▲雄辯練習に把握すべき基礎理論を語り、練習用の實例を掲ぐ	▲ペンの持ち方、運筆法等を述べ、三體漢字のくづし方、平假名の書き方を示す。	▲文天祥の「過平原作」及び副島種臣の「謁岳武穆之廟」を楷書にて書ける手本	▲九成宮醜泉銘、雁塔聖教序、孔子廟堂碑の三種の臨書を収め、原碑文字と注意事項を示す

語學(書道・習字・速記)

松 下 太 虚	金 槐	和 歌 集	和蘭菊	布紙法	59	一〇〇	春 潮 社	月 一	▲金槐和歌集を假名にて書ける法帖。
黒 川 白 種	解 説 書	道 教 範	和蘭菊	絹入判	125	〇〇	崇 文 堂	月 九	▲書法の基本たる執筆の法、永字八法、楷行草の運筆法其他の書法を解説す。
高 塚 竹 堂	手本と書	の お け い こ	和蘭菊	絹入判	171	一〇〇	新 誠 光 文 社	月 二 十	▲手本を示して假名、調和體、色紙短冊の書き方を述べ、手紙の作法と書き方を説明す。
金 子 賢	書之理論	及 指 導 法	洋蘭菊	布入判	290	二〇〇	北 海 出 版 社	月 一	▲書道教育の理論及び實際指導法を述べたもので、書之理論に關する研究外一篇に分つ。
山 口 彦 總 編 書	書 法 草 書	要 訣	和蘭菊	絹入判	107	一〇〇	大 倉 書 店	月 九	▲宋の米芾の「草訣百韻歌」を臨書及び註解せるもの。
齋 藤 梅 雄	指 導 拍 節 的 練 習 法		和蘭菊	絹入判	35	一〇〇	高 岡 本 店	月 八	▲書方に於ける基本點畫の練習法を解説した「拍節的練習法」を示す。
加 藤 榮 山 編 書	新 ベ ン 字 の 書 き 方		上 四 六 判	製 入 判	228	〇〇	東 榮 堂	月 四	▲詔勅を始め詩歌、漢文、古文、現代文、書簡文等を楷行書の三體にせるベン字の手本。
日 下 部 鳴 鶴	鳴 鶴 翁 楷 書 手 本		和蘭菊	絹入判	156	二〇〇	駿 大 堂	月 一	▲鳴鶴翁の楷書の手本を上下二冊に分け收めたもの。
日 下 部 鳴 鶴	鳴 鶴 翁 行 書 帖		和蘭菊	絹入判	17	六〇	駿 大 堂	月 四	▲鳴鶴翁が漢詩を行書にて書ける手本。
日 下 部 鳴 鶴	鳴 鶴 翁 草 書 帖		和蘭菊	絹入判	16	六〇	駿 大 堂	月 一	▲鳴鶴翁晚年の作になるもので、古座映八膝釋文を草書體にて書く。
日 下 部 鳴 鶴	鳴 鶴 翁 臨 關 亭 手 本		和蘭菊	絹入判	54	一〇〇	駿 大 堂	月 二	▲關亭記を日下部鳴鶴氏が行書にて書せる手本。
日 下 部 鳴 鶴	鳴 鶴 翁 隸 書 手 本		和蘭菊	絹入判	62	一〇〇	駿 大 堂	月 一	▲鳴鶴翁の隸書を收めた手本。

(C) 辭 典

宮 本 一 二	自 在 官 本 式 簡 易 速 記 述	洋 蘭 菊	布 紙 法	96	三〇	官 本 家	月 八	▲官本式速記法の原理と實際を平易に説明す
東 京 文 理 大 學 附 屬 松 本 校 教 授 三 編	辭	洋蘭菊	絹入判	1210	二〇〇	三 學 社	月 二	▲語彙八萬五千語を收め文字の正俗異を示し文法上の活用其他一切を説ける國語小辭典。
高 田 忠 周 述	大 系 漢 字 明 解	洋蘭菊	布入判	963	二〇〇	富 山 房	月 六	▲通計八千五百六十七字を収録し漢字の系統及字源を明かにして詳述せる辭典。
研 究 會 編	和 漢 大 自 習 字 典	洋蘭菊	布入判	1332	二〇〇	中 文 館	月 二	▲小學校の上級生並に中等學校の生徒の學習に必要な漢字、熟語を集め註釋す。
服 部 操	漢 和 大 字 典	上 蘭 菊	製入判	1248	一〇〇	刷 外 出 版 社	月 四	▲漢字を以て檢索し得るやう編纂せる日華辭典。
北 村 澤 吉 監 修	標 準 漢 和 辭 典	洋蘭菊	布入判	986	一〇〇	中 文 館	月 九	▲中等學校の生徒の學習に必要な漢字、熟語を集めそれに註釋を施す。
新 潮 社 編	代 現 新 語 小 辭 典	洋蘭菊	布入判	153	六〇	新 潮 社	月 四	▲新聞、雜誌上及び文藝、思想書等に散見する所謂新語を蒐め解説す。
曾 野 一 路	文 華 日 語 大 文 典	洋蘭菊	布入判	1217	三〇〇	學 藝 社	月 七	▲文字之種類及其用法、實用單句單文及其文法上之解釋外一編より成る華文日語大文典、
研 文 社 編	新 日 用 辭 典	洋蘭菊	布入判	744	一〇〇	研 文 社	月 十	▲日用の普通語と漢字や國語、熟語等を集めて解釋を施せる辭典。

語學(速記・國漢辭典・現代語・日用百科辭典)

語學(現代語・日用百科辭典・故語辭典・外國語辭典)

下中芳岳編	故語辭典	三六判 866	二二〇〇	平凡社	五月	▲新聞語、故事成語、最新流行語を五十音順に配列して解説す。
-------	------	------------	------	-----	----	-------------------------------

四三〇

外國語辭典

磯部 精一	愛和愛 アイヌ語辭典	三六版 製	三〇〇	東京實業社	七月	▲和愛、愛和に分け、アイヌ語と邦語とを對照して示し、更に雜錄及び文法を附す。
尾崎 主税	英和海語新辭典	三六判	三〇〇	三省堂	四月	▲船體、船具、兵器、機關、兵衛、兵學、商船、漁船等に關する語を配列し解説す。
田島 中居村	波岩英和辭典	二五判	二〇〇	岩波書店	四月	▲基本語の本來の語義、種々の部分的意義を記し派生語、複合語其他を掲げた英和辭典。
岡倉由三郎編	新英和大辭典	四六判 裝入判	二五〇〇	研究社	三月	▲現代に於て實用使されてゐる英語を精選して解説を施せる英和大辭典。
佐藤 通次	獨和言林	四六判 布入判	一〇七〇	白水社	四月	▲最近の新語、文例、成句、語源と來歴其他をも掲載せる獨和辭典。
橋 書店編	日露兵語辭典	三六判	二〇〇	橋書店	十月	▲ソヴェト聯邦に於て刊行された「日露兵語辭典」の復刻。
岩澤 丙吉編	標音露和辭典	三六判	六三二	白水社	三月	▲フオネチック標音を附し近代語をも収録せる露和辭典。
工藤 重編	傳和法律經濟商業辭典	三六判 裝入判	五二五	白水社	六月	▲法律、經濟、商業に關する語彙をアルファベット順に配列し解説せる辭典。

(D) 外國語

英語學・外國語一般

石山福治編著	滿日辭典	三五判 製	二五四	崇文堂	十一月	▲滿洲語を畫數の順に排列し日本語譯と對照せる辭典。一書及一書。
須貝清一著	運動の動詞とその意義的分岐	三六判	五七	研究社	六月	▲ドイツ、フランス、英語の運動の動詞とその意義を抄譯す。
前島儀一著	シエイクスピヤ聖書の語法	三六判	二八	研究社	六月	▲英語の古文體と現代英語との主たる相違を明かにした文法的な研究。
チャーマー平著	ステイヴンソンの文體	三六判	六〇	研究社	六月	▲チャーマーの Characteristische Eigenschaften von R. L. Stevensons Stil の譯。
岩崎 民平著	スラング・古語及方言	三六判	二六	研究社	六月	▲英語のスラング、古語、方言其他の諸種の言語現象を研究す。
小西 秀峯	1800-1833年の英文法	四六判 製	三〇六	三精出版部	五月	▲教科書の問題を解説し、英文和譯、和文英譯を研究せる一三三年生の英文法の參考書。
齋藤 和一	A Hand Book For Colloquial Japanese	三六判 布入判	六〇八	岡崎屋書店	二月	▲日本の談話を英語にて書き綴つた會話書で英和對譯せる單語集を附す。
田中 眞	ABCから原書まで	四六判 布入判	三三一	大同館	二月	▲ABCから原書が讀める迄になる經緯を説いた書で、文法のお話外二篇。
アサヒ 秋山	英會話のステツプ	四六判 製	一三三	クバンフイツク英學院	四月	▲通俗的に整頓的に話される常用語を基礎として凡ゆる實社會に於ける英會話を解説す。

語學(外國語辭典・英語學・外國語一般・英語學習書)

四三一

大學書林編輯部編	英語基礎一五〇〇語	並三六判	120	三〇〇	大學書林	月一十	▲最も重要な英語の基礎単語千五百語を挙げ解説す。 ▲輸出取引、銀行、保険、海運其他貿易に關する英語商業通信文を收む。 ▲商業用英語會話を主とし、社交會話をも掲げ商業用句、常用商業經濟用語を示す。 ▲旅館業者の爲に英語商用文使用上の注意、書式を示し、諸種の文例を掲載す。 ▲理論と實際の兩方面から商業英語通信の全般に亘つて書方を説く。 ▲朱金昭、猶太人ジユス、キング・コンダの三篇の英語トキー會話を英和對譯にて示す。 ▲ゆりかごの唄、戰場よさらばの二篇を英和對譯す。 ▲繪を掲げて英單語の覚え方を示したるもの。
光井武八郎	自動式英語商業通信文	洋四六判	767	三〇〇	北星堂	月一十	▲英作文の見地から英文法の知識を説き、練習問題、應用問題を掲げ解答を附す。 ▲六ヶ月で英語の一通りが自習出来るやうに説明した参考書。 ▲準備篇、文法概説篇、公式篇に分けて英文作文の知識を解説せる参考書。 ▲英文日記の用語、資料及文例を示し、廣告の揭示文を掲ぐ。 ▲國內英字新聞、海外英字新聞に於ける經濟
松岡省平	直ぐ役立つ英語商業會話	洋新四六判	324	二〇〇	芳文堂	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
杉田六一	ホテル英語商用文要	洋新四六判	280	二〇〇	有朋堂	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
中村賢二郎	英語通信文の書方	洋三六判	546	二〇〇	青雲堂	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
英語俱樂部編	英語トキー會話	並四六判	303	一〇〇	平原社	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
英語俱樂部編	英語トキー會話	並四六判	276	一〇〇	平原社	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
加賀谷林之助	わかる英語の覚え方	並四六判	188	九〇	昇龍堂	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
長澤英一郎	修自英語の文法と作文	洋四六判	334	一〇〇	昇龍堂	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
中村如温	英語の理解と應用	洋四六判	690	一〇〇	廣文堂	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
三浦太郎	英作文王	洋三六判	877	二〇〇	泰文堂	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
神戶榮	英作文日記と廣告文の書方	洋四六判	220	一〇〇	尙文堂	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
山口英一	英字新聞經濟市況の研究	洋四六判	405	三〇〇	有朋堂	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの

アーサ秋山	英對話ペビ一辭典	並半判	145	八八	クバシフイツ	月一七	▲ビヂネス、社交の問答をいるは順で引けるやうにせる英會話書。 ▲二年生のために英文の基本的事項を説き、問題を示して註解を附す。 ▲英文の基礎事項を説明し、基本問題を掲げ之に註解を施せる三年用の問題集。 ▲社交、商用、公用等の英文手紙の實例を掲げて手紙の認め方を示す。 ▲英文法の要點を實用的に講述した書で、定冠詞、名詞、形容詞其他。 ▲作文、解釋と密接不離に關連しつゝ、英文法を解説せるもの。普及版。 ▲現代的英語會話を、米語をも對照して興味多く解説し、重要語句索引を附す。 ▲化學研究に必要な英文を收めて譯註せるもので、講義篇外二部及び附録。 ▲化學の全般に亘つて基本的事項に關する英文例を示し、之に單語、註、譯文を施す。 ▲工學全部門の基礎をなす應用力學其他の學科を英和對譯に示し註を施す。 ▲英單語を掲げ、それと併せて英語の發音法を解説せるもの。 ▲純英國式の日常英語會話を英和對譯にし註を施す。 ▲初等英語をわかりやすく説明した入門書。
納谷友一編	教科併用 英文基本問題新選	上四六判	111	九〇	弘學社	月一四	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
納谷友一編	教科併用 英文基本問題新選	上四六判	121	九〇	弘學社	月一四	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
高橋盛雄	英文文法大要	洋三六判	770	三〇〇	太陽堂	月一六	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
ヴァカリー	英文文法大要	洋四六判	310	一〇〇	論發行法所通	月一三	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
岡田實	英文文法着眼點	並四六判	479	一〇〇	泰開文社	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
高橋盛雄	英米會話の實例と練習	洋新四六判	888	三〇〇	太陽堂	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
谷野芳輝	化學英語解釋研究	洋四六判	346	二〇〇	太陽堂	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
菊地常武	修自化學英語の研究	洋四六判	320	二〇〇	太陽堂	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
原千三	工業英語	洋四六判	251	二〇〇	工業圖書	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
竹中治郎	自習英語發音法	洋四六判	352	一〇〇	泰文堂	月一八	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
東京外語學校編	初等英語會話の第一歩	上四六判	361	一〇〇	日昭館	月一三	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの
岡倉山三郎	先生初等英語講話	並四六判	350	一〇〇	研究社	月一十	▲英作文の覚え方を示したるもの。 ▲英語の理解と應用 ▲改訂したるもの

高橋 盛雄	中村 長之助	竹原 常太郎	長澤 英一郎	上坂 西三	小川 正	中島 正信	野尻 抱影	佐藤 正治	河村 重治	山崎 貞
よかる初年生の英文法	商業英語検討	新英文解題法	新和文英譯法	統一國際貿易規則の研究	ハンディ英米會話	ビジネスマンの英文法	アラビヤン・ナイト物語	アイソップ物語	面白く英語のお伽噺	面白く英語のお伽噺
洋四六判	洋三六判	洋三六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋三六判	洋四六判	洋三六判	洋三六判
505	306	546	286	323	391	290	145	243	235	277
一、五〇	三、〇〇	一、〇五	一、〇〇	三、〇〇	一、〇五	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
太陽堂	有朋堂	大修館	昇龍堂	有朋堂	太陽堂	東京泰文社	研究社	外語研究社	北星堂	北星堂
二月	二月	一月	十月	十月	七月	十月	二月	六月	二月	二月
▲英文の解釋、英作文の際に於ける文法上の必要事項を初年生の爲に解説す。	▲英米兩式の百有餘箇の商業英語の文例を採りそれを検討す。	▲ソートンダイクの英語構文を解説して、英文解釋法を述べ。	▲文法篇、公式篇、誤譯警戒篇、類題篇に分けて和文英譯法を解説す。一改正増補版。	▲統一國際貿易規則の解説。一改正増補版。	▲英語と米語とを區別し、文法上の難點をも解釋し、英和對譯にて示せる會話書。	▲英文商業通信文を文例として英文法を説く。英文商業通信文を文例として英文法を説く。	▲アラビヤン・ナイト物語中の最も人氣ある「アラビヤン」物語の譯註。一改正増補版。	▲動物を主にしたアイソップの寓話集を英和對譯し註を附す。	▲失つた一仙、ねづちやんの尻尾、登校、迷ひ兒の子猫外二篇の英語の童話に註を附す。	▲こねね、出世物語、おやぢび太郎、天までとどく豆の木外六篇のお伽噺を英和對譯す。

山崎 貞	山崎 貞	山崎 貞	川津 孝四郎	須貝 清一	河村 重治	足立 ヲウリ	河村 重治	須貝 清一	山崎 貞	左田 實	スチゲン	勝田 孝	アウグ	佐久間 原	河村 重治	
面白く英語のお伽噺	面白く英語のお伽噺	面白く英語のお伽噺	ガリヴァ旅行記	ギリヴァンヤ史	ザ・ユース・オブ・ライフ講義	ザ・ユース・オブ・ライフ講義	ザ・ユース・オブ・ライフ講義	世界見物	世界見物	世界見物	世界見物	世界見物	世界見物	世界見物	世界見物	
洋三六判	洋三六判	洋三六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	
277	277	277	177	137	372	372	372	153	197	663	663	663	663	663	663	
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	
北星堂	北星堂	北星堂	外語研究社	北星堂	三省堂	健文社	三省堂	莊人社	研究社	研究社	研究社	研究社	研究社	研究社	研究社	
二月	二月	二月	六月	十月	二月	二月	六月	十月	二月	四月	四月	四月	五月	五月	六月	
▲仕事と遊び、小松のねがひ、風の袋、瑞西義民傳外六篇のお伽噺を英和對譯し註を附す。	▲町の樂師、少女赤頭巾、白猫物語、灰むすめ外六篇のお伽噺を英和對譯し註を附す。	▲小さき日影、都の鼠と田舎の鼠、群盲象を撫す外七篇の西洋のお伽噺を英和對譯す。	▲ガリヴァ旅行記を英和對譯にし註を施せるもの。	▲「パイレール萬國史」より「ギリシャ史」を抜萃し英和對譯にして註を施す。	▲ゴタムの賢人達、ジョージ・ワシントンと彼の手斧、アイトリの鏡外四篇に註解す。	▲ザ・ユース・オブ・ライフの原文に譯並に註を施せるもの。	▲少年と鬼、麥の袋、善ちよい、世界見物の四篇に脚註を施す。	▲世界歴史物語として代表的な「パイレール萬國史」より世界創造の物語を採り英和對譯す。	▲見えぬ友だち其他英文豪ステイヴンソンの童詩廿三篇を収録し譯註を施す。一上巻七十頁。	▲老海賊が遺した古地圖を中心に少年ジムが寶物を手に入れるまでを描ける「寶島」の譯。	▲アウグの「スケッチ・ブック上巻」を英和對譯し註を施す。	▲蜘蛛、蛙、きりぎりす、燕と夜鳴き鶯、かはせみ外三篇の童話に脚註をなす。	▲蜘蛛、蛙、きりぎりす、燕と夜鳴き鶯、かはせみ外三篇の童話に脚註をなす。	▲蜘蛛、蛙、きりぎりす、燕と夜鳴き鶯、かはせみ外三篇の童話に脚註をなす。	▲蜘蛛、蛙、きりぎりす、燕と夜鳴き鶯、かはせみ外三篇の童話に脚註をなす。	▲蜘蛛、蛙、きりぎりす、燕と夜鳴き鶯、かはせみ外三篇の童話に脚註をなす。

語學(獨逸語 佛蘭西語・ラテン語)

四四〇

南江堂編	笑は健康の基	三六判	55	四〇	南江堂	月一十	▲ダアビイ體験、キヤンプ物語、歳末大賣出の三篇の獨逸原文を収めて註解す。
石川湧譯註	歐洲の危機	四六判	85	三〇	大學書林	月九	▲シীগフフリドの論文「歐洲の危機」を佛和對譯し譯註を施す。
平原社編	實用佛蘭西語	四六判	136	二〇	平原社	月八	▲佛文日記抄を掲げ、實用的な佛蘭西語を解説す。
大町毅譯註	蒼白螺施蟲	四六判	93	六〇	大學書林	月十	▲ラゲオ博士の「所謂花柳病」中の蒼白螺施蟲に關する部分を選び佛和對譯し註を施す。
平原社編	佛蘭西會話の基礎	四六判	157	一〇	平原社	月六	▲繪解會話カードを附し、佛蘭西語の會話を講義せる書。
齊藤一寛	佛蘭西會話	三六判	198	二〇	大學書林	月六	▲實際に佛蘭西へ赴く人達のために日常の實際生活に即して必須の會話を集む。
平原社語學部編	佛蘭西語トキー會話	四六判	211	一〇	平原社	月二十	▲第一卷は自由を我等に、巴里祭の二篇を佛和對譯す。
平原社編	佛蘭西語の作文と譯讀	四六判	119	二〇	平原社	月八	▲佛文書狀範例を示し、作文講義、譯讀講義をなす。
平原社編	佛蘭西語の發音と綴字	四六判	149	二〇	平原社	月五	▲繪解讀本カードを附し、佛蘭西語讀本を講義せるもの。
平原社編	佛蘭西語の文法	四六判	134	二〇	平原社	月五	▲佛蘭西語發音口形圖を掲げ、綴字に就て解説す。
平原社編	佛蘭西語文典綱要	四六判	170	二〇	平原社	月五	▲フランス語文法を講義し、佛蘭西文典綱要を附す。

語學(ラテン語・西班牙語・露西亞語・伊太利語)

四四一

松岡敏幸	ラテン語第一歩	三六判	196	二〇〇	南山堂	月五	▲ラテン語の初歩の範圍内に於て殆ど全領域を解説せる書で、羅甸語の字母其他。
大村雄治	ラテン語第一歩	上 菊 製判	130	一〇〇	白水社	月九	▲發音、文法摘要、讀章篇、Proverbe et Sentences 其他から成るラテン語學習書。
村松正俊	羅甸語四週間	布 四六判	386	三〇〇	大學書林	月六	▲一日一課づゝ四週間で羅甸語のABCから文法、譯讀等の基礎的知識を説明す。
笠井鎮夫	西班牙語會話	布 三六判	249	一、五〇	大學書林	月四	▲西班牙語の發音、會話基本語句、旅行必須語句、分類單語、文法等を解説す。
笠井鎮夫	西班牙語文法要覽	布 三六判	52	三〇	大學書林	月七	▲西班牙語いろは、發音の説明、發音練習表
佐藤二郎	活用露西亞文法	布 四六判	309	二〇〇	大學書林	月十	▲初等文法を終了した程度の人々を目標にしてロシア文法を説明す。
山本信則	露西亞文法の読み方及び譯し方を説明す。	布 新四六判	148	一〇〇	橋書店	月二十	▲ロシア語の政治、經濟論文の読み方及び譯し方を説明す。
日暮信則	露西亞文法の読み方及び譯し方を説明す。	布 新四六判	148	一〇〇	橋書店	月二十	▲品詞變化を中心とする初等文法を容易に習得出来る様解説せるロシア語學習書。
除村吉太郎	露西亞文法第一歩	上 菊 製判	116	一〇〇	白水社	月九	▲露西亞文法、和文露西亞文法等を解説せるもので、最も簡単な語句及び文章其他。
除村吉太郎	露西亞文法第一歩	布 四六判	482	三六〇	橋書店	月二十	▲露西亞文法、和文露西亞文法等を解説せるもので、最も簡単な語句及び文章其他。
井上伊太利	伊太利語辭典	洋 三五判	1013	三〇〇	第一書房	月六	▲三萬八千の語彙を現地輯録し、ラタニゼーションは實用的轉訛を重んじた伊太利語辭典

大外語部
徳尾 俊彦

朝倉 純孝

和蘭語 四週間

布四六判 374

三六〇 大學書林

月三

▲五時間、伊太利語の發音が出来るやうに説明せるもので、音學用語を附す。

▲和蘭語の發音、文法、作文、譯讀に互り一日一課づゝ四週間で出来るやうに説明す。

滿洲語・支那語

吳 主 惠

華語文法研究

布四六判 195

二〇三 文求堂

月一

影 山 巍

現代上海語

布四六判 174

二〇三 文求堂

月四

吳 主 惠

現代日語會話

布四六判 220

二〇三 文求堂

月六

豐 田 清太郎

支那語會話

布四六判 149

二〇三 平原社

月四

岡 本 正文編

支那語會話辭典

布四六判 345

二〇三 文求堂

月九

武 田 吉之助

支那語基本語彙

布四六判 252

二〇三 春陽堂

月六

宮 島 吉敏

支那語小文典

布四六判 102

二〇三 大學書林

月五

宮 原 明民

支那國音字典

布四六判 295

二〇三 文求堂

月六

橋 本 一 郎

支那語會話

布四六判 159

二〇三 文求堂

月六

▲上海語に發音符號及び假名を附し、日譯と對照せしめたもの。

清 水 元助

初級支那語會話

布四六判 268

二〇三 出外語學院

月四

岡 田 三 郎

現日本語會話全書

布四六判 459

二〇三 華文書院

月十

橋 本 光 三

對日日本語助詞研究

布四六判 185

二〇三 三省堂

月一

包 島 吉 敏

日滿會話五十日

布四六判 455

二〇三 三省堂

月九

佐 藤 三 郎 治

滿洲語速成會話

布四六判 145

二〇三 大阪出版社

月一十

藤 木 敦 實

滿洲語の話し方

布四六判 357

二〇三 出外語學院

月十

白 村 廷 實

滿洲國語讀本

布四六判 319

二〇三 大阪屋號

月九

呵 麼 徒

滿洲國語文法

布四六判 408

二〇三 東學社

月八

精 松 源 一

蒙古語獨習

布四六判 106

二〇三 甲文堂

月一十

▲蒙古語を平易に解説せるもので、第一卷は文字の読み方書方に就て説く。

▲滿洲國語文法の組織的研究書で、發音法、詞法、説話法の三篇及び附説。

▲人事に關する交際語を主題とし全部會話の形式にて説述した滿洲國語讀本。

▲滿洲語を習得して實際に活用する場合に切要なる日常會話の會話を日滿對譯にて示す。

▲滿洲語(支那語)を獨習する人のために平易に組織的に且つ速成し得るやうに講述す。

▲五十日間で日滿會話の一通りがわかるやう基礎篇、會話篇、家常語篇に分けて説く。

▲北京音を以て本音とせる日滿會話書で、發音、單語、短句、會話其他。1冊訂版。

▲日本語の助詞を口語文に於て中日對照し、あらゆる用語を實例を擧げて解説す。

▲初級より中級に至る支那語會話を解説す。

▲日常慣用の語言中より二千數百句を収めて初學者の研究資料となせるもの。1冊訂版。

▲會話之基礎、基本的會話、社交會話、實用會話、投考指南を日華對譯にて示す。

▲上海語に發音符號及び假名を附し、日譯と對照せしめたもの。

▲三十日間でエスペラントの全課を終了出来るやう挿畫をも掲げて解説せる入門書。

語學(滿洲語・支那語・エスペラント)

エスベラント

安 井 幸 三

三十日獨習エスペラント入門

布四六判 221

二〇三 橋書店

月四

語學(伊太利語・和蘭語・滿洲語・支那語)

語學(エスベラント・ローマ字)

四四四

ローマ字

野原休一譯	エス方	丈記	並	菊半紙	31	三〇	ト	エスベラント研究社	月四	▲方丈記をエスベラント語にて譯せるもの。
八木理三	RONGO	〇	布	三六判	193	一〇〇	日	ローマ字社の	月八	▲論語をローマ字書きにし、孔子を附す。
菊澤季生	國定ローマ字綴り方解説	〇	並	四六判	33	三〇	日	ローマ字社の	月八	▲單語の綴り方、文章の書き方、外國語、外來語の書き方を示す。
鬼頭禮藏	國定ローマ字文章讀本	〇	春	菊六判	241	一〇〇	鬼頭禮藏	(日本のローマ字家)	月一十	▲ローマ字文早讀み書訓れの練習、ローマ字の使ひ方、ローマ字の知識を説明す。
内藤好文	GRIMM OTTOBIBANASI	〇	並	三六判	71	三五	日	日本字社の	月五	▲グリムのお話をローマ字にて書けるもので Sawasimonon no Hans 外一篇。
多田齋司	ローマ字萬葉集	〇	春	四六判	265	一〇〇	日	日本字社の	月十	▲第二卷は萬葉集の卷第三及び卷第四をローマ字書きにす。
菊澤季生	新制ローマ字綴り方解説書	〇	洋	菊六判	97	一〇〇	東	宛書房	月一十	▲新制ローマ字綴り方を中心として従来の純日本式並にヘボン式をも併せて解説す。

近世英國唯美主義の研究

限定豪華版 定價七圓五十錢 東京堂

六、美術・音樂

(A) 美術・工藝・寫眞

美術評論・美術一般

美術(美術評論・美術一般)

四四五

著者	書名	裝形	釘體	數頁	送定	料價	發行所	月行發	內容大意
添田達嶺	畫人宮本武藏	布	四六判	210	一〇〇	雄山閣	月六	▲劍客武藏をも述べて畫家としての宮本武藏を語る。	
金井紫雲編	藝術資料 第一期第二期	並	四六判	31	九〇	芸艸堂	月五	▲本冊は牡丹、芍薬、藤に關する資料を收めたもの。	
鈴木吉祐	藝術の宣傳に及ぼす効果と實際	上	四六判	283	三〇	太陽堂	月一	▲藝術の宣傳性、教化性を國際宣傳、觀光宣傳上の諸問題と關聯せしめて叙述す。	
大平章譯	古典美術の再批判	上	四六判	339	一〇〇	芝書店	月八	▲全盛期のギリシヤ藝術(コルピンスキー)外八篇の古典美術に關す論文を收む。	
外山卯三郎	兒童畫の發生的考察	並	四六判	43	六〇	研藝會學	月八	▲兒童畫は如何なる發展過程をとるかを説き、錯畫、素描、繪畫時代の兒童畫に就て述ぶ。	
宮尾しげを	文樂人形と手足	上	新菊六判	84	一〇〇	壬生書院	月三	▲文樂人形の手と足に就ての研究を收めたもので、手足の發達に於て其他	

齋川 梧堂	東西美術の知識	洋四六	布入判	268	二二〇	昭和出版社	四月	▲日本美術史、西洋美術史の二篇に分けて東西美術の知識を記述す。
金井 紫雲	鳥と藝術	上四六	布入判	328	三〇〇	芸艸堂	四月	▲鳥類中で藝術に交渉を持つもの五十三種を集めその生態、習性から藝術方面を考察す。
美術研究所	日本美術年鑑	上四六	布入判	554	五〇〇	美術研究所	二月二十	▲昭和十年度に於ける我國美術界全般の活動を記録せるもので、現代美術其他に分つ。
ブルノ・タウト著 森 携 郎譯	日本文化私観	新四六	布入判	238	二〇〇	明治書房	一月十	▲日本を熱愛する世界的建築家タウト氏の日本文化批判で、床の間とその裏側其他
松野 一夫編	美術概論	並四六	製入判	103	一〇〇	平凡社	一月十	▲普く四海より美術文化の各分野に於ける資料を集めたもの。
東京帝國大學助教授 東北帝國大學助教授 兒島喜久雄	美術史の基礎概念	洋四六	布入判	379	二〇〇	小山書店	一月	▲經驗學としての美學の研究對象、所謂不自由藝術、美術概論外六篇の美術論。
ウエルフリン著 守屋謙二譯	美術史の基礎概念	洋四六	布入判	485	三二〇	岩波書店	一月六	▲近世美術に於ける様式の發展問題に就ての論述で、緒論、線的と繪畫的外四章。
兒島喜久雄	美術批評と美術問題	並四六	製入判	429	二〇〇	小山書店	二月二十	▲過去数年間の主なる展覽會評及び美術界の時事を論じたものを集む。
古川 修	美術論	布四六	布入判	370	三〇〇	學而書院	一月五	▲興福寺の阿修羅像に捧ぐ、裝飾畫派の流れ溪齋英泉の研究其他の美術に關する論文集。
廣隆 群	民藝美禮	布四六	布入判	156	二〇〇	建設社	一月八	▲民藝美術品所謂「下手物」の寫眞を擧げて夫々解説禮讃文を添ふ。
ハウゼンスタイン著 阪本 勝譯	裸體藝術社會史	布四六	布入判	247	二〇〇	栗田書店	一月二十	▲あらゆる時代及び民族に於ける裸體藝術の社會史を叙述す。
岡登 貞治	日本繪畫史讀本	上四六	製入判	381	二〇〇	美術協會	二月二十	▲上代から近代までの六十六の畫人傑作を註考し之を主題にその逸話、關係等を叙述す。

日本美術史・同研究

西洋美術史・同研究

寶雲刊行所編	寶	上四六	製入判	90	三〇〇	寶雲刊行所	八月	▲第十七冊は可無流和六(東伏見邦英) 寶雲堂富春山居圖卷考(青木正兒) 外三篇。
板垣 鷹穂	イタリアの寺	洋四六	布入判	296	一〇〇	藝文書院	九月	▲イタリアに於ける寺院建築に關する史論と批評及び紀行文を収む。一普及版。
相良 徳三	歐洲美術の歴史	上四六	製入判	248	二〇〇	清和書店	五月	▲エチプトから現代に至る歐洲美術の歴史を叙述した書で、エチプトとその時代其他。
荒城 季夫	近代フランス繪畫思潮論	上四六	製入判	182	二〇〇	綜合美術研究所	十一月	▲近代フランス繪畫を藝術社會學的な觀點と方法を以て叙述す。
一氏 義良	世界美術鑑賞	洋四六	布入判	985	八〇〇	成武堂	八月	▲世界美術の變遷を叙し、世界的傑作を觀賞に記述した書で、解説篇、觀賞篇の二冊。
ボーフレネル著 望月百名子譯	ロマン派の繪畫	洋四六	製入判	292	九〇〇	すふ書房	九月	▲本書は第四章一八五九年のサロンの翻譯で近代藝術家、能力の女王外八章。
東洋美術史	東洋美術史	洋四六	布入判	682	二〇〇	綜合美術研究所	十月	▲東洋美術の發達變遷を叙述したもので、東洋美術の概観、日本美術の始源其他。
朝日新聞社編	飛鳥文化大觀	並四六	製入判	64	一〇〇	朝日新聞社	四月	▲飛鳥文化大展覽會に出陳された主なるものを收めた圖録。
美術工藝會編	石川寅治畫集	上四六	製入判	29	二〇〇	美術工藝會	六月	▲主として近作を集め尙數點の版畫を收めたもので、讀書(原色)港の兩外廿七點。

須山 計一	石井 柏亭 監修	内藤 藤一郎	天沼 俊一編	天沼 俊一編	野中 里昂 介	野中 里昂 介	巧 藝 社	吉浦 祐全編	朝日新聞社編	外山 卯三郎 編	小西 六本店 編	野長 瀬 晚花	帆 足 理 一 郎 編
現代 世界 漫畫 集	現代 日本 畫 大 鑑	源氏 氏 物 語 繪 卷	四天 王 寺 圖 錄	四天 王 寺 圖 錄	大 菩 薩 峠 繪 本	大 菩 薩 峠 繪 本	第一 回 帝 展 集	東 洋 名 畫 類 聚	第六 回 獨 立 展 集	日 本 標 準 兒 童 畫 集	パ ー レ ッ ト 畫 集	北 滿 國 境 線 を 畫 く	ミ ル ト ン 失 樂 園 畫 集
新 刊 判	新 刊 判	和 蘭 判	洋 函 判	洋 函 判	洋 函 判	洋 函 判	洋 函 判	洋 函 判	洋 函 判	洋 函 判	洋 函 判	洋 函 判	洋 函 判
149	408	44	154	164	251	251	70	20	68	28	21	109	100
一、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
日 本 漫 畫 研 究 會	昭 森 社	日 本 美 術 會	大 阪 同 友 會	大 阪 同 友 會	大 阪 同 友 會	大 阪 同 友 會	巧 藝 堂 社	東 洋 名 畫 類 聚 行 會	朝 日 新 聞 社	研 究 會	小 西 六 本 店	野 長 瀬 家	新 生 堂
月 九	月 三	月 二	月 二	月 二	月 二	月 三	月 二	月 二	月 四	月 五	月 十	月 二	月 二
▲英米獨佛伊露及びブラジル、中國の漫畫を掲げ、世界各國の漫畫界を展望す。	▲現代日本畫壇の權威五十六氏の作品二點を寫眞版に收め、小傳、人と作品に就て語る。	▲源氏物語の繪巻を寫眞版にて收め歴史其他に就て述べたもの。	▲颱風害前後に於ける四天王寺の伽藍の寫眞を收め解説をなす。	▲四天王寺より發見された同寺に使用せし古瓦を寫眞版に收め解説す。	▲甲源一刀流の巻より間の山の巻までの繪及び文を收めたもの。	▲帝國美術院改組後第一回の美術展覽會に於ける各部陳列作品の大部分を寫眞版に收む。	▲神佛、人物、山水、花鳥等に分ち畫題に應じ、細別類聚せる圖集で、楊柳觀音像外十九葉。	▲獨立美術協會第六回展覽會の出陳作品及び總目錄を收録す。	▲全國より三年生の兒童畫を蒐め、之を原色版にて收録す。	▲パレット同人會昭和十一年度春季展の優秀作品を輯收す。	▲大黒河から漢河方面への黒龍江三百里の沿岸の風物と土民の生活等のスケッチ集。	▲ミルトンの失樂園に挿入された繪五十圖を、集めそれに解説を附す。	

須山 計一	須山 計一	松林 桂月	森田 但山 譯	近藤 としを	大沼 知之	上野 正之 輔	矢野 崎田 好三 幸造	岩中 武 崎 喜久 如次 健助	和川 三 造 編	庵 原 譜	
漫 畫 投 書 の 手 引	漫 畫 カ ッ ト 。 題 字 の 描 き 方	南 畫 の 描 き 方	芥 子 園 畫 傳	用 カ ッ ト 綜 合 圖 案 集	新 式 圖 案 文 字	新 圖 案 技 法	新 圖 案 教 程	圖 案 指 導 大 系	編 創 作 圖 案	滿 支 圖 案 精 華 大 成	
並 四 六 判	並 四 六 判	上 四 六 判	布 函 判	布 函 判	上 四 六 判	上 四 六 判	上 四 六 判	洋 函 判	上 四 六 判	方 倍 判	
63	65	179	487	75	264	215	280	706	67	212	
六、〇〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	
研 究 會	日 本 漫 畫 研 究 會	日 本 漫 畫 研 究 會	三 笠 書 房	學 術 出 版 社	大 修 堂	綜 合 美 術 研 究 會	綜 合 美 術 研 究 會	學 術 協 會	博 美 社	三 省 堂	
月 十	月 七	月 九	月 八	月 一	月 八	月 一	月 三	月 六	月 一	月 八	
▲各種のカット圖案集で、裝釘、マッチ、ボスター、輪廓、シヨーカーD其他。	▲各種圖案文字を配列的に集めたもので、漢字のほかアルファベットも收載。	▲圖案の種類、沿革、資料、構成、色彩法、材料用具、表現技法、應用等に就て記述す。	▲圖案及び圖案教育の全般に亘つて理論と實際の兩方面から解説研究す。	▲圖案の指導法、圖案の技法、小學校に於ける教材其他を解説す。	▲衣裳、帯、クツシヨ、着尺、裾模様、陶器、服地、敷物其他に用ふる圖案を收む。	▲華麗極まる滿支圖案中藝術味豊かなもの六十一圖を色刷圖版に仕上げ説明書を附す。					

日本美術會編 略畫と圖案 上四六判 219 一〇〇 厚生閣 月九	▲人物、人事、動物、植物、風景、器物、築造物、文字等を略畫及び圖案的に描く。
東方書道會 石井雙石 篆刻指南 布四六判 256 一〇〇 東學社 月七	▲體驗を基礎として説明した篆刻の手引書で篆刻手引、篆刻入門、治印雜説外一編。
諸工藝 日本工藝沿革史 布四六判 274 二〇〇 共立社 月四	▲我國に於ける美術工藝及び産業工藝の沿革史で、上古前期奈良朝其他に分つ。
彫塑とその基本實習 山本金三郎 布四六判 291 二〇〇 中央工學會 月一十	▲彫塑の基礎實習法を説明したもので、彫塑概論製造技法、石膏型技法外三篇。
陶磁器・茶湯釜 宮本謙吾 九谷焼研究 布四六判 181 四〇〇 學藝書院 月二十	▲九谷焼の史實に就て研究せるもので、九谷焼、古九谷史實の研究、九谷焼の正統外八篇收む。
淺野本來 信樂やき 布四六判 119 一〇〇 學藝書院 月四	▲信樂焼の創始時代より今日までの變遷沿革及び現在の製陶の状況を記述す。
小野賢一郎 茶碗鑑賞の書 上四六判 161 二〇〇 寶雲舎 月二十	▲茶碗鑑賞上の知識を述べ、名碗物語、茶と茶碗、名物茶碗の由来に就て語る。
小田省吾 朝鮮陶磁史文獻考 布四六判 170 二〇〇 學藝書院 月三	▲朝鮮陶磁器に關する若干の文獻、李氏朝鮮時代に於ける倭館の變遷の二部より成る。
眞清水藏六 泥中菴今昔陶話 布四六判 263 二〇〇 學藝書院 月七	▲お茶盤の話、古陶鑑識心法の話、仁濟の話、唐津物の話其他陶器に關する話を收む。
小野賢一郎 補物やきもの讀本 上四六判 288 二〇〇 寶雲舎 月四	▲時代、形、釉、土味、殘念物、窓繪の土瓶、焼物一夕話其他にてやきものを語る。一増補版。

寫眞 日本放送協會編 アマチュア寫眞講座 布四六判 320 二〇〇 日本放送協會 月六	▲アマチュア寫眞總論(鎌田彌壽治)カメラ及び材料の發達(高桑勝雄)外十篇。
河原侃二 ヴェス單作畫の實技 布四六判 413 二〇〇 光大社 月四	▲理論篇、修整篇、作畫篇に分けてヴェス單作畫の實技を語る。
フアンストン著 博譯著 小型カメラ寫眞術 布四六判 151 一〇〇 平原社 月四	▲今日及び明日のカメラ、小型カメラによる高速寫眞外六篇にて敘述す。
小石清 攝影・作畫の新技法 布四六判 294 二〇〇 玄光社 月十	▲一般アマチュア寫眞家の攝影、作畫に於ける表現上の新技法を説明す。
シノヅカ寫眞室編 現代三十六書齋 布四六判 36 八〇〇 寫眞室 月二十	▲秋田雨雀、石井研堂、横光利一外三十三氏の書齋に於ける姿を寫した寫眞帖。
東學社編 劍相秘傳 和四六判 100 三〇〇 東學社 月九	▲名刀秘傳の劍相及び刀劍鑑定口傳秘訣を教示せる寛永秘藏本を公開せるもの。
大村邦太郎 刀劍研磨術 布四六判 92 二〇〇 大村書店 月三	▲日本刀美、研ぎといふこと、仕上げ其他にて素人の刀劍研磨術を語る。一改訂増補版。
清水孝教編著 刀劍刀裝鑑定辭典 洋四六判 526 五〇〇 太陽堂 月十	▲日本刀劍に關する用語を五十音順に排列し解説す。

北野邦雄	寫眞常識讀本	洋四六	布入判	290	二〇〇	ア	ル	ス	月一十	▲カメラ、レンズとシャッター、撮影用補助具、撮影春秋、冬、現像と定着其他の知識を説く、等を判りやすく説明した初等寫眞術書。	
吉川速男	寫眞の寫し方	上四六	製入判	298	一四〇	新	潮	社	月十	▲寫眞の失敗とその原因に就て解説せる書で撮影術、現像術、定着術外一篇に分つ。	
鈴木八郎	寫眞の失敗とその原因	洋四六	布入判	230	一四〇	ア	ル	ス	月七	▲寫眞に關する總ての薬液の基礎、調合法、使用法等を解説せるもの。	
長口宮吉	寫眞藥品の知識	上四六	製入判	207	九〇	朝	日	新	開	月五	▲アマチュアにとつての寫眞の題材を集め、その寫し方、印畫の作り方を述ぶ。
高山正隆	趣味寫眞の題材と構圖	布四六	製入判	328	一四〇	光	大	社	月五	▲水上鏡技、陸上鏡技、野球、冬山とスキー其他のスポーツ寫眞の撮影法を説明す。	
西橋眞太郎	スポーツ寫眞の撮り方	上四六	製入判	157	九〇	朝	日	新	開	月三	▲靜物寫眞が如何なるもので、如何にして撮影するかを説明せる書。
光村利弘	靜物寫眞の寫し方	洋四六	布入判	359	二〇〇	玄	光	社	月三	▲引伸方法の實際を體驗によつて述べた書で引伸の意義、引伸器の種類其他。	
西山清	引伸の實際	上四六	製入判	112	六〇	朝	日	新	開	月一十	▲寫眞とは如何なるものか、カメラの構造と種類、乾板、フィルム其他の知識を述ぶ。
寫眞藝術研究會編	ポケット寫眞術	並四六	製入判	234	一〇〇	平	原	社	月一十	▲畫風の新興種類の如何を問はず藝術的良心を持つて作られた寫眞百八點を収む。	
菅保男編	現代名作寫眞畫集	布四六	製入判	128	二〇〇	寫	眞	新	報	月一	▲小型カメラの形態、フィルム、撮影法、引伸法等を説明す。
フアンストーン著	モダン小型カメラ	並四六	製入判	151	一〇〇	平	原	社	月十	▲ライカの成り立、鏡玉の話、フィルムの話撮影の話外二章にてライカ寫眞術を語る。	
水谷博	ライカ寫眞入門	洋四六	布入判	386	二〇〇	玄	光	社	月七	▲寫眞の引伸法を説明せるもので、初心者への引伸一般引伸法、作畫の實例其他。	
如宗一	ライカ寫眞入門	洋四六	布入判	303	一四〇	ア	ル	ス	月二十		
吉川速男	私の引伸	洋四六	布入判	386	二〇〇	玄	光	社	月七		

須永克己	明日への音楽	洋四六	布入判	352	二〇〇	名	曲	堂	月七	▲今日及び明日の樂境に關する論文を樂論、樂史、教育、漫筆に分け収め追憶録を附す。	
門馬直衛	音楽演出史話	布四六	製入判	178	二一〇	音	樂	世	界	月二	▲音樂演出の發達史、音樂社會史、作曲史、様式史並に音樂美術史を叙述す。
門馬直衛	音樂辭典	洋四六	布入判	160	二〇〇	春	秋	社	月九	▲第二卷はChopinianaよりCornonまじを収む。	
鹽入龜勝編	音樂用語辭典	洋四六	布入判	398	二〇〇	學	藝	社	月二	▲音樂に關する用語並に人名をABC順に配列して解説す。	
伊庭孝	最新音樂大辭典	洋四六	布入判	309	二〇〇	シ	ン	フ	オ	月四	▲音樂に關する諸種の事項をABC順に配列して解説す。
門馬直衛	樂入門	並四六	製入判	304	一〇〇	音	樂	世	界	月七	▲少しの豫備知識を持たない初歩者にも解るやう樂譜を用ひずに音樂の一般を解説す。
東京音樂協會編	樂年鑑	布四六	製入判	262	一〇〇	音	樂	世	界	月一	▲音樂界の出來事、記録、人名簿等を収む。
音樂世界社編	樂年鑑	並四六	製入判	435	一〇〇	音	樂	世	界	月二十	▲一九三五年十月より一九三六年十一月までの音樂界の出來事、記録、人名簿等を収む。
ヴァイスマン著	音樂の神性脱化	上四六	製入判	199	一〇〇	共	益	商	社	月十	▲大戦後の西洋音樂に關する非常時局的諸問題の提示と概観を収めた音樂評論。
太田太郎譯	音樂の神性脱化	上四六	製入判	199	一〇〇	シ	ン	フ	オ	月十	▲音樂に關する色々な知識を書いたもので、音樂とは？、古典の音樂、樂器の話外十五話
倉重瞬輔	音樂の話	並四六	製入判	245	一〇〇	樂	譜	出	版	月一十	

(B) 音

樂

音樂評論・音樂一般

鹽入 龜輔	ジャズ 音楽入門	並四六判	175	一九〇〇	音楽世界社	月八	▲ジャズとは如何なるものか、ジャズの編曲法、管絃法、現代とジャズに就て解説す。
宮内 龍太郎	放初等 音楽講座	布函判	255	二〇〇〇	日本放送出版協會	月五	▲樂譜の読み方（堀内敬三）樂曲の形式（弘田龍太郎）音楽の表現方法（宮原積次）
グラモヒル社編	デイスク 年鑑	洋函四六判	330	一九三〇	ヒグルラ社	月四	▲一九三五年度のレコードに關する記事を收む。
小松 耕輔	近代交響樂	洋函四六判	230	一九〇〇	共益商社	月七	▲樂聖ヴァーグナーの生涯を語り、その作品に就て記述す。
森本 登丹	近現代交響樂	洋函四六判	140	二〇〇〇	音楽世界社	月二十	▲近代の偉大なる交響樂の作曲家シューベルト、メンデルゾーン其他の人と作品を検討す
大田 黒元雄	ストラヴィンスキイ自傳	布函四六判	306	一九三〇	第一書房	月十	▲現代音楽を主導する音楽家ストラヴィンスキイの生活記録
門馬 直衛	西洋音楽史	布函判	340	一九〇〇	清教社	月十	▲古代より現代までの西洋音楽を考察し各時代の作品を研究す
小松 耕輔	西洋音楽史綱要	洋函判	338	一九〇〇	共益商社	月十	▲下巻はクラシック音楽への過渡、クラシック音楽、ロマンス音楽、近代音楽、結論。
小松 耕輔	西洋音楽の鑑賞法	洋函判	272	一九〇〇	三省堂	月三	▲音楽の性質、樂譜、樂典、音樂の形式、樂曲の種類外二篇にて西洋音楽の鑑賞法を説く
森本 登丹	チャイコフスキイの手紙	新編判	217	一九〇〇	音楽世界社	月六	▲ロシアの偉大なる作曲家チャイコフスキイの書翰集
鈴木賢之進	トルストイの音楽觀	洋函四六判	199	一九〇〇	音楽世界社	月六	▲音樂上に於けるトルストイの研究で、緒論史實事實藝術論、結論の四章。

倉重 瞬輔	ラヂオ・レコードの音楽の書	並四六判	206	一九〇〇	音楽世界社	月七	▲ラヂオ、レコードの要求する音楽上の諸知識を解説す。
倉重 瞬輔	レコードの現代音楽の鑑賞	並四六判	139	一九〇〇	音楽世界社	月四	▲現代フランス音楽の動向と其の作曲家達の各々の傾向を紹介せる書。
伊庭 孝編	交響管絃樂曲	洋函四六判	480	一九〇〇	京文社	月二十	▲著名な交響管絃樂曲を解説せるもので、本巻は作曲家名AよりLまでを收む。
近江屋 二郎	レコードの世界名曲の鑑賞	並四六判	130	一九〇〇	音楽世界社	月四	▲行進曲、ワルツ、ミニエツト、「カルメン」の音楽外六篇にて世界名曲を解説す
湯淺 永年	レコードの西洋音楽の鑑賞	並四六判	83	一九〇〇	音楽世界社	月四	▲樂曲を組立て、ある各要素を研究し、樂曲例をレコードに依つて解説す
町田 嘉章	レコードの日本音楽の鑑賞	並四六判	113	一九〇〇	音楽世界社	月四	▲レコードを通して日本音楽を鑑賞する態度日本音楽の五系統其他を解説す
鈴木賢之進	ベートルヴェンの手紙	並新編判	132	一九〇〇	音楽世界社	月六	▲ヴァイクナーの「ベートルヴェン」の譯で樂聖ベートルヴェンを論評す。
鈴木賢之進	ベートルヴェンの手紙	並新編判	132	一九〇〇	音楽世界社	月六	▲音樂形式を中心にして樂曲を分類し、各形式に當る樂曲の例を研究す。
高田 博厚	ベートーヴェン	並四六判	200	一九〇〇	叢文閣	月一	▲未曾有の大ピアノリストばかりでなく作曲家指揮者、教育家をも兼備せるリストの傳記
服部龍太郎	ベートーヴェンの思ひ出	並四六判	268	一九〇〇	春陽堂	月十	▲樂聖バツハの人となり就て後半生三十年間無二の伴侶であつた愛妻アンナの手記
アンナ・バツハ著	ベートーヴェンの思ひ出	並四六判	268	一九〇〇	春陽堂	月十	▲ロマン・ロランの遺書、書簡、一普及版
高田 博厚	ベートーヴェン	並四六判	200	一九〇〇	叢文閣	月一	▲樂聖ベートルヴェンの書翰より最も興味に富めるものを選び邦譯す。
鈴木賢之進	ベートーヴェン論	並四六判	119	一九〇〇	音楽世界社	月四	▲ヴァイクナーの「ベートルヴェン」の譯で樂聖ベートルヴェンを論評す。
湯淺 永年	洋樂鑑賞法	布函判	306	一九〇〇	清教社	月十	▲音樂形式を中心にして樂曲を分類し、各形式に當る樂曲の例を研究す。
森本 登丹	リストの生涯	並四六判	128	一九〇〇	音楽世界社	月一十	▲未曾有の大ピアノリストばかりでなく作曲家指揮者、教育家をも兼備せるリストの傳記

名曲解説・レコード音楽

樂理・樂典

成田 爲三	成田 爲三	門馬 直衛	伊庭 孝	小宮 塚山	小松 耕輔	鹽入 龜輔	弘田 龍太郎	淺木和聲學研究所	服部 龍太郎	阿部 謙太郎
作曲法	作曲法	樂典解	最新樂典	樂典讀本	樂譜の讀方	管絃樂法入門	作曲の初歩	和聲學講義	和聲法實習	ヴァイオリン樂譜の讀み方
洋編	洋編	洋編	洋編	洋編	洋編	洋編	洋編	洋編	洋編	洋編
128	108	438	293	208	134	78	208	76	142	30
一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
音樂世界社	音樂世界社	春秋社	シンフォニー	三省堂	岩本書店	音樂世界社	岩本書店	シンフォニー	春陽堂	平原社
月五	月二	月二十	月一	月三	月六	月九	月八	月六	月一十	月一
▲管絃樂の組織、それに必要な樂器及び管絃樂曲を作曲する方法を解説す。	▲行進曲、變奏曲、ソナータ等各樂曲の形態と構造を説明す。	▲音樂に關する全くの初歩者に音樂の概要を樂譜の讀み方、音樂の研究に分けて解説す。	▲樂譜の種類、音符、音階の發生、各種の拍子其他に分けて樂典を解説す。	▲面白い音樂物語を織り込んで樂典をやさしく解説せるもので、音樂の誕生其他。	▲樂譜及びその法則を記述したもので、樂譜の由來、譜表、拍子其他。	▲管絃樂器の性能、樂器の組合せ、移調樂器記譜の讀み方等を述べ。	▲作曲に就ての基礎理論を説くと共にその實例を示せる書で、調子の選擇外廿九章。	▲ニコライ・リムスキコルサコフの實用的和聲學の解説書。	▲基礎篇、單一音調の和絃による和聲配置、轉回、旋律的粉飾外一章にて説明す。	▲提琴への親しみ、提琴の音域、音の性質、リズムの觀念外三章、附録樂譜を掲載。

樂譜・唱歌集

桂 近手	大中 寅二	高橋 アリスン	志賀 靜男	志賀 靜男	東京音樂出版社編	志賀 靜男	學校體育研究會編	三宅 勝作			
ヴァイオリン音樂入門	オルガン新教本	器樂鑑賞の基礎	聲學教本	聲學教本	歌王女學生の愛唱曲	女聲合唱曲	唱歌遊戯行進	新作青年學校唱歌			
洋編	洋編	洋編	洋編	洋編	洋編	洋編	洋編	洋編			
30	71	255	87	345	127	113	100	38			
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇			
音樂世界社	シンフォニー	共益商社	清教社	清教社	シンフォニー	シンフォニー	成美堂	詩の社			
月九	月十	月一十	月二十	月二十	月六	月八	月九	月三			
▲獨奏ヴァイオリン曲の形式外四篇にてヴァイオリン音樂を解説す。	▲オルガンの練習法を述べ、應用練習曲を掲ぐ。	▲西洋音樂に於ける器樂鑑賞の基礎知識を日本人向きに説けるもので、器樂小史を附す。	▲聲樂史、唱歌法、音聲の衛生、フランス聲樂法等を研究せる聲樂の指導書。	▲コールニューブレンを基本として聲樂を説明せる書で、樂譜、音程、短音階其他。	▲ピアノ音樂發達（野村光一）ピアノ演奏法（笈田光吉）ピアノ練習法（近藤柏次郎）に就て記述す。	▲ピアノの教授法と演奏の理論及び實際練習に就て記述す。	▲唱歌・軍歌、日本民謡、日本名曲、外國民謡、校歌其他ハルモニカの曲譜を収む。	▲藝術的香氣と教育的氣品に重きを置き從來より學校や家庭で愛唱されてゐる名曲を収むもので、春の日、高嶺、雁の叫び其他。	▲二部合唱、三部三唱、四部合唱曲を収めたもので、春の日、高嶺、雁の叫び其他。	▲小學校、女學校の唱歌遊戯、行進遊戯の曲譜を収む。	▲青年學校の歌、我等が日本、大地に立つ、夜明の鐘其他の青年學校唱歌の曲目を収む。

美術・音楽（樂譜・唱歌集・謠曲・能樂・長唄）

四五八

シ ン フ オ ニ ー 編 輯 部 編	シ ン フ オ ニ ー 部 編	大 日 本 軍 歌 集 附・ラバツ志	伊 豆 大 島 別 れ 出 舟	私 の 愛 唱 歌 集	並 菊 半 製 181	上 菊 製 判 122	九 五 九	シ ン フ オ ニ ー 楽 譜 出 版 社	月 六	▲廣く用ひられてゐる唱歌及び情操教育に効果ある唱歌のみを撰集す。
川 路 英 介	伊 豆 大 島 別 れ 出 舟	伊 豆 大 島 別 れ 出 舟	伊 豆 大 島 別 れ 出 舟	私 の 愛 唱 歌 集	上 菊 製 判 205	上 菊 製 判 149	八 三 六	シ ン フ オ ニ ー 楽 譜 出 版 社	月 四	▲軍艦行進曲、勇敢なる水兵、獨立守備隊の歌、日本陸軍其他軍歌をラツバ譜と共に収録
野 々 村 戒 三	名 謠 十 六 番 輯 釋	名 謠 十 六 番 輯 釋	名 謠 十 六 番 輯 釋	名 謠 十 六 番 輯 釋	上 菊 製 判 622	上 菊 製 判 350	特 五 三 〇 〇 〇	早 稲 田 大 學 出 版 部	月 六	▲高砂、鶴龜、羽衣、大原御幸、鉢木、船辨慶外十番の謠曲に解題、通釋、語釋を施す。
野 上 豊 一 郎 編	日 本 味 の 謠 曲	日 本 味 の 謠 曲	日 本 味 の 謠 曲	日 本 味 の 謠 曲	上 菊 製 判 386	上 菊 製 判 350	三 一 〇 〇	成 美 堂	月 二	▲謠曲總論（野上豊一郎）謠曲の古典（和田萬吉）謠曲の眞髓を知れ（坂本雪島）外九篇
横 井 春 野 能 樂 談 叢 書	能 樂 談 叢 書	能 樂 談 叢 書	能 樂 談 叢 書	能 樂 談 叢 書	上 菊 製 判 300	上 菊 製 判 300	二 〇 〇	大 同 館	月 七	▲能樂に關する話を收めた書で、能と謠の常識、謠曲修業時代、名人巨匠の片影其他。
淺 川 玉 兔	名 曲 長 唄、彈 き 方 唄 ひ 方	名 曲 長 唄、彈 き 方 唄 ひ 方	名 曲 長 唄、彈 き 方 唄 ひ 方	名 曲 長 唄、彈 き 方 唄 ひ 方	布 四 六 裝 入 判 300	布 四 六 裝 入 判 300	二 〇 〇	大 同 館	月 七	▲現在の長唄通り物中より四十曲を選び、各曲の原據、由來、語句の解釋、曲節を記述す

七、歴史・傳記

歴史・傳記（史學一般）

著 者	著 書 名	装 形	頁 數	定 價	發 行 所	月 行 設	内 容 大 意
文學博士 小 中 村 清 矩	國 史 學 の 方 法	洋 函 菊 布 入 判	233	一 五 〇 五	東 學 社	月 三	▲國史學の研究方法を述べたもので、古史類軍記類、有職故實に關する圖書外九篇。
廣 島 史 學 研 究 會 編	史 學	並 菊 製 判	134	九 七 五	中 文 館	月 二	▲ヘルデル、シュレーゲル、ヘーゲルの世界史相（四）（千代田謙）外三篇。
廣 島 史 學 研 究 會 編	史 學	並 菊 製 判	162	九 七 五	中 文 館	月 六	▲雲南に於ける日本僧曇演とその遺蹟聚遠樓（杉本直次郎）外四篇。
廣 島 史 學 研 究 會 編	史 學	並 菊 製 判	164	七 九 五	中 文 館	月 九	▲佛誕後二千五百年に當りて（山下寅次）鎖國の成立とその影響（栗田元次）外三篇。
德 富 猪 一 郎	史 論 新 集	洋 函 菊 布 入 判	424	一 八 〇	民 友 社	月 四	▲蘇峰氏の講演より史論に關するもの、みを集めた書で、西郷南洲の再検討外九篇。
長 壽 吉	新 修 史 學 概 論	洋 函 菊 布 入 判	284	二 一 〇	同 文 書 院	月 六	▲史學の理論及び研究、示唆と觀察を記述したもので、序説、史學史研究の條件外六篇。
伊 豆 公 夫	日 本 史 學 概 論	並 菊 製 判	323	一 四 〇	白 揚 社	月 五	▲史學史の方法、現代の歴史學、一日本開化小史」における有産者性と封建性の競合其他
平 泉	萬 物 流 轉	洋 函 菊 布 入 判	257	二 四 〇	至 文 堂	月 一 十	▲史實を通じて不變の準則、永劫の眞理を明かにせる著者の歴史觀。

四五九

歴史・傳記(史學一般・人類學・考古學・民族學・郷土研究・傳説)

人類學・考古學

白柳 秀湖	歴史と人間	第一報	洋装判	414	二〇〇	二〇〇	千倉書房	三月	▲昭和九年度に於ける歴史學に關する論文目録、學界動向、雜誌一覽等を収録。
木下 君雄	人類學	大室學科文庫	洋装判	253	一〇〇	一〇〇	那須書房	三月	▲英雄の二つの型、歴史とチャイナリズム、明治の史論家外十篇。
雄山 閣編	墳墓の研究	郷土誌續編	洋装判	247	一〇〇	一〇〇	雄山閣	五月	▲日本墳墓の變遷大要(柴田常恵)板碑遺説(服部清五郎)支那の古墳(小林知生)其他、

民族學・郷土研究・傳説

竹内 利美編	阿チツクムニエアン童謡集	阿チツクムニエアン童謡集	洋装判	251	二〇〇	二〇〇	アチツクムニエアン	九月	▲長野縣上伊那郡川島村の小學生が約一ヶ年の間に調べた村の生活事象の調査記録。
丸尾 博通	神代の繪話	アチツクムニエアン童謡集	洋装判	108	一〇〇	一〇〇	五色屋書房	二月	▲神代より神武天皇御即位までの繪を掲げて國體の眞髓たる神話を説く。
稻塚 和右衛門	實方秘傳書	アチツクムニエアン童謡集	洋装判	177	一〇〇	一〇〇	アチツクムニエアン	九月	▲出雲藩に於ける榎樹植林の獎勵と生蠶製造の實際的記録たる「木實方秘傳書」の復刻。
後藤 朝太郎	支那民族の展望	支那民族の展望	洋装判	752	三〇〇	三〇〇	富山房	五月	▲實地踏査により支那民俗を研究せるもので衣食住・生活・社會・世相の二篇に分つ。
松村 武雄	神話傳説の支那	支那民族の展望	洋装判	385	一〇〇	一〇〇	サイレン社	十一月	▲支那の典籍を渉獵して目ぼしい神話や傳説を集めた書で、上巻は世界の創生其他、
土橋 里木	續甲斐昔話集	支那民族の展望	洋装判	455	二〇〇	二〇〇	郷土研究社	十月	▲鳥の譚、狐と曾我兄弟、狸の譚、やまめの主、笠地蔵其他の甲斐に傳はる昔話を收む。
井上 和雄	寶船考	支那民族の展望	洋装判	136	一〇〇	一〇〇	昭森社	三月	▲寶船に就て考察せるもので、寶船の概説、寶船の傳説と風俗外三篇。

歴史・傳記(民族學・郷土研究・傳説・日本通史・日本史一般)

日本通史・日本史一般

藤澤 衛彦	傳説と風俗	民間文庫(二)	洋装判	34	三〇	三〇	社會協會	一月	▲日の出を拜する民俗傳説、門松の風俗と傳説、菊の傳説と風俗外三篇。
蘆谷 蘆村	東西傳説物語	東西傳説物語	洋装判	294	一〇〇	一〇〇	言海書房	六月	▲新婚傳、鯖釣、うばすて山ばなし、妬夫傳其他の妖怪傳説に關する物語を收む。
喜納 綠村	南の昔話	南の昔話	洋装判	326	一〇〇	一〇〇	學而書院	九月	▲南の海上に姿を横たへてゐる鳥々の昔話を集めたもので、蜃蜃の遠征をはじめ六十篇、
平野 吟吉	日本精神とお墓	日本精神とお墓	洋装判	216	一〇〇	一〇〇	小森家	三月	▲忠孝の信念と家族制度、墓と家運との關係墓は如何に營んだら宜いか外一編、
三浦 圭三	新編標準日本名話集	新編標準日本名話集	洋装判	264	一〇〇	一〇〇	白鳥社	七月	▲日本文學中の名話を兒童に聽かせる爲に平易に叙述せるもの。
方國學院大學	風位考資料	風位考資料	洋装判	246	九〇	九〇	方國學院大學	一月	▲我國各地に於ける風位に關する方言を五十音順に配列せるもの。
細谷 清	滿蒙傳説集	滿蒙傳説集	洋装判	343	一〇〇	一〇〇	滿蒙社	八月	▲滿蒙各地に於ける口碑、傳説を蒐集したもので、大和尚山、娘娘廟、老彌羅其他。
細川 謙二	俚諺讀本	俚諺讀本	洋装判	329	一〇〇	一〇〇	厚生閣	十一月	▲我國に於て使用されてゐる俚諺を五十音順に排列し、意味、使ひ方、味ひ方を示す。
雄山閣編輯局編	外觀日本史論	外觀日本史論	洋装判	303	一〇〇	一〇〇	雄山閣	五月	▲國史に對する我等の態度(徳富猪一郎)上古時代の概観(本多辰次郎)其他、
森 俊茂	木質國史概観	木質國史概観	洋装判	400	一〇〇	一〇〇	有精堂	二月	▲大學入試其他相當高き國史教養を目的として書かれた書で、上世外三編、
黒板 勝美	資料國史概観	資料國史概観	洋装判	381	二〇〇	二〇〇	吉川弘文館	六月	▲國史に關する重要な資料を摘録し圖表を加へ本文と對照しつゝ説明す。
櫻井時太郎編著	國史大觀	國史大觀	洋装判	1064	二〇〇	二〇〇	研究社	四月	▲國史の大綱を叙述し、斯界の新研究を紹介せる書で、第二卷は中古史(二)を收む。

藤嶋俊茂	黒板勝美	赤堀又次郎	大森金五郎	栗田元次	栗田元次	平井儀平	北垣恭次郎	伊豆公夫・三澤章
訂東國史の意義	訂東國史の意義	國體及國史のはなし	新國史論叢	綜合國史研究	綜合國史研究	日本史	日本文化史	日本歴史教程
布四六	布四六	洋四六	洋四六	布四六	布四六	洋四六	洋四六	洋四六
244	584	507	509	520	465	534	546	367
一五〇	三三〇	二〇〇	二〇〇	三三〇	三三〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇
章華社	岩波書店	富山房	吉川弘文館	同文書院	同文書院	富士書房	日實業社	白揚社
月五	月一	月六	月二十	月一	月一	月三	月二	月二十
▲國史に關する諸種の文を収めたもので、何の爲に國史を學ぶか外十三章。	▲皇家中興時代、中武家時代(一―三)新武家時代(一―七)、明治維新にて完結。	▲國體及政體、武士の經濟、歷史上より見たる農村、徳川時代の商人外十三章。	▲國史に關する論文を収めたもので、國史の使命、我が國史より觀たる政治の變遷其他。	▲中巻は近世史、現代史、雜載の八章に分けて國史を研究す。	▲下巻は史料を収めた書で、聚成史料、文書記録、叢書の三章。	▲日本精神を基調として日本歴史を講述せる参考書。	▲下巻は室町時代の初期より江戸時代後期までを収む。	▲日本歴史を唯物史觀的に研究せるもので、日本歴史の概要(コンラード)外四章。

日本上古・中古・近古史

加藤清司	小松綠	史科編纂所長 辻善之助	玉屋喬雄	福地源一郎	徳富猪一郎	渡邊幾治郎	白柳秀湖	白柳秀湖
女性を中心とした江戸時代史	錦旗を繞りて	田沼時代表	幕府衰亡論	近世日本國民史(2)	文久元治の時局	明治史講話	明治大正國民史	明治大正國民史
布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六
388	422	346	420	321	561	373	450	458
二〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇	一八〇	二五〇	二五〇	一五〇	一五〇
學術出版社	千倉書房	日本學術會	弘文莊	國文館	民友社	吉川弘文館	千倉書房	千倉書房
月一	月四	月二	月四	月一	月八	月一十	月六	月九
▲江戸時代史を女性中心に裏面から述べたもので、女流の活動、大名の大奥外六篇。	▲幕末、明治維新より王政復古當時の有様を史實に基いて闡明す。	▲田沼意次を中心とする時代の政治及び社會現象の一般を述べた書。	▲下巻は江戸灣測量―同退去より琉球―臺灣マニラ―歸國までを収む。	▲福地櫻痴居士の幕府衰亡論で、幕府衰亡の因山、幕府當初の對外政略外廿一章。	▲長藩の同情者、長藩の内訌、長藩の出陣運動、西郷隆盛の上京外十五章。	▲王政復古、明治天皇の親政、立憲政治、國勢發展外六章にて敘述せる明治通史。	▲王政復古と復古主義思想の二大系統、大町人階級の擡頭外二篇にて記述す。	▲科學文化及び英・米・佛・資本主義の東漸開國及び維新外二篇。

日本近世・現代史

歴史・傳記(日本近世・現代史・日本社會・制度・經濟史・日本風俗史・史料・史籍・史蹟)四六四

日本社會・制度・經濟史

德富猪一郎	近世日本國民史(2)	大和及生野義學	洋四六 布入判 569	二五〇	民友社	月五	▲本書は八月十八日事件後の形勢、親征非親征兩派の申分外十六章。
細川龜市	寺社領庄園制度史	洋四六 布入判 596	二九〇	東學社	月三	▲王朝時代及び鎌倉室町時代に於ける寺社領庄園を個々に就て検討す。	
徳田 鏡一	中世に於ける水運の發達	洋四六 布入判 337	三二〇	章華社	月二十	▲我國の中世に於ける水運の發達に就て記述せる書で、莊園制に於ける水運の發達外三章	
大羽 類正	日本城郭史	洋四六 布入判 732	六〇〇	雄山閣	月一十	▲太古から明治維新までの我國の城郭を上世中世・近世・最近世に大別して記述す。	
鳥羽 正雄	日本城郭史	洋四六 布入判 320	三〇〇	中文館	月十	▲日本に於ける武家政治の歴史、鎌倉室町時代の小作制度及び名主を研究す。	
新見 吉治	武家政治の研究	洋四六 布入判 357	三〇〇	中文館	月十	▲武蔵野に於ける史蹟を記述したもので、蒲田の梅屋敷、天寶山、矢日の渡其他。	

日本風俗史

中山 太郎	續日本盲人史	布四六 裝入判 226	二五〇	昭和書房	月八	▲本巻は古き語部から新しき御伽衆へ、兩夜神社の祭神は盲神か以下十章より成る。
江馬 務	日本結髪全史	布四六 裝入判 337	三〇〇	出版部	月四	▲我國に於ける髮風の時代的變遷を記述せるもので、序説、固有風俗時代外四章。
江馬 務	日本風俗寫真大觀	布四六 裝入判 707	三〇〇	新誠堂	月八	▲上代より明治時代までの風俗寫真を掲げ、それに解説をなす。
江馬 務	日本風俗寫真大觀	布四六 裝入判 357	三〇〇	新誠堂	月八	▲風俗史研究の立場から文身風俗の變遷を述べた書で、刺青風俗の起原外八章。
玉林 晴朗	身百姿	上四六 裝入判 310	三〇〇	新誠堂	月十	▲武蔵野に於ける史蹟を記述したもので、蒲田の梅屋敷、天寶山、矢日の渡其他。

史料・史蹟

寺島 裕	史蹟の武蔵野を採わて	洋四六 布入判 310	三〇〇	新生堂	月五	▲武蔵野に於ける史蹟を記述したもので、蒲田の梅屋敷、天寶山、矢日の渡其他。
------	------------	-------------------	-----	-----	----	---------------------------------------

歴史・傳記(史料・史籍・史蹟・年表・辭典・地方史)

年表・辭典

東京帝國大學名譽教授 文學部主事 板勝 美編	更國史研究年表	洋四六 布入判 338	一八〇	岩波書店	月六	▲國內資料に限らず朝鮮支那及び西洋諸國に亘り國史研究の參考に資すべきものを蒐録す
官井 幸造	世界歴史大年表	洋四六 布入判 458	三〇〇	平凡社	月八	▲整備された世界歴史大年表で、序説、世界歴史大年表、系圖の三部より成る。
宮城 俊治	世界歴史大年表	洋四六 布入判 2591	三〇〇	姓氏家系大辭典刊行會	月二十	▲第三卷は「ナ」より「ワ」までの姓氏家系を解説せるもの。
太田 亮	大日本女性人名辭書	洋四六 布入判 623	三〇〇	厚生閣	月十	▲我國の歴史文獻に現はれた一切の著名なる女性を網羅し史實による正確なる事蹟を記す

地方史

市村 成人	伊那史概要	並四六 裝入判 413	一八〇	信濃郷土出版	月一	▲長野縣伊那地方の歴史を研究せるもので、先史時代、上代、奈良時代外九章。
静岡師範學校	概説静岡縣史	洋四六 布入判 323	二〇〇	谷島屋	月二	▲静岡縣の黎明から如何にして今日の静岡縣になつたかを敘述せるもの。
紺野 浦二	大傳馬	和四六 裝入判 299	三〇〇	學藝書院	月二十	▲日本橋大傳馬町にある著者所有の木綿店を中心とする隨筆及大傳馬町に關する史料收録

戦史・陸海軍史

伊奈 健次	筑後郷土通史	久留米 筑後郷土 研究會	月二十	▲筑後の郷土史を明かにしたもので、上巻は筑後全部に就て敘述す。
安藤 徳器	軍部總觀物語	言海書房	月八	▲軍部に關する總觀的な物語を収めたもので陸海軍大將の話、軍旗の話其他。
春藤 與一郎	今世界大海戰史	大同館	月四	▲世界史上に於ける重要な海戰の原因結果海戰の狀況其他を通俗的に記述す。
井口 木犀	長篠戰跡史	川堂	月七	▲武田信玄の戦後より長篠の戦を経て武田氏の滅亡までを史實に基いて記述す。
乃木 將軍	乃木將軍日記	遺徳顯彰會	月二十	▲明治二十七年一月一日より七月十三日まで乃木將軍の日記を収めたもの。
萩原 時夫	妻鏡史話	大同館	月五	▲頼朝時代の武家社會の出來事を書いた「吾妻鏡」を基準として平易に説いた史話物語。
萩原 時夫	妻鏡史話	大同館	月五	▲頼朝の家督相續より「吾妻鏡」の最終の記事たる宗尊親王の御歸洛までの史實を説く。
田中 光顯	新夜話	改造社	月四	▲明治維新當時の懷舊談で、著者と共に日夜國事に奔走せる殉節志士の事蹟を顯す。
齋藤 隆三	江戸のすがた	雄山閣	月二十	▲江戸時代中の安永天明、文化文政の江戸の姿を描いたもの。
魚澄 惣五郎	京都史話	章華社	月三	▲京都を史的に考察せるもので、平安都城の經營、京都と庶民の生活外七篇。
歌古川 文鳥	土夜話	日本公論社	月七	▲幕末、明治に於ける英雄、武將、國士、義士、烈女、學者等の逸話を集録す。

東洋史

赤松 啓介	東洋古代史講話	白揚社	月八	▲洪積世社會的地域的文化的分化及種族形成過程に及ぼした體質的言語學的的作用を敘述す。
同文書院編輯局編	新綜合東洋史	同文書院	月四	▲古代、中世、近古を簡略に、近世及び現代を詳述せる東洋史の研究。
鳥山 喜一	小支那黄河の水	刀江書院	月二	▲支那の歴史を描いたもので、黄土を離臺に天命の動き、萬里の長城其他。
大木 賢三	弓矢の歴史を語る	春潮社	月二十	▲弓矢に關する研究を隨筆的に書いたもので有史以前のうちに就いて其他。
關 一	水戸烈公の國防と反射爐	新誠光文社	月十	▲水戸烈公の反射爐建設の由來より壊滅に至るまでの大體を敘述す。
櫻井 忠温	武將論	大都書房	月十	▲高山重忠、菊池武時、楠木正成、北條早雲、武田信玄、西郷隆盛其他の武將を論ず。
士橋 眞吉	楠公史	英進社	月十	▲日本精神を具體的に實現した偉人大楠公の全貌を凡ゆる角度から描く。
中里 介山	續日本武術神妙記	隣人之友社	月一十	▲前編に漏れた日本武術の粹を典據ある記録に依つて收めた数百の逸話集。
廣瀬 敏子	松陰先生にゆかり深き婦人	武蔵野書院	月四	▲吉田松陰先生に縁故深き生母、養母、長妹、次妹、末妹、門弟の母等の婦人を物語る。
皇國史研究會編	趣味の國史物語	東京學友社	月四	▲特殊な歴史の權威の問題、説明の共通性と特殊な、皇威の尊嚴外六篇。
遊谷 重常	國民説話と國體	育協會	月八	▲我國の歴史を物語つたもので、建國篇は高天原、天の岩戸より大和建國まで。

歴史・傳記(東洋史・世界史・西洋史)

野松	内藤	歴史學研究會編	田中萃一郎
原田	湖南	東洋文化史研究	藤田
四郎男	東洋文化史研究	滿洲史	中萃一郎
東洋史序説	東洋文化史研究	滿洲史	藤田
152	383	409	331
二〇〇	三〇〇	二〇〇	九〇
四海書房	弘文堂	四海書房	岩波書店
四月	四月	三月	二月二十
▲有史以前の支那とその傳説、南北朝の社會と文化外十四章にて東洋史を敘述す	▲主として支那滿洲の文化に關する研究を収録した書で、支那上古の社會状態外十六篇。▲滿洲史研究(三島一)滿洲事件と支那人の滿洲研究(鈴木俊)外十二篇。▲蒙古の歴史を記述したもので、上巻は成吉思汗の事蹟を敘す。		

世界史・西洋史

太田千鶴夫	藤原誠	内藤智秀編	伊藤政之助	栗原佑	岡本良知	荒畑勝三	武治
西醫學	概觀世界近世史	世界文化	戰争	日歐交通史の研究	日歐交通史の研究	普佛戰争史	滿洲事變の世界史的意義
304	613	425	1256	363	857	403	371
二〇〇	四〇〇	三〇〇	三〇〇	九〇〇	一〇〇〇	九〇〇	一〇〇〇
象文閣	學藝社	章華社	行争會史	改造社	弘文莊	改造社	大陸國策
九月	八月	四月	十一月	八月	九月	九月	九月
▲歐羅巴醫學歴史を敘述したもので、古代、中世紀、文藝復興期外四章。	▲人類の主潮的な活動發展を捉へた世界近世史で、世界史の出発點外四章。	▲近代篇は大類仲氏の「文藝復興時代の文化」山中謙二氏の「宗教改革」外五篇を収む。	▲埃及、パピロニアの昔より西羅馬滅亡に至る西洋古代諸國の間に行はれた戰争を敘述す。	▲獨逸社會民主黨の理論家メエリッゲの獨逸史で、序論、宗教改革と其結果外六章。	▲ポルトガル人渡來以前日本との交渉及びポルトガル人エスパーニヤ人の航通通商を研究す	▲エンゲルスの普佛戰争論「戰役雜記」を譯せるもの。	▲米人史家ギボンス氏の説、支那歐米依存史並日本東亞防衛史外三章。

歴史・傳記(世界史・西洋史・日本人傳記)

齊藤清太郎	岡田宗司	西村文則	小松文述	小松文述	小松文述	三笠書房	姉崎正風	井上	鷹山公研究会編	藤澤重雄	雜賀博愛	寺田剛
露西亞史講話	露西亞史講話	會澤伯民	伊藤公直話	伊藤公直話	伊藤公直話	偉人を語る	偉人凡人一百人	上杉謙信	上杉謙信と其の振興政策	内村鑑三	新英傑群像	大橋訥菴先生傳
612	716	443	372	472	286	345	279	294	455	486	336	
三〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
明治書院	學藝社	章華社	千倉書房	千倉書房	三笠書房	厚生閣	農民社	巖松堂	內村鑑三	新英社	至文堂	
十一月	八月	二月	七月	十一月	十月	八月	十二月	七月	三月	九月	十一月	
▲マルクス主義者によつて書かれたロシア史で、初世紀よりケレンスキイ時代に及ぶ。	▲露西亞の建國の初めからスターリンの獨裁政治が起る時までの露西亞通史。	▲水戸學の大思想家、大教育家にして尊王攘夷論を鼓吹した會澤伯民を語る。	▲伊藤博文の公私細大各方面に於ける直話を蒐集せるもので、人物傳外四編に分つ。	▲伊藤山縣兩公の勳功を列擧對照し、兩公を繞る傑士烈女を點綴しその表裏の活躍を描く	▲明治天皇の御鴻徳(田中光顯)西園寺公と私(近衛文麿)乃木大将(井上哲次郎)其他	▲大江卓、中村不折、菊池大麓、酒井忠勝、千葉周作等一百人の逸話を掲ぐ	▲上杉謙信の事蹟を研究せるもので、出生と幼時の修業、下越地方の鎮撫其他。	▲東北振興と上杉謙信(金森太郎)鷹山公の因作對策と郷倉制度(青柳克己)外七篇。	▲内村鑑三氏の信仰及び思想を纏めたもので前半生靈的苦闘、教義篇の二篇。	▲岩倉友山、三條實美、大久保甲東、木戸松菊、雲井龍雄外八名の維新の英傑を物語る。	▲吉田松陰、橋本景岳の死後全國志士の輿望を擔つて王復復古に奔走した大橋訥菴傳。	

入澤 宗壽	石黒 忠恵	宮内省圖書官 榎下 快淳	兒玉 希聖	佐藤 仁之助	熊谷 辰治郎	長谷川 時雨	松尾 樹明	中外圖書新聞記者 田中 仁	秋田 雨雀	安藤 徳器	白田 石楠編	上田 庄三郎
貝原 益軒	懐 舊 九十年	和宮様の御生涯	川 合 玉 堂	崎 人 傳	郷土に輝く人々	近代美人傳	九條武子夫人のお話	小 林 一三 「今日の築くまで」	五十年生活年譜	西園寺公と湖南先生	西郷南洲言行録	青年教師啄木
新四六判	布四六判	上四六判	洋四六判	布四六判	布四六判	上四六判	洋四六判	洋四六判	並四六判	布四六判	布四六判	布四六判
188	500	255	218	413	311	534	392	135	225	231	186	241
九〇	三三〇	一〇〇	三三〇	一四〇	一〇〇	三三〇	二〇〇	九〇	〇〇	三三〇	〇〇	〇〇
春秋社	博文館	人文書院	美術往來社	大都書房	泰文館	サイレン社	大同館	信正社	ナウカ社	言海書房	玄洋社	啓文社
月五	月四	月四	月一十	月二十	月五	月三	月二十	月二十	月四	月四	月一十	月一十
▲貝原益軒の生活と時代と思想とを分析、叙述したもので、益軒とその時代外二篇。	▲明治、大正、昭和の三朝に歴仕せる桐密顧問官石黒忠恵子爵の九十年の懐舊録。	▲幕末の難局を御身を以て御救ひになつた和宮様の御生涯を物語る。	▲明治以来日本の畫壇に光彩陸離たる業績を示せる珠玉の如き人格者川合玉堂の傳記。	▲南畫家三浦花順が近世時人の模像を描き伴高蹊がその傳を記した「崎人傳」を解説す。	▲全國各地に於て日夜奮々と天職に盡す人々を紹介せる書で、田園の奮闘兒飯島久氏其他▲明治、大正時代に於ける美人の傳記を述べた書で、マダム貞奴、九條武子其他。	▲清雅の明眸と詩操に富み、信仰に救済に社會事業につくした婦人の鑑九條武子夫人傳。	▲財界の人氣者小林一三氏が今日を築くまでを述べたもので、阪急以前外三篇。	▲著者の誕生より現在まで歩いて來た道を年代順に記述す。	▲西園寺公と公より望外の知己と信頼された一代の碩學内藤湖南先生を語る。	▲不出世の巨人西郷南洲の傳記及び一言一行を収めたもの。	▲青年教師としての啄木の評傳で、青年の時代と青年教師、永遠の青年啄木外六篇。	

木崎 好尙	丸山 幹治	村松 梢風	奥平 祥一	高橋 是清	本田 清一	片岡 彌吉	戸坂 潤	澁澤 秀雄	市川 左團次	東京日日新聞社編 大阪毎日新聞社編	安藤 徳器	中野 刀水編
青年頼山陽	副島種臣伯	續本朝畫人傳	尊徳の生活	高橋是清自傳	聖徳の高橋元一郎	高山右近大夫長房傳	探險英雄傳	父の思い出	父左團次を語る	父の映像	陶庵素描	頭山滿翁の話
布四六判	布四六判	上四六判	並四六判	布四六判	並四六判	洋四六判	並四六判	並四六判	布四六判	布四六判	上四六判	布四六判
267	358	403	204	806	286	224	334	96	280	329	214	349
一、五〇	二、〇〇	二、三〇	〇、七〇	一、八〇	九、五〇	一、〇〇	一、七〇	三、三〇	二、〇〇	一、四〇	一、一〇	一、一〇
章華社	大日报社	資文堂	同文館	千倉書房	關谷書店	カトリック中央書院	改造社	育社協會	三笠書房	東京日日新聞社 大阪毎日新聞社	新英社	新英社
月一	月四	月七	月四	月二	月五	月一十	月二十	月一十	月一十	月六	月七	月十
▲頼山陽の青年時代を物語つたもので、立志柴野栗山の教訓「外史」の功程其他。	▲維新の元勳中一種特異の風格を有した副島種臣伯の傳記で、通俗味のない人格其他。	▲廣業、觀山、百穂、春舉の故四大家の傳を叙し、唐詩選繪卷其他の隨筆を収む。	▲二宮尊徳翁の生涯を物語つたもので、その生立ちと涙多き少年時代外七篇。	▲生ひ立より現在に至るまでの波瀾重疊、數奇極まる高橋是清翁の生活記録。	▲純情の詩人にして宗教家たる高橋元一郎氏の傳記小説で、貧乏をびす、雨の鳴川其他。	▲吉利支丹大名中にあつて堅信者の隨一として著名な高山右近の傳記。	▲寒帯、熱帯、辟地、奥地等を探検せる人への傳記を収む。	▲玄關先、汽車で思出すこと、手紙で叱られた話外十七章に分けて語られた澁澤翁の傳記を語りその明治時代を物語る。	▲先代左團次の養父四世小團次及び父左團次を語りその明治時代を物語る。	▲大毎、東日に連載された「父の映像」を纏めた書で、犬養毅(犬養健)外十一篇。	▲一個の學識すべき趣味人、偉大なる徹人としての西園寺公の半面を描く。	▲頭山滿翁の話及び逸話を集めたもので、青年は意氣を尙ぶ、民權婆さんとは其他。

日佛會館編	富井男爵追悼集	中濱萬次郎傳	二宮尊徳の研究	二宮尊徳の思想と行績	高須虎六	徳富蘇峰	服部純雄	正木不如丘	菅原兵治	安藤徳器	齋藤弔花	岩崎榮	雜賀鹿野	安藤徳器
並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編	並編
上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六
製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判
171	517	165	358	206	415	328	195	378	281	240	543	316		
一〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
日佛會館	富山房	理想社	高陽書院	關谷書店	刀江書院	新潮社	新英社	言海書房	春秋社	新潮社	新英社	言海書房		
月十	月五	月二	月三	月二	月十	月六	月三	月一	月十	月四	月五	月七		
▲我國法學界の泰斗にして民法起草者の一人なる故富井政章男爵に寄せられた追悼文集。	▲歐米諸國を流浪し、幕末明治維新當時新日本建設に盡せる中濱萬次郎傳。	▲二宮尊徳の哲學思想(井上哲次郎)二宮尊徳と經濟更生(後藤文夫)外十篇。	▲二宮尊徳の生立と修養、事業と教化、思想と教理等を叙述せる書。	▲日日新聞に掲載された「日本精神と新島精神」を収め、新島襄小傳(湯淺與三)を附す。	▲學習院長としての乃木將軍の育英精神を事實を基調として物語る。	▲人類の恩人たる野口英世博士の生活記録を檢討し眞の人間野口を描ける傳記。	▲二宮尊徳の人物及び教學を研究せるもので序説、二宮尊徳の人物外二章。	▲渡邊華山、高野長英外四十五人の幕末に於ける偉人を物語る。	▲赤十字精神にその生涯を捧げた萩原タケ子女史の傳記。	▲非常時日本の礎石たる新首相廣田弘毅氏の傳記で、少年の頃、青年時代外三篇に分つ。	▲藤田東湖、吉田松陰、清河八郎、西郷南洲其他維新の風雲と共に躍動せる人傑を物語る。	▲山陽と蘇峰、馬琴と英治とを物語れるもの。		

高瀬代次郎	細井平洲の生涯	教育思潮研究会編	水の前畑秀子物語	波邊幾治郎	明治天皇と輔弼の人々	田制佐重	山鹿素行	中野光治	春の文庫第百四十二	政村敏雄	吉田松陰	崔承喜	私の自叙傳	野間清治	私の半生	佐藤充	アルベルト・シュニツェル	廣瀬哲士	英雄の生涯	渡邊良三	巨豪ヒンデンブルグ傳
並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六
製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判
123	130	363	109	190	397	143	613	444	260	158	316										
六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
巖松堂	教育思潮	千倉書房	春秋社	春秋社	岩波書店	日本書莊	千倉書房	關谷書店	千倉書房	信正社	日實業社										
月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十
▲徳川時代に於ける教育家細井平洲の生涯を物語る。	▲第十一回オリズムビツク大會の女子二百米平泳に優勝せる前畑秀子嬢の半生記。	▲御修養時代の明治天皇、明治天皇と輔佐重臣及び勳舊、功臣並に不遇の偉材等を語る。	▲山鹿の生涯、學風と人物、士道論、教育説及び日本精神の高調に就て述叙す。	▲吉田松陰の生立より終焉までを述べたもので、郷閭諸師に就學外九篇。	▲山鹿流兵學師範時代、遊歴時代、第一回在獄時代外四章にて述べた吉田松陰の傳記。	▲半島の舞姫崔承喜氏の半生の記録で、父、舞師への首途、石井漢先生其他。	▲一中等學校卒業生より身を起し世界一の雜誌王となる迄の波瀾萬丈の半生を描く。	▲宗教々育家、音楽家學者としてのシュニツェル、アルベルトの生立ち、思想事業を述べ、描ける評傳で、コルシカを出づ外廿五章。	▲明治時代の日本の成長に捧げつづいたイーストレーキ博士の憶ひ出をナヲミ夫人が語る。	▲ドイツの大統領となり祖國をして今日の雄飛に向はしめたヒンデンブルグ傳。											

八、地理・紀行

(11-1)

著者	書名	装釘	頁数	送料	発行所	発行月	内容大意
綿貫 勇彦	地理學辭典	洋装	330	二六	開隆堂	四月	▲地理を讀む上に必要な語を五十音順に収録して説明を施せる辭典。
小田 内通敏	田舎と都會	洋装	249	〇七	刀江書院	五月	▲都會と田舎が夫々の特徴を持ちつゝ相互扶助になつてゐる有様を描いたもの。普及版。
城内 辰尾	趣味の自然地理	洋装	210	一〇	出版部	四月	▲自然地理を平易に説明せるもので、緒論。陸界地理學、水界地理學外二編。
中澤 辨次郎	輪中聚落地誌	洋装	557	六八	日本農村問題研究所	八月	▲濃尾勢三州に跨る輪中地域の聚落地誌で、輪中聚落地域の成型觀察外二編及び附録。
田中 秀博	經濟地理學要義	洋装	243	二二	地人書館	五月	▲經濟地理學の基礎的にして緊要なる綱目を選定し理論的に實證的に叙述す。
橋本 弘毅	經濟地理學の諸問題	布面	353	二二	叢文閣	九月	▲經濟地理學の現状と當面の任務(ワシユーチン)外五篇。

地理・紀行(地理學一般・自然地理・人文地理・經濟・産業地理)

(11-2)

著者	書名	装釘	頁数	送料	発行所	発行月	内容大意
ウラチミルツオフ著 小林 高四郎 譯	チンギス・ハン傳	洋装	216	二六	日本公論社	四月	▲亞細亞、歐羅巴の大部分を従へて字内未曾有の大帝國を築いた成吉思汗の傳記。
鶴見 祐輔	チンスレリ	布面	534	一六	講談社	八月	▲英國の大政治家チスレリの傳記で、文學青年時代の落選政治家、新代議士外五章。
モリストイ著 森本 一登 丹澤 正策 譯	トルストイの生涯	上四六	443	一六	日本書莊	八月	▲比類なき文豪、人道主義の熾烈なる闘士たるトルストイの劇的生涯の全貌を描く。
黒田 禮二	獨裁王ヒットラア	洋装	365	一四	新潮社	四月	▲大戦後に於けるドイツの社會的・政治的・事情を背景に描けるヒットラアの評傳。
深澤 正策	發明王エチソン	洋装	367	一四	新潮社	四月	▲發明王エチソンの傳記で、二つの世界を結ぶローマンス、青年の勇氣其他。
チユウニルグロ著 椎名 其二 譯	フアブルの一生	洋装	484	一〇	叢文閣	一月	▲昆蟲學者として又靈妙の詩人たるフアブルの生涯を語る。
フランクリン著 金井 萌和 譯	フランクリン自叙傳	洋装	276	九〇	日實本業社	十月	▲一印刷工から身を起し刻苦精勵遂にアメリカ建國の元勳になつたフランクリンの自叙傳
今村 俊三	滿洲國の要人を語る(譯者注)	並装	86	九〇	日支問題研究会	五月	▲現に活躍しつつある滿洲國の一部の人物を紹介せるもの。
澤田 謙	ムツソリニ傳	布面	518	二二	講談社	四月	▲ムツソリニの少年時代よりエチオピア出兵までを描いた傳記。新訂版!
芥川 龍之介	私生活	上四六	244	一〇	三省堂	一月	▲世界盲人の母と仰がれるに至つたケラー女史が絶望から希望を見るに至るまでの經驗録

歴史・傳記(外國人傳記)

日本温泉協會編	ポケット温泉案内	三 五 判	262	元裕社	十月	▲全国温泉地の交通、泉質効能、旅館、遊覽土産品等を紹介し日記欄集印欄を附す
吉原良三	探訪地名所と山水	洋 四 六 判	666	廣文社	一月	▲關東地方を中心として各地の名所、舊蹟等の紀行記を収めた書。附ハイキングコース
サトウハチロー	僕の東京地圖	並 四 六 判	442	有恒社	八月	▲朝日新聞に連載されたもので、東京各地の盛り場、舊蹟等を面白く描いたもの
富岡丘藏	武蔵野の屋敷林	洋 四 六 判	166	嵩山房	五月	▲武蔵野の郷村を中心として、その發展推移の過程、屋敷林の中の事件其他を収む
ダイヤモンド社	旅窓に學	布 四 六 判	778	モダンド社	十二月	▲東日本の車窓に映る山岳、河川、平野、都邑、名所、史蹟、産業等を調査紹介す
住友山岳會	増訂近畿の山と谷	布 四 六 判	547	朋文堂	七月	▲近畿地方に於ける山や溪谷に就て住友山岳會員の實地踏査に基て記述す。改訂増補版
藤田信道	積雪期登山	布 四 六 判	313	朋文堂	十一月	▲積雪期登山の技術及び準備に就て記述せるもので、積雪期登山の準備外六章。普及版
東京登歩溪流會	谷川	布 四 六 判	437	弘明堂	六月	▲谷川岳に關する東京登歩溪流會の全會員の綜合研究及び登攀記録を基礎として研究す
平賀文男	中央アルプスと御岳	布 四 六 判	333	大村書店	七月	▲中央アルプスと木曾御岳の位置、地形、動物、登山志を述べ、登山案内を説明す
朋文堂編	東京附近山の積雪期旅	布 四 六 判	437	朋文堂	八月	▲中央アルプスと木曾御岳の位置、地形、動物、登山志を述べ、登山案内を説明す
中村敬那	温泉・登山・ハイキング・スキー	布 四 六 判	332	大村書店	九月	▲温泉地、スキー地、登山及びハイキングの好適地としての那須を紹介せる案内書
矢網島市定治郎	日光國立公園	並 四 六 判	158	地人社	七月	▲日光國立公園の全般に亘つての案内書で、總説編と登山編に分け、詳密地圖を附す

信濃山岳會編	日本アルプス登山要項	三 五 判	203	信濃山岳會	六月	▲初心者にも便するやう要項を編し登山概念圖を添へた日本アルプスの登山案内。改訂版
冠松次郎	日本北アルプス登山案内	布 四 六 判	577	第一書房	六月	▲日本北アルプスの特色を説き、初心者向き練達者向き二通りのコースを挙げ解説す
栢植清編	富士登山案内	並 四 六 判	221	觀光協會	六月	▲世界の名山富士の登山案内で、靈峰富士、登山案内、富士山の氣象外六章
高畑棟材	山麓通信	寄 四 六 判	322	昭森社	六月	▲陣馬山の麓に住む著者がその附近の自然と人生、隨想及び紀行を収む
岸田日出男	吉野	上 四 六 判	388	郷土研究社	三月	▲吉野群山の登山記と紀行文及び隨筆其他を収めたもの
池田宣政	グロブスタンプリカ探検記	布 四 六 判	378	講談社	十一月	▲アフリカを探検して地理學上、博物學上に貢獻したりビンダゴストン博士の探検記
野口米次郎	印度は語る	上 四 六 判	289	第一書房	五月	▲學術講演の爲に印度へ旅行せる折の紀行隨筆で、さらば故國よ、天に輝く黄金塔其他
下田將美	歐亞點描	並 四 六 判	330	一元社	五月	▲歐洲及亞細亞を旅行せる旅の印象記で、夕闇のバルカン、賭博のジャソ其他。普及版
谷川博	歐洲見物案内	洋 四 六 判	663	歐米旅行社	五月	▲歐洲諸國の各地に於ける風俗、名所、舊蹟其他の状況を紹介す
武者小路實篤	歐洲見聞記	上 四 六 判	277	山本書店	十二月	▲渡歐前雜感、上海にて、南十字星、伯林の映畫、伊太利の旅其他より成る歐洲見聞記
菱谷惣太郎	歐米鐵道行脚	布 三 六 判	142	春秋社	十一月	▲一ヶ年二ヶ月間歐米に滞在せる鐵道人菱谷氏の旅行印象旅

山本 實彦	支那	上四六	製入判	429	二〇〇	改造社	九月	▲杭州、南京、蘇州、上海を旅行せる旅行記及び遼東問題、支那政治問題に關して語る。
木下 乙市	世界三周の印象	洋四六	布入判	490	二〇〇	日本貿易振興會	七月	▲三回に亘つて世界一周した視察記録を纏めた書で、世界周遊記外一編に分つ。
藤田 健治	行紀 世界圖繪	洋四六	布入判	115	二〇〇	岡倉書房	三月	▲東京を描く、北京素描、墨西哥風景外二篇の紀行文に藤田氏の繪を配す。
岡本 かの子	行物誌 世界に摘む花	上四六	製入判	384	二〇〇	日實本業社	三月	▲昭和四年から七年までの歐米遊學中の紀行文集で、巴里のキヤフエ其他。
平路 社編	世界旅行奇譚史	上四六	製入判	207	九〇	平路社	十一月	▲人類が如何にその好奇的冒險によつて未知の世界に對する視野を擴めたかを述ぶ。
平岡 雅英	ソヴエトは極北を征服する	上四六	製入判	371	二〇〇	ナウカ社	六月	▲ソ聯邦の北極探検船チエリユスキンの遭難と救出の記録。
中里 介山	旅と人生	上四六	製入判	327	二〇〇	隣人之友社	五月	▲五日の旅、支那漫遊記、八ヶ岳不登記、山水評判、京洛行影外四篇の紀行文を収む。
三省堂 旅行部編	朝鮮滿洲旅行案内	並新六	製入判	60	六〇	三省堂	五月	▲朝鮮及び滿洲の交通圖を掲げ鐵道の線別に都市、名所、遊覽地等を紹介す。
宮内 福男	天竺浪々	上四六	製入判	100	二〇〇	双雅房	十月	▲畫家たる著者が美術的立場から印度を旅行せる時の見聞印象を記述す。
隈部 一雄	どらいぶうえい	布四六	製入判	237	一〇〇	山海堂	十月	▲歐洲に於ける自動車旅行の經驗談及び其他の感想を収めたもの。
安藤 盛	南洋記	上四六	製入判	315	二〇〇	昭森社	八月	▲南洋を描いた旅行記で、ロタ島風景、戀のバラオ島、幻を抱くカナカ土人外五篇。
澁澤 秀雄	熱帯の旅	上四六	製入判	263	二〇〇	岡倉書房	十一月	▲新嘉坡、暹羅方面へ旅行せる著者の紀行録で、話のいとぐち、のんきな航海外十篇。
吉原 公平	マルコ・ポーロ旅行奇談	布四六	製入判	261	一〇〇	大同館	九月	▲世界最大の旅行家マルコ・ポーロの旅行奇談を収めたもの。附元寇とマルコ・ポーロ

滞歐印象記

早大教授 文學博士 本間久雄 著

好評三版 定價二圓二十錢 東京 東京堂

神田 正雄	滿洲から北支へ	布四六	製入判	370	一〇〇	海外社	六月	▲過去の研究と最近滿洲及び北支を旅行し調査した結果に基き滿洲及び北支の事情を述ぶ
岩崎 清七	鮮雜錄	布四六	製入判	246	三〇〇	秋豐園	二月二十	▲朝鮮旅行に於ける所感を纏めたもので、瀬戸航海中王敬施大人に寄す其他。
松波 仁一郎	目あきの垣覗き	洋四六	布入判	529	一五〇	講談社	九月	▲朝鮮、滿洲、西比利亞、露西亞、獨逸、和蘭、白耳義其他の諸國を旅行せる時の巡回記
北原 白秋	旅窓讀本	並三五	製入判	616	一〇〇	學藝社	七月	▲小樽、遷宮奉拜記、小笠原夜話、雪原に遊ぶ、湯崗子の藁其他を収めた紀行文集。
中川 一政	旅窓讀本	並三五	製入判	334	一〇〇	學藝社	七月	▲一月櫻、山菜と岩、山宿、山中曆日あり、正月嫁ひ記其他の紀行文を収む。
吉江 喬松	旅窓讀本	並三五	製入判	257	一〇〇	學藝社	七月	▲夏旅、濱名湖、北海の波浪、フランスの旅海洋の旅に分け収めた紀行文集。
小杉 放庵	旅窓讀本	並三五	製入判	423	一〇〇	學藝社	八月	▲九州南北、飯田高原記事、豊後路、甲州短信、日光山記其他の紀行文を収む。

文學博士 上田萬年監 啓明會 第一卷 皇室御系圖 一九六頁 內容
 文學博士 三上參次修 原田積善會 第二卷 キー ト 三六〇頁 贈呈
 文學博士 太田亮著 立命館大學 第三卷 ナー ワ 二五九頁 見本

姓氏家系大辭典

全三卷完結 堂々六千八百頁 各卷分賣

著者の勇猛心や良とに尊敬に値ひする。貴族院議員蘇峰 徳富猪一郎
 幾萬千姓氏の系傳隨つて求むれば。帝大教授文學博士 辻善之助
 隨つて得一目瞭然たるものあり。立命館大學總長 中川小十郎
 痒い處に手が届いて居る。帝大名譽教授文學博士 黒板勝美
 太田君の大著は國家的事業。東北帝大講師文學博士 喜田貞吉
 人間業にあらずと存せられ候。東大教授文學博士 宮地直一
 此人にして此著あるは實に適材適所。考證課長文學博士

恩地孝四郎裝幀 菊判背革・平布裝
 背模様文字金箔押 天金函入堅牢裝釘
 六號活字・三段組 定價拾貳圓
 各一冊拾貳圓 特價各拾圓
 小包 市内六錢 外方七十五錢

東京日本橋本區四丁目二番地 陽甲部 會行刊典辭大系家氏姓
 電話 振替 東京 七三七一 番四
 電話 振替 東京 七三七一 番四

九、政治・社會

(A) 政治・軍事

著者	書名	形態	頁數	定價	發行所	月行發	內容大意
朝日新聞社	移る政治・動く機構	上四六判	166	九百	朝日新聞社	八月	▲非常時の激動に移り動く政治の實相を描いたもので、内閣の巻、陸軍の巻其他。
安藤徳器	憲政沿革物語	上四六判	344	一〇〇〇	言海書房	四月	▲幕末明治維新史の梗概を示し、憲法制定に至るまでの由來沿革を述ぶ。
森五六	憲政と軍人	洋四六判	216	一〇〇〇	日本評論社	一月	▲軍人精神と政治學說、憲法論を述べた書で軍人と政治、立憲政治とは、國會外七章。
克堂佐佐先生遺稿刊行會編	克堂佐佐先生遺稿	上四六判	620	四〇〇〇	改造社	九月	▲明治の志士佐友房氏の遺稿を政治論、教育、詩文、書簡に分け収め追憶文を附す。
馬場恒吾	國民政治讀本	並四六判	443	一〇〇〇	中央公論社	二月	▲政治に關する時事短評や隨感隨想を収めたもので、歴代の總理大臣其他。
關口泰時	政局政治學	洋四六判	500	二〇〇〇	中央公論社	十二月	▲内閣制度と議會制度、選舉法改正や貴族院改革から行政機構に關する政治時論を收む。

政治・社會(政治一般・政治思想)

(11-2)

政治・社會(政治一般・政治思想・時局評論・國策評論)

四八四

田村 德治	湘南 隱士	田所 輝明	高橋 清吾	山田 武吉	宮澤 俊義	今中 次磨	ナウカ社編
國際社會の將來と新國際主義	政界秘帖	政治演説辭典	政治思想史	草莽文叢	轉回期の政治	日本政治史大綱	明治政治史研究
洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判
168	542	216	330	549	401	495	156
一七〇	一四〇	九〇	二〇〇	一八〇	一四〇	三〇〇	〇八〇
有斐閣	新生社	白揚社	有斐閣	大日社	中央公論社	南郊社	ナウカ社
三月	九月	一月	一月	一月	二月	十月	五月
▲國際社會の將來と對策、新國際主義の意義と内容の二篇にて論述。	▲昭和九年三月以來雑誌「政界往來」にのせた政界の裏面史を纏めたもの。	▲有産者政治を暴露し無産政黨の政策に必要な演説資料を収む。	▲政治思想とその變遷とを在るがままに没價値的に開明せるもの。	▲外地に在住する事卅餘年に亘る著者が政治經濟、産業其他各方面の問題に亘つて記述す。	▲轉回期の政治形態、政治因子、政治改革問題、ヨーロッパ政治に就て論述す。	▲種族國家、帝政國家、封建國家、民族國家及び附録に分けて日本政治史を記述す。	▲政治史の研究方法について(堀眞琴)憲法に關する最近の單行文献(田畑忍)其他。

時局評論・國策評論

(11-3)

政治・社會(時局評論・國策評論)

四八五

船田 中編	國政研究會編	國政一新會編	權藤 成卿	東海通信社編	室伏 高信	佐伯 貢編	貴島外交研究室編	太平洋研究會譯編	伊藤 貞次	渡邊 鐵藏	木下 半治	石濱 知行
國政一新の綱領と政策	國政一新論叢	國政一新論叢	其後に來るもの	南方國策の全貌	進論	二・二六事件	二・二六事件	日本の實力と俸給増額の急務	日本の實力と俸給増額の急務	日本の實力と俸給増額の急務	日本ファシズム	日本ファシズムと統制經濟
洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判
167	229	238	136	57	331	58	72	586	168	502	267	178
六〇	九〇	九〇	六〇	三〇	一〇〇	三〇	三〇	一六〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	九〇
言海書房	言海書房	言海書房	平野書房	東海通信社	日本評論社	國民新聞社	國際經濟研究所	叢文閣	武藏野書院	修文館	ナウカ社	時潮社
七月	五月	六月	十月	六月	七月	三月	二月	二月	五月	二月	七月	十二月
▲時局の再認識、政綱と政策の二編に分けて國政一新の綱領と政策を述ぶ。	▲肅正選舉の總決算(船田中)地方財政調整交付金の發展(國政研究會)外一篇。	▲追加豫算を通して見たる廣田政治の貧困(船田中)北洋漁業問題(八角三郎)外四篇。	▲世界大戰が我が國經濟界に及ぼした影響、關東大震災の影響外十三篇。	▲特別議會に問題となつた南方國策の全貌を輯録したもので、ダバオの土地問題其他。	▲全日本の建てなほし、全日本の雄圖等日本の現在とその方向を豫言せる書。	▲二・二六事件の當初から直接的末終及び之に隨伴した事項を當局の發表に即して列記す。	▲二・二六事件に對する世界各國の反響を掲げ、西班牙の動亂と各國の輿者外四篇を附す。	▲ソヴェートに於ける日本問題研究の權威者が日本の赤裸な姿を批判し檢討せるもの。	▲難局打開の途として國民の覺悟を促すと同時に俸給増額の急務たるを論述す。	▲我國の文化と産業の發展の経路と現在の實力並に世界に於ける地歩を記述す(普及版)。	▲五・一五事件及び二・二六事件のファシスト運動を中心に日本のファシズムを叙述す。	▲廣田内閣に於けるファシズムと統制經濟に就ての意見を纏めたもの。

政治・社會(時局評論・國策評論・國家・國體・議會・選舉・政黨)

野依 秀市	筆は劍よりも強し	上四六判	322	一〇〇	秀文閣	月六	▲二・二六事件及び廣田内閣の成立を中心とした論文集。
國 修 社編	一君萬民の理想	並四六判	66	特三〇三	國修社	月七	▲文化の戦を中心とする國家を建設し、平等階級兩制合流、新國民階級兵制を提唱す。
松本 重敏	國家 哲 論	洋函菊	386	二〇六	巖松堂	月五	▲眞理と宇宙とに基いて人生の根義を闡明し國家生活を説述して臣民の本務を表明す。
阿部市五郎譯	生活形態としての國家	布函菊	300	二〇六	叢文閣	月二十	▲國家の本質を検討し、所謂生物學的國家有機體説を提唱せる書。
鄭 然 圭	大和民族皇道生活運動	並四六判	80	三〇三	滿蒙時代社	月三	▲全國民の皇道精神化による生活運動を提唱せるもの。
朝日新聞社編	いづれを「選ぶ」?	並四六判	89	三〇三	朝日新聞社	月二	▲一月廿四日大阪市中央公會堂に於て開催した政黨各派代表演說會に於ける演說を録録す。
岩崎 高敏	正副市長議員職務要諦	洋函菊	306	一〇〇	二松堂	月六	▲自治團體の運用に關する法條の學理、行政實例及判例、會議の方法順序其他を説明す。
村田 芳人	憲政を護るもの	並四六判	44	三〇三	社會事情社	月二十	▲議會刷新の軍部案を掲げ、政黨の憤激から護憲運動等を述べたもの。
中里 介山	選 錄	並四六判	91	三〇三	隣人之友社	月三	▲今回の總選舉に立候補した著者の肅正選舉に於ける體験録。
前田 蓮山	政黨政治の科學的檢討	洋函菊	671	二〇六	秀文閣	月九	▲政黨政治を凡ゆる角度から検討し、外國及び我國の政黨史を記述す。
九州帝國大學大庭 次磨	政黨の發生	並四六判	108	九〇	岩波書店	月五	▲政黨の成立及び變遷を論述したもので、緒論、政黨發生に關する學說第二章。

議會・選舉・政黨

行政・自治

政治・社會(議會・選舉・政黨・行政・自治・國際・外交・國際聯盟)

朝日新聞社編	第四回總選舉大觀	並四六判	193	九〇	朝日新聞社	月三	▲帝國議會を中心とした憲法論を述べ、選舉法令を解釋説明す。
續山 政道	行政學 原 論	並四六判	238	一〇〇	日本評論社	月一	▲第一分冊は行政學の歴史、方法論及び基本的諸觀念を検討す。
近藤 操	市政と興 論	洋函菊	277	二〇三	森山書店	月四	▲市政と興論の作用力及び市政に關する論説を収録せるもの。
權藤 成輔	自治民政 理	布函菊	317	一〇〇	學藝社	月四	▲民義の存する所、政理の基づく所を明にせるもので、自然而治、自然の立制外十四章。
前公使館書記官 皆川 稔彦	交 渉	布函菊	250	二〇〇	學而書院	月六	▲外交問題を了解する上に必要な知識を史實に基いて述べたもの。
外務省通商局編	現下の我が通商問題	洋函菊	198	一〇〇	際日協會	月七	▲昭和九年以來通商問題に關して雜誌に掲載し、演說に用ひた原稿を纏めたもの。
世界地圖學會 平野 等	初 級 國 際 讀 本	布函菊	412	一〇〇	東白堂	月八	▲世界の動きを誰にも分る様平易に説ける書で、ヨーロッパ篇外六部、日蘇滿關係、東亞關係の概観(田中直吉)日蘇滿關係(田中)大瀧、高橋)外六篇。
國際問題研究會編	國際問題 研究	並四六判	325	一〇〇	出版部	月五	▲昭和十年に於ける國際情勢を叙述したもので、亞細亞、歐洲、南北米に分つ。
赤松 祐之	昭和十年の國際情勢	洋函菊	528	二〇三	際日協會	月一	▲ロシアの赤化、支那の抗日、日本の防共工作を中心として極東の情勢を述べ。
長谷川 了	赤化・抗日・防共	並四六判	317	一〇〇	昭森社	月二十	

國際・外交・國際聯盟

角猪之助	支那の背後に躍る歐米の東漸勢力、複雑な極東時局の發展及び日本の大陸政策を説明する	布四六判	126	三五	三月一	赤島秀雄家
日支外交六十年史	▲使節の交換、遼東半島の回收、東支鐵道問題の發端、日支通商條約の締結外十一章。	布四六判	336	二五〇	三月一	建設社
日支外交大觀	▲黒船渡來以後に於ける最近日本外交史を寫眞と書籍秘録とによつて叙述す。	布四六判	250	三三〇	三月三	朝日新聞社
日本外交	▲日本外交政策の沿革と現状、日本外交の基礎、進路、汎世界性、最近の國際關係を叙述す。	布四六判	252	二〇〇	三月二十	國際經濟研究所
明治外交秘話	▲奇傑陸奥宗光の飛躍、不平等條約の改正難、青木周藏の登場外十七章。	布四六判	523	一四〇	三月十	千倉書房
軍縮問題	▲軍縮會議決裂の諸原因、大砲の威力は驚異的に發達外九章にて記述す。	布四六判	85	三〇	三月二	東洋經濟新報社
軍縮決裂と我等の覺悟	▲軍縮決裂と我等の覺悟（末次信正）非常時打開の桶公精神運動（赤井春海）外一篇。	布四六判	53	三〇	三月六	新報社
世界政局・列國事情	▲アメリカ警察の内幕を書いたもので、泥棒たちは嘘を言へない外十七章。	布四六判	307	一〇〇	三月一	良書普及會
あめりか警官拷問記	▲一九三六年に於て當に發火點に達せんとしてゐる歐洲の危機に就て語る。	布四六判	157	九〇	三月三	香川書店
歐洲の危機	▲緒論、イギリス議會への婦人參政權の成立、アイズランド自由國の成立外二章。	布四六判	241	二四〇	三月一	弘文堂
リキ近代政治史研究	▲スペイン共和國の經濟、政治、社會狀態の生々しく動ける姿を描く。	布四六判	184	九〇	三月二十	白揚社
今日の世界		布四六判	270	一〇〇	三月二	東亞經濟調查局
世界政治經濟情報		布四六判	274	九〇	三月七	ナウカ社
世界政治經濟情報		布四六判	413	一四〇	三月六	關谷書店
旋風裡の歌米	▲歐米視察旅行の見聞記で、ルーズヴェルト大統領の印象、日本貿易の躍進其他。	布四六判	330	一〇〇	三月四	春秋社
大英國民に與ふ	▲英國國民に眞の日本の姿を認識せしめ、且英國の有様をも知らせる書。	布四六判	277	一〇〇	三月一	改造社
轉換期のアメリカ	▲著者のアメリカ視察記で、ルーズヴェルト政策の行術、インテリ層の動向等六章。	布四六判	235	九〇	三月一	叢文閣
ドイツ・フアンズム論	▲最近までのドイツ帝國の歴史的事實を豊富な資料に基いて眞相を論述す。	布四六判	413	三三〇	三月九	三省堂
ドレイフエス事件研究	▲祖國を想ふ純眞な兵隊の魂が全歐洲を支配したといふ獨特の觀方から本事件を解剖す。	布四六判	379	一四〇	三月五	半座書店
ドイツ・フアンズム論	▲「獨逸主義」の社會改良論外一章にて述ぶ。	布四六判	712	三三〇	三月二	日本評論社
獨逸社會政策思想史	▲「獨逸主義」の社會改良論外一章にて述ぶ。	布四六判	275	二四〇	三月五	日本電報通信社
獨逸社會政策思想史	▲「獨逸主義」の社會改良論外一章にて述ぶ。	布四六判	116	六〇	三月二十	青年教育會
獨逸社會政策思想史	▲ゲッペルス及びヒットラーの人民戰線に對するナチスの宣戰線説を收む。	布四六判	213	一〇〇	三月二十	亞里書店
獨逸社會政策思想史	▲ナチスドイツの政局、巨頭、社會世相、風物、日獨親善の種々相を抉る。	布四六判	393	二四〇	三月六	東亞經濟調查局

東亞經濟調查局編	▲人種的、歴史的、地理的、政治的、經濟的事實的に關係の淺からぬ最近の比律賓を語る	布四六判	393	二四〇	三月六	東亞經濟調查局
最近の比律賓	▲現代フアンズムの本質（ドミトリエフ）内閣會議と高橋財政（エ・ジュコフ）外七篇	布四六判	270	一〇〇	三月二	ナウカ社
世界政治經濟情報	▲エンゲルスと軍事科學（ペトワロフ）現代の空軍（フリーピン）其他。	布四六判	274	九〇	三月七	ナウカ社
世界政治經濟情報	▲歐米視察旅行の見聞記で、ルーズヴェルト大統領の印象、日本貿易の躍進其他。	布四六判	413	一四〇	三月六	關谷書店
旋風裡の歌米	▲英國國民に眞の日本の姿を認識せしめ、且英國の有様をも知らせる書。	布四六判	330	一〇〇	三月四	春秋社
大英國民に與ふ	▲著者のアメリカ視察記で、ルーズヴェルト政策の行術、インテリ層の動向等六章。	布四六判	277	一〇〇	三月一	改造社
轉換期のアメリカ	▲最近までのドイツ帝國の歴史的事實を豊富な資料に基いて眞相を論述す。	布四六判	235	九〇	三月一	叢文閣
ドイツ・フアンズム論	▲祖國を想ふ純眞な兵隊の魂が全歐洲を支配したといふ獨特の觀方から本事件を解剖す。	布四六判	413	三三〇	三月九	三省堂
ドレイフエス事件研究	▲「獨逸主義」の社會改良論外一章にて述ぶ。	布四六判	379	一四〇	三月五	半座書店
ドイツ・フアンズム論	▲「獨逸主義」の社會改良論外一章にて述ぶ。	布四六判	712	三三〇	三月二	日本評論社
獨逸社會政策思想史	▲「獨逸主義」の社會改良論外一章にて述ぶ。	布四六判	275	二四〇	三月五	日本電報通信社
獨逸社會政策思想史	▲ゲッペルス及びヒットラーの人民戰線に對するナチスの宣戰線説を收む。	布四六判	116	六〇	三月二十	青年教育會
獨逸社會政策思想史	▲ナチスドイツの政局、巨頭、社會世相、風物、日獨親善の種々相を抉る。	布四六判	213	一〇〇	三月二十	亞里書店

長野朗	滿洲讀本	上 菊 製判	一、〇〇〇	建設社	月一十	▲滿洲の歴史、土地と氣候、住民、政治、經濟、社會等の全般に亘つて記述す。
國務院總務處編	滿洲帝國年報	並 四六 製判	一、八〇〇	計滿洲協會	月七	▲滿洲國の建國第二年度に於ける政治、軍事外交、財政、産業其他の概要を記述す。
田原豐	滿蒙の民情・風俗・習慣	上 四六 製判	一、〇〇〇	日本公論社	月一十	▲滿蒙の民情、風俗、慣習を述べ、同文異義の文字、民謡、色彩等を語る。
山崎芳雄編	彌榮村要覽	並 四六 製判	九〇〇	住滿協洲會移	月六	▲昭和七年に拓務省から北滿永豐鎮に送られた移民團の過去三年間の健康の事蹟を紹介す
李清源	朝鮮讀本	容 函 菊 布入判	一、四〇〇	學藝社	月十	▲朝鮮の社會とその政治、經濟生活の根幹を分析究明せる書。
東亞經濟調查局編	南洋讀本	並 菊 製判	一、五〇〇	改造社	月九	▲南洋の一般事情を記述したもので、上巻は蘭領東印度其他の自然、政治、産業等を説く
京城日報社編	朝鮮は何を得たか?	並 四六 製判	一、〇〇〇	改造社	月一	▲朝鮮は變つた、朝鮮といふところ、朝鮮總督府、財政、租税、通貨、金融外廿四章。
西垣喜代次	農村更生と滿洲植民	並 四六 製判	三〇〇	住滿協洲會移	月七	▲農村更生の重點、國民高等學校運動、滿洲植民の斷行外五篇にて語る。
入江寅次	邦人海外發展史	洋 函 菊 布入判	三、三〇〇	資海外邦會人	月十	▲上巻は維新開國の初頭から明治四十一年の日本紳士協約までの移民に就て記述す。
中村孝二郎	滿洲集團移住地の展望	並 四六 製判	三〇〇	住滿協洲會移	月七	▲滿洲集團移民の當初より現在までの有様を展望せるもの。
大藏公望	滿洲農業移民の實情	並 四六 製判	三〇〇	住滿協洲會移	月六	▲滿洲農業移民團長の移民の實情に關する話を収めた書。
滿洲移住協會編	滿洲農業移民の實情	並 四六 製判	三〇〇	住滿協洲會移	月六	▲滿洲農業移民團長の移民の實情に關する話を収めた書。

中島武	思ひ出の海軍	洋 四六 布判	一、〇〇〇	學而書院	月七	▲十七年四ヶ月に亘る著者の海軍生活の思ひ出を書いたもので、憶れの兵學校外十篇。
讀賣新聞社編	日英米海軍氣質	並 四六 製判	九〇〇	新陽社	月二	▲日英米三國の軍艦乗組員の生活狀態、心理狀態等を記述した書。
池崎忠孝	近軍軍事問題論攷	洋 函 菊 布入判	三、三〇〇	大村書店	月二	▲極東に於ける英國海軍とその戰略地位其他に分けて最近の軍事問題を論説す。
齋藤直幹	軍備と財政	上 四六 製判	一、〇〇〇	言海書房	月二	▲近代的國防下に於ける國防費を論じ、國防と財政との調和に就て述ぶ。
西原胤次	現代の海軍	洋 函 菊 布入判	三、〇〇〇	株日本圖書	月五	▲現代各國海軍の内容を記述したもので、情勢篇、現代海軍素質篇外三篇に分つ。
伊藤政之助	現代の陸軍	洋 函 菊 布入判	一、〇〇〇	株日本圖書	月五	▲現代陸軍の輪廓を叙述せるもので、陸軍の使命、日本と露國、帝國陸軍外四篇。
佐藤六平	國防學概論	洋 函 菊 布入判	三、〇〇〇	南光社	月五	▲國防篇、軍縮篇、委任統治南洋群島篇に分けて國防を研究す。
池崎忠孝	國防の立場から	上 函 菊 製入判	二、〇〇〇	昭森社	月一十	▲陸海兩面の國防の立場から見た日本と同時世界觀を説いたもの。
宇山熊太郎	國防	洋 函 菊 布入判	一、〇〇〇	株日本圖書	月五	▲近時の國防が如何なる形態と方向を取りつゝあるかを示せるもの。
佐藤堅可	世界兵學史話	容 函 菊 革入判	一、八〇〇	學而書院	月七	▲西洋の軍制、戦法、築城、兵器、戦史等に就て述べた書。
宗藤良而	潜水艦の知識	洋 函 菊 布入判	一、〇〇〇	海文堂	月十	▲潜水艦の歴史、特性、構造、型、要素、航海及び潜水艦の攻撃の知識を説く。
關根平	躍進日本と海洋發展	洋 函 菊 布入判	一、〇〇〇	香川書店	月六	▲躍進日本と海外發展の必然性を論じ、國民生活と國防との關係を記述す。

武藤 貞一	戰	戰	洋 菊	238	一〇〇	出版事務所美	▲世界は踊る、戦争新風景、白人の鑿殺作業資本動員其他にて戦争を解説す。
理想 社編	戰	論	並 四六	250	一〇〇	理想 社	▲戦争の原始形態(小泉丹) 戦争と科學(匣珠胤次) 外六篇。一普及版。
石丸 藤太	次	の 世界 戰爭	洋 四六	474	一七〇	春秋 社	▲太平洋に醸成されつゝある低氣壓と共に、ヨロツバの危険なる情勢をも述べた書。
朝日新聞社編	日 本 海 海 戰	戰	並 菊 半	226	六〇	朝日新聞社	▲我軍の水兵が語れる日本海海戰で、けふこそ本物だ(鈴木軍左衛門) 外十四篇。
渡邊 幾治郎	明治天皇と軍事	戰	洋 四六	393	一四〇	千倉書房	▲軍事に關する明治天皇の聖徳を集成せるもので、明治天皇と國軍外二篇に分つ。

(B) 社 會

社會學 一般

馬場 敬治	技術と社會	第一卷	洋 菊	447	三三〇	日本評論社	▲技術と社會に就ての研究論文を収めた書で技術の概念、技術的手段の諸種類外二章。
カール・メンガー	社會科學方法論	特別に經濟學の爲めに	洋 菊	283	三〇〇	高陽書院	▲メンガーの「社會科學特に經濟學の方法に關する研究」の譯。
長谷川 武	社會科學方法論	特別に經濟學の爲めに	並 菊 半	225	六〇	岩波書店	▲ウエーバーの「社會科學的並びに社會政策的認識の客観性」の譯。
立富 野永	社會科學方法論	特別に經濟學の爲めに	並 菊	363	二〇〇	岩波書店	▲第三輯は自然と社會に就ての記述を収めた書で、意味としての自然(藏内毅太) 其他。
日本社會學會編	社會學	第二卷	並 菊	434	二〇〇	岩波書店	▲會社事業論の轉向(山口正) 都市社會學邦文文獻(齋藤昇一) 其他。
尾高 邦雄	社會學	第一卷	並 菊	434	二〇〇	岩波書店	

東京社會學研究會	社會學 研究	第二卷	洋 菊	396	三三〇	良書普及會	▲社會現象論序論(松本潤一郎) 社會誌學と社會調査(米村富男) 外四篇。
川邊 喜三郎	社會學 綱要	第二卷	洋 菊	448	三三〇	敬文堂	▲社會學總說、社會の基礎的概念、社會過程總論、社會過程各論、社會形態に分けて論述
小山 文太郎	世間 解剖の書	社會學座談	並 四六	410	二〇〇	章華社	▲座談的に平易に社會學を説いて世渡りのコツを示した書。
清水 幾太郎	日本文化形態論	社會學座談	洋 四六	322	一八〇	サイレン社	▲現代日本文化に關する論述で、日本社會學の成立、日本社會學に於ける社會と個人其他
矢内 原忠雄	民族と平和	社會學座談	洋 四六	376	一八〇	岩波書店	▲民族問題並に平和問題に關する論說、講演感想等を集めた書で、民族主義の復興其他。
林 要助	猿と人間と社會	社會史	洋 菊	255	二〇〇	叢文閣	▲社會史並に經濟史に就て論述せる書で、人間または社會とは何か外九章。
ウイットフォード・ゲル	市民社會史	社會史	布 菊	755	三〇〇	叢文閣	▲ウイットフォード・ゲルの著の翻譯で、原始主義と封建主義外二部。
新島 繁	市民社會史	社會史	布 菊	755	三〇〇	叢文閣	▲中間階級の唯物史であり同時に知識的下給彼僱者及専門家層の歴史的使命と方向を示す
宮田 保郎	階級史	社會史	並 菊 半	221	六〇	改造社	▲朝鮮の原始社會、奴隷社會の開始と發展、封建社會としての李朝外一篇。
李 清源	朝鮮社會史讀本	社會史	上 菊	322	二一〇	白揚社	▲我國の村落史に就て記述したもので、政治村落史、村落の共同生活様式外四篇。
小野 武夫	日本村落史概説	社會史	布 菊	483	二一〇	岩波書店	▲フランスの歴史の各時代に於ける農民の性活状態に就て研究す。
池本喜三	フランス農村社會史	社會史	布 菊	571	二二〇	丸山會	▲古代奴隷制社會構成、農奴制社會構成、資本制社會構成、新社會構成の建設の四篇。
小林 良正	露西亞社會經濟史	社會史	洋 四六	486	一八〇	章華社	

社會思想・社會主義

齋藤 茂譯著	ウエルズの新世界觀	並四六	製判	196	九〇	北斗書房	月二十	▲ウエルズ對スターリン問答録、亞米利加批判、著者所感の三部、收めたもの。
マルクス・エンゲルス 定吉譯	カール・マルクス年譜	並四六	布入判	722	三〇〇	改造社	月四	▲マルクスの生涯と事業に關する傳記資料を收めたもの。
阿部 源一	孔子	洋四六	布判	220	一〇〇	三省堂	月二	▲孔子の傳記を述べ、彼の思想を物語るもの。
河村 只雄編	思想問題年表	洋四六	布入判	267	一八〇	青年教育出版部	月三	▲シユパンの社會體系中主として社會及び經濟學說體系を紹介す。
清澤 洸	時代生活思想	上四六	製判	477	一四〇	千倉書房	月十	▲最近廿四年間の我國の左右兩翼の思想問題社會問題に關聯せる動きを年表式に記録す。
上田 肇譯	社會主義の過去及現在	並四六	製判	389	一〇〇	日本評論社	月六	▲現代に於ける思想、社會、生活を語つたもので、思想篇、社會篇、人物篇、外二篇に分つ。
東洋經濟新報社編	自由主義とは何か	並四六	製判	220	一四〇	千倉書房	月八	▲過去及び現在に於ける社會主義の論争問題に就て記述す。
星野 眞一譯	自由主義とは何ぞや	上四六	製判	254	一〇〇	實踐社	月七	▲所ちつゝある自由主義文化の次に來るものに就て記述せるもの。
グアル 雅雄譯	帝國主義論	並四六	製判	470	一〇〇	ナウカ社	月一	▲自由主義とは如何なるものであるかを戸坂した書で、自由主義以前外八章。
唯物論研究會譯	ドイツ・イデオロギイ	布四六	製判	265	二〇〇	ナウカ社	月四	▲資本主義の歴史的発展、資本の蓄積と生産の集積、生産の集積と獨占外七章。一普及版、一第二分冊は新約聖書「我輩」(新約聖書の編理其他)ライプチヒ宗敎會議の終結の二篇
松原 宏譯	フアツシズムの諸問題	並四六	製判	197	九〇	叢文閣	月七	▲第三分冊は真正社會主義に就ての叙述で、「ライオン年誌」或は真正社會主義の哲學其他。
松原 宏譯	フアツシズムの社會觀	並四六	製判	460	二〇〇	叢文閣	月六	▲フアツシズムの代表的著作で、本卷には第五卷の合同、第六卷の歴史法、時代の時代を譯載。
新明 正道	フアツシズムの社會觀	並四六	製判	480	三〇〇	岩波書店	月二十	▲技術と資本主義、安定化の終焉、イタリに於けるフアツシズム外九章。一増補普及版。
清澤 洸	フリードリッヒ・エンゲルス	並四六	製判	78	三〇	東洋經濟出版部	月八	▲フアツシズムのイデオロギイを檢討せるもので、イタリーのフアツシズム運動外二部。
永住 道雄譯	フアツシズムの社會觀	並四六	製判	341	二〇〇	叢文閣	月七	▲發生原因の類似性、フアツシヨ發生の編治的基礎外三篇にて論述す。
クルトジンガ 武譯	フアツシズムの社會觀	並四六	製判	227	一〇〇	三省堂	月二	▲エンゲルスの一生の記録、生活、思想、闘争の繪巻物を邦譯す。
コールヘル 治譯	文明人種の没落	洋四六	布入判	186	一〇〇	森山書店	月五	▲ブラトーンと彼の學說に就て論述せる書で血統と環境、哲學と學問外十二章。
マルクス・エンゲルス 定吉譯	文明人種の没落	洋四六	布入判	346	一〇〇	ナウカ社	月八	▲人口過剰とマルサス主義の誤謬、過去の諸文明人種の没落外六篇にて論述。
直生 武信 夫譯	マルクス主義	並四六	製判	178	一〇〇	ナウカ社	月五	▲共産主義者同盟の歴史(エンゲルス)外三篇を收む。
米山 吉譯	ロータリーの理想と友愛	洋四六	布入判	274	一八〇	三省堂	月六	▲マルクス・エンゲルス及びマルクス主義に就て論述す。

社會運動

米山 吉譯	ロータリーの理想と友愛	洋四六	布入判	274	一八〇	三省堂	月六	▲國際の親善、世界平和を庶幾するロータリ運動の理想と組織を譯述す。
-------	-------------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----------------------------------

政治・社会(社会問題・社会政策・社会事業・労働問題・農村問題)

田窪 鴻雲	中野 俊造	石井 悦朗	中央教化會編	労働問題	協調會編	野田 律太	協調會編	農村問題	戸田 慎太郎
教育! 金持特権階級	社会教育パンフレット(2)	科学及産業の發展を基調とする社会政策の提唱	都市教化の諸問題	徒弟制度と技術教育	労働運動實戦記	現下の農村問題	日本小作制度論	日本農業論	日本農業論
並四六判	並四六判	洋面菊	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判
64	42	197	675	385	560	172	650	350	350
三〇	三三	一四〇	一四〇	一四〇	二四〇	九七	三三〇	二二〇	二二〇
皇道精神普及會	育社協會	三友社	中央教化團體聯合會	協調會	文學案内社	時潮社	叢文閣	叢文閣	叢文閣
月七	月十	月二十	月四	月三	月一十	月六	月九	月五	月五
▲日夜憂鬱に沈淪する金權財閥の實狀を述べた書で吾等は陛下の赤子なり其他(一)改訂版一	▲社会教育と餘暇、現代生活と餘暇、餘暇の意義、慰安娛樂に關する施設外一章、餘暇の	▲一家永遠生活の指導原理、家庭生活の新形態の二編にて説述	▲社会政策を實施すれば何故經濟上、社会上の發達を誘致するかを理論的に説述す。	▲我國體と地方自治(松井茂) 都市教化概論(加藤咄堂) 外十一篇	▲熟練工、職長、下級技術者等の養成問題を内外に亘り斯方面の實情を調査研究す。	▲貧しい家庭に育つた労働者がやがて労働運動に投じて行く経路を自傳風に描く。	▲農村自治の性格(大内兵衛) 專賣制度と農	▲日本に於ける小作制度の本質を究明せるもので、上卷は序論外二章。	▲特殊日本資本主義の再生産過程の見地から日本農業關係の諸問題を論述す。

政治・社会(農村問題・職業問題)

高岡 熊雄	社會教育協會編	太田 利一	權藤 成卿	田村 浩	就職問題研究會編	青雲社同人編	穴田 秀男	加藤 直士	尾高 邦雄	桐原 森見	東京女子就職指導會編
三農政問題研究	農村更生の人々	現代社会と農村主要問題	農村自教論	農村問題と郷倉	中等學生と就職の實際	必ず成功する就職戦術	學生に就職	職業より立身へ	職業として	職業指導と就職後の輔導	東京女子就職案内
布面菊	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判
354	34	235	243	42	178	237	142	85	171	299	
三〇〇	三〇	一〇〇	一〇〇	三三	六五	一〇〇	九〇	三〇	一〇〇	一〇〇	
成美堂	育社協會	弘道閣	學藝社	育社協會	東京實業社	高千穂社	千倉書房	東洋經濟	岩波書店	叢文閣	東京女子就職指導會
月五	月九	月五	月三	月二	月一十	月一十	月九	月五	月七	月三	月二
▲都市村田舎の問題及び滿洲農業移民問題其他に關する論文を收む。	▲農村更生戦線に活動する典型的な中心人物を紹介せるもの。	▲現代社会の動向を考察し、食糧問題、人口問題、農村問題を解剖し方向を明かにす。	▲刻下農村の疲弊困難に際して其自活を説き自救を論ず。普及版	▲村落の基礎、近代の因作と農民の窮乏、郷倉の制度と建築外四篇にて語る。	▲中等學校學生の爲に就職問題に對する豫備知識を説き現在實業家が要求する傾向を示す	▲就職先選定條件、主要就職先の意向及び方針探訪、就職戦術、代表的試験問題等を收む	▲就職に對する覺悟と準備、就職運動の心得採用方針の實例、試験問題、書翰文例を記述	▲使はれる者を對象として、此等の人が實生活に於て逢合せねばならぬ諸問題を説く。	▲職業としての學問の外的條件及び内的條件並に學問の職分に就て述ぶ。	▲兒童の職業指導と就職後の輔導が如何に必要であるかを記述す。	▲現代職業婦人の知らんと欲する就職先方面を各種に亘つて調査公開せる書。

婦人問題・兩性問題

星島 二郎	歐米の社會と婦人	並四六判	50	三三〇	育社會協會	月二	▲各國婦人公民權、滿洲國と西比利亞、露西亞本國、英國婦人と政治運動外五篇。
中川 善之助	妻妾論	並四六判	202	二〇〇	中央公論社	月一	▲結婚問題を中心とした論文集で、現代民法と女子の生活權、婚姻言語學外十九篇。
ア・コロンタイ著	新婦人論	並四六判	308	一〇〇	ナウカ社	月一	▲「經濟の進化における婦人の労働」の譯で、原始共産制時代における婦人の職分外十三篇。
大竹博吉著	新婦人論	並四六判	308	一〇〇	ナウカ社	月一	▲「經濟の進化における婦人の労働」の譯で、原始共産制時代における婦人の職分外十三篇。
エス・ウオリフソン著	新戀	並四六判	320	一〇〇	ナウカ社	月七	▲「唯物辨證法の立場から戀愛を論じた」結婚及家族の社會學の譯。普及版。
廣尾 猛譯	新戀	並四六判	320	一〇〇	ナウカ社	月七	▲「唯物辨證法の立場から戀愛を論じた」結婚及家族の社會學の譯。普及版。
太田 武夫	貞操の分析	並四六判	285	一〇〇	アスカ社	月一十	▲人間に於ける性の性を社會的、生物學的兩方面から相關的に研究せるもの。
小島 光枝	賣笑問題と女性	並四六判	144	九〇	更生社	月一十	▲現社會の實狀を檢討して賣笑問題の實際を研究せるもの。
内海 幽水	代婦人の世界を觀る	並四六判	294	一〇〇	人文書院	月四	▲世界各國の婦人と子供の問題とそれに關聯した各種の記事を收む。
陶山 務	戀愛・結婚の新座標	並四六判	248	一〇〇	大都會書房	月九	▲戀愛、結婚、夫婦愛、母性愛等に關する評論で、現代と女性、戀愛論外十三篇。

政治・社會(婦人問題・兩性問題・社會評論・人物評論)

社會評論・人物評論

今日の問題社編	組合せパンフレツト	並四六判	266	九〇	問今日	月十	▲惑星久原房之助(黒川修造)陸軍の巨頭を語る(菅原節雄)外三篇。
來 間 恭	今日を創る人々	並四六判	378	一〇〇	信正社	月一十	▲日本及び外國に於て今日を創りつゝある人々の人物月旦。
鈴木 茂三郎	財界人物評論	並四六判	443	一〇〇	改造社	月四	▲財閥の資本戦線に躍る人物の評論で、嵐の中に立つ三井財閥と池田成彬外十九篇。
河合 榮治郎	社會思想家評傳	並四六判	326	二〇〇	日本評論社	月六	▲社會思想家ベンサム、ミル、グリーン、ラッサールの四名の評傳。
安田 徳太郎	社會診察録	並四六判	442	一〇〇	サイレン社	月一	▲社會的立場から見た醫學的論文集で、墮胎論、産兒調節運動、山宜追懐外廿四篇。
石 井 満	社會の新歩進	並四六判	325	一〇〇	春秋社	月二十	▲話者と聽者、婦人公民權の話、心の化粧、交通社會學、鐵道の大家主義主義其他の講話集
三 木 清	時代と道徳	並四六判	263	一〇〇	作品社	月二十	▲政治の過剩、外來思想の今日、閑暇、フレツシユマン其他の諸論文を收む。
帆 足 理一郎	人生の目的	並四六判	446	一〇〇	新生堂	月七	▲政治、經濟、教育、宗教其他諸般の社會現象を批判せる講演集。改訂版。
山 樹 儀重	人間の權威	並四六判	348	二〇〇	同文書院	月九	▲自由主義の性質、貴族貧富、理想の現實、模倣と創造、科學的研究其他。
永井 潜	道と自然	並四六判	423	一〇〇	人文書院	月十	▲生物學と社會學、生物學上より觀たる人口問題、遺傳と結婚外十篇。
松下 芳男	陸海の將星展望	並四六判	345	一〇〇	香川書店	月一十	▲陸海軍に於ける將星の人物批判で、首相候補者宇垣一成、時代の去れる荒木貞夫其他。
野 依 秀市	私の會つた人物印象記	並四六判	300	一〇〇	秀文閣	月五	▲過去三十年間に會つた名士の印象記で、朝吹常吉氏の巻、伊藤博文公其他。

政治・社會(社會評論・人物評論・社會常識)

政治・社会(社会常識・社会諸相・社会探訪)

池田弘次編	今日の知識	並四六判	559	二〇五	教材社	月八	▲部下を活して使ふ法(前波仲子)日獨同盟機運の検討(黒木正磨)其他を収む。一普及版一
前内務省警保局 編田工	社会常識教本	洋三六判	452	二〇三	松華堂	月二十	▲経済、社会、政治、国策、国際問題に關する常識的知識を網羅せるもの。
大阪毎日新聞 学藝部編	變り學讀本	上四六判	219	二〇三	河原書店	月七	▲大阪毎日に連載した「變り學コンクール」を纏めたもので、動植物の方言其他。
石川雅章	奇蹟解剖	布四六判	308	一四三	紀元書房	月十	▲奇蹟、靈術、妖教といはれるもの、正體を解剖し批判す。
銀行問題研究会編	銀行犯罪罪剖	洋四六判	320	二〇〇	銀行問題研究会	月五	▲大正十二年頃より昭和十一年三月までの銀行犯罪を収め、その豫防法を記述す。
中西伊之助	裁判官を裁く	上四六判	303	二〇〇	實踐社	月二	▲現代に於ける誤判事件の真相を暴露せるもので、教誨師との對話外五篇。
国民新聞社会部編	法廷情鬼は踊る	並四六判	57	三〇〇	國民新聞社	月九	▲法廷で取扱はれた犯罪の中から社会と最も關係の深い事件を集めたもの。
芝野山人編	積悪の雜誌王	上四六判	540	一四〇	芝園書房	月十	▲雜誌王野間清治の罪惡とインチキを暴露しつゝ彼の半生を描く。
草間八十雄	どん底の人達	洋四六判	504	二八〇	玄林社	月二十	▲東京に於ける貧民部落の實際視察録と社会調査機關の資料により貧民部落の生活を語る
鈴木賀一郎	不良少年少女と家庭	並四六判	41	三三三	育社協會教	月一	▲不良の子供とは、不良の子供と家庭、不良の子供と學校外二篇にて語る。
草間八十雄	不良少年少女と家庭	並四六判	41	三三三	玄林社	月一	▲不良兒をあらゆる角度から研究し、不良兒の諸相と其の保護に就て記述す。
新堀哲岳	明暗の淺草と不良少年	上四六判	166	二〇〇	北斗書房	月一十	▲帝都の心臓、人間の市場といはれる淺草の裏面と其處に巢喰ふ不良少年の生活を描く

新聞雜誌・文化記録

新堀哲岳	問題の街頭少年	洋四六判	372	一七五	章華社	月四	▲街頭に働いてゐる兒童達並に不良の生活記録を記述したもので、街頭少年の生活其他。
寺田四郎	英國新聞小史	並四六判	121	三〇三	新聞社	月七	▲英國に於ける新聞發達の歴史で、英國新聞の淵源、英國初期の新聞外六章。
蛭原八郎	海外邦字新聞雜誌史	布四六判	372	三〇〇	學而書院	月一	▲海外に於ける邦字新聞雜誌の發達史で、概説、「よのうはさ」と「大西新聞」其他。
式正次	新聞活殺劍	並四六判	614	一〇〇	精華書房	月十	▲其日々々の新聞界の趨勢を書いて新聞之新聞紙上に掲載したものを纏む。
千葉龜雄編	新聞語辭典	洋四六判	430	一六〇	栗田書店	月九	▲今日の新聞、雜誌に現れる新語、術語、時事問題、事件、人名等を網羅す。一改訂増補一
石井研堂	明治事物起源	洋四六判	842	二二〇	春陽堂	月七	▲明治時代に始めて起つたあらゆる事實を輯録し政治文學其他の項目に分け收む。一増訂版一
日本國際調査會編	アジア	並四六判	317	二〇〇	河出書房	月八	▲日本を除く全アジアの各國の歴史、皇室政治、經濟、社会、文化、自然を記述す。
日本國際調査會編	アフリカ	並四六判	101	一〇〇	河出書房	月八	▲全アフリカ洲に於ける各國の歴史、皇室政治、經濟、社会、文化、自然を記述す。
朝日新聞社編	朝日	並四六判	912	一四〇	朝日新聞社	月十	▲皇室、宮廷、政治、財政、經濟其他を網羅せる朝日新聞十二年版。附最新日本遊覽案内
日本國際調査會編	オセアニア	並四六判	50	三〇〇	河出書房	月八	▲全オセアニア洲の植民地、委任統治地の歴史、政治、經濟、社会、文化、自然を記述す
日本國際調査會編	北アメリカ	並四六判	166	一五〇	河出書房	月八	▲全北アメリカ洲に於ける各國の歴史、政治、經濟、社会、文化、自然を記述す

政治・社会(社会諸相・社会探訪・新聞雜誌・文化記録・年鑑・要覽)

政治・社會(年鑑・要覽)

時事新報社編 時事 昭和十二年版	南洋洲鐵道株式會社 總務部人事課編 職員 昭和十二年版	日本商工通信社編 東京 職業別電話名簿 昭和十二年版	駿々堂 旅行部編 最新調査全都市町村地圖便覽 昭和十二年版	中村舜二編 東京 昭和十二年版	社會事業研究所編 日本社會事業大年表 昭和十二年版	新聞研究所編 日本新聞年鑑 昭和十一年版	內閣統計局編 第五十回日本帝國統計年鑑 昭和十一年版	東京市政調査會編 日本都市年鑑 昭和十一年版	日本國際問題調査會編 日本 昭和十一年版	北海道帝國大學編 北海道帝國大學一覽 昭和十一年版	大阪毎日新聞社編 昭和十二年版	東京日日新聞社編 昭和十二年版	滿洲日日新聞社編 滿洲 昭和十二年版	
洋函四六倍判 布入判 796	洋函四六倍判 布入判 414	洋函四六倍判 布入判 1363	洋函四六倍判 布入判 775	洋函四六倍判 布入判 809	洋函四六倍判 布入判 306	洋函四六倍判 布入判 434	洋函四六倍判 布入判 473	洋函四六倍判 布入判 811	洋函四六倍判 布入判 188	洋函四六倍判 布入判 624	洋函四六倍判 布入判 1104	洋函四六倍判 布入判 657	洋函四六倍判 布入判 816	
二、五〇	一、五〇	六〇〇	二、〇〇	二、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	一、五〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	
時事新報社 十月十日	明文社 四月十日	日本商工通信社 二月二十日	駿々堂 四月十日	大東京社 十月十日	刀江書院 三月十日	新聞研究所 一月十日	東京統計會 二月二十日	東京市政調査會 一月十日	河出書房 八月十日	北海道帝國大學 十月十日	大阪毎日新聞社 十月十日	東京日日新聞社 十月十日	滿洲日日新聞社 十月十日	
▲憲法、皇室、爵位勳功、土地人口、政治、國防、外交外二十篇より成る年鑑。	▲南滿洲鐵道株式會社の昭和十年十二月一日現在に於ける社員録。	▲東京、横濱及び近隣の電話番號を職業別に分類し排列せるもの。	▲内務省、選信省及諸官省の最近の調査に基き地圖を挿入せる全都市町村便覽。	▲大東京の政治、人口土地建物、教育文化其他を調査せる大東京年鑑の十二年版。	▲神代より昭和七年までの本邦社會事業並にその背景たる社會事情を列記す。	▲昭和十年度に於ける我國新聞界を總觀し、各社の現勢を示し各種の一覽を掲ぐ。	▲各官公署の統計報告に基き其の主要事項の要數を摘録轉載せる年鑑。	▲日本各都市に於ける市域、人口、都市計畫土木、建築、電氣事業其他の統計及記事收載。	▲日本の歴史、皇室、政治、經濟、社會、文化、自然を概觀す。	▲學年曆、沿革史、大學に關する法令規程、職員、北海道帝國大學通則其他。	▲毎日年鑑の昭和十二年版で、別冊附録職名別日本人名選、趣味のデパート。	▲日滿支表年、土地人口氣象其他より成る年鑑。別冊附録「在滿日滿人名錄」外一冊。		

政治・社會(年鑑・要覽)

日本國際問題調査會編 南アメリ カ年鑑 昭和十一年版	善隣協會編 蒙古 昭和十一年版	日本國際問題調査會編 ヨーロッパ 昭和十一年版	協調會編 勞働 昭和十二年版
洋函四六倍判 製判 141	洋函四六倍判 製判 710	洋函四六倍判 製判 455	洋函四六倍判 製判 657
一、五〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
河出書房 八月十日	善隣協會 五月十日	河出書房 八月十日	協調會 二月二十日
▲全南アメリカ洲に於ける各國の歴史、政治、經濟、社會、文化、自然を敘述す。	▲蒙古の基本事象、民族、文化、政治、經濟人物資料、重要時事日記等の諸事項を收む。	▲全ヨーロッパ諸國の歴史、皇室、政治、經濟、社會、文化、自然を記述す。	▲昭和十年に於ける日本及び歐米各國の勞働問題とそれに関連する問題を分析叙説す。

早大教授 西村眞次著
日本文化史概論

好評噴々 十三版出來
定價三圓五十錢
東京堂發行

一〇、法律

(11-1)

法律(法理・法律一般)

著者	書名	装釘	頁数	送料	発行所	月行	内容大意
清宮ルゼン著 東北帝國大學教授 栗生武夫	一般國家學 一法學者の嘆息	洋装 布入判	836 279	送料 送料	岩波書店 弘文堂	一月一十 一月十	▲法、國家、憲法、行政法、國際法の主要問題に亘つて世界的な學說を叙述す。 ▲著者の法律論、政治論其他を收めた書で、いゝ法律家、法律史の形態外四十八章。 ▲民事商事に關するあらゆる種類の判決を研究せる書で、上巻は人事編外三編、下巻は特別事件編の四編。一全訂版。 ▲蘇國女王メリーの審問、ジェーン・グレイ姫と當時の世相及裁判外一編。 ▲英國法制の諸原理を説明せるゲルダートの「英法原理」の譯。 ▲國家一般の構造に關する純粹の理論を考察せるもので、國家の認識、國家の本質外二篇 ▲ソヴエット親族法を概観し、婚姻親族後
大森 洪太	英國三大裁判悲劇	布装 布入判	290	送料	日本評論社	一月十	
尾高 武治	種類の訴と其の裁判	洋装 布入判	778	送料	清水書店	一月九	
尾高 武治	種類の訴と其の裁判	洋装 布入判	781	送料	清水書店	一月九	
尾高 朝雄	國家構造論	洋装 布入判	539	送料	岩波書店	一月二十	
外岡 義十郎譯	ソヴエット婚姻親族後見法	洋装 布入判	91	送料	巖松堂	二月	
英語研究會譯	ゲルトル英法原理	洋装 布入判	358	送料	杉本家	二月	

五〇九

著者	書名	装釘	頁数	送料	発行所	月行	内容大意
法學博士 栗栖 趙夫著	商法概論 會總社則	洋装 菊判	3.30	送料 .18	岩波書店	一月十	改正商法の定本實務家學生に推す！ 「以て加ふるに！ 常商改正の正商に一の法綱をの知
法政大教授 佐瀬昌三著	交通事故と賠償責任	洋装 四六判	1.50	送料 .12	岩波書店	一月十	下の近をす にくに與るあ る追至ふ一ら る加るべ切ゆ 一、迄くの東 般交の明諸交 人通大解問通 士關審題機 の係院當に關 必者共に對の 讀―他解し事 を法の設法律災 薦律民せ律害 む。及判もに賠 び例の稱償に 交を、決責任 通も殊の任に 不漏も基に關 安れ最準關
法大教授判事 佐瀬昌三著	法律學概論	洋装 菊判	2.00	送料 .14	岩波書店	一月十	的務新 あ等法概 義時の令說 と事理等的 を問念をな 明題、引叙 にを其用述 す提の批と 等へ社判他 、的且、 著法機つ最 者律能國近 獨學等家の 自的を、學 的地顧法說、 學と權判例、 通實可利例、 論踐成義
中央大教授 中島松岳著	論理學	洋装 四六判	2.00	送料 .14	岩波書店	一月十	士書る會如悉 にと、得何く一 すし、專なな般 て校の學を拉論 初、で者ての包 等高等あ、平含 教等ら雖易明す 育學うも明す 家校、容快る重 並の近易に反要 に教來に覆嶺 一般書著の詳新 斯まの原述せる 學た名理る問 入は著法も題 門參で則のの の考あをの
國大講師 見尾勝馬著	東洋哲學史概説	洋装 四六判	1.80	送料 .12	岩波書店	一月十	の校た日度を 爲のら本哲系本 に教ん哲學統は 廣科と學を的は く書す即極に東 各位の我て述哲 の參が容さ、學 机考で精易に想 前書あ神にたの に並に、化ら、源 ―専のし、支發 般門眞且那達の 哲學體つ哲の 學校をつ總學史 究高つて及的 學等道吾び察 徒學程が印

東京市日本橋區 文原堂 振替東京七一一番
通三丁目一番地 電話日本橋四五一九番

五〇八

法律(裁判所構成法・民法)

裁判所構成法

喜多 辰次郎	正辯護士法と三百行爲 附・興信所債権研究	三六 布入判	174	二松堂	四月	▲辯護士法の禁遏する所謂三百行爲と興信所の社會的作用其他を研究紹介す。
--------	-------------------------	-----------	-----	-----	----	-------------------------------------

民法

塚田 十一郎	學生の民法	菊半 布入判	348	同文館	五月	▲學生の爲に民法の全般を叙述す。
民事訴訟法 研究会編	強制執行記録	洋四 布入判	299	巖松堂	五月	▲實際上最も頻繁に行はれ且強制執行中の基本的手續の記録のみを掲ぐ。
浪邊 彰平	強制執行手續の知識	洋四 布入判	223	大同出版社	七月	▲強制執行法外一章にて記述す。
山田 正三	強制執行法	洋四 布入判	276	弘文堂	十月	▲強制執行法の研究で、緒論、強制執行の要件、強制執行手續に關する救済方法外二章。要數權當事者の債權外二編にて記述す。
沼 義雄	債權總論	布面 裝入判	574	巖松堂	五月	▲債權の觀念、債權の目的、債權の効力、多數債權者の債權外二編にて記述す。
勝本 正晃	債權總論	布面 裝入判	522	巖松堂	七月	▲中卷之二は債權の効力のうちの債權の對内的効力を論述す。
勝本 正晃	債權總論	布面 裝入判	469	巖松堂	七月	▲中卷之三は債權の對内的効力の續き及び債權の對外的効力に就て論述す。
石田 文次郎	債權總論	布面 布入判	325	弘文堂	五月	▲債權總則及び契約總則の要綱を述べた書で債權法の性質、債權の目的外八章。
遊佐 慶夫	財産法概説	洋四 布入判	386	南郊社	十月	▲常識を標準として財産法制度を概説せるもので、財産と民法、財産の占有外十三講。
武藤 運十郎	借家法概説	洋四 布入判	133	家庭法律社	十一月	▲借家問題乃至借家争議を法律上に於ける權利義務の争ひと云ふ方面から説明す。

法律(民法)

沼 義雄	綜合日本民法論	布面 裝入判	668	巖松堂	五月	▲第五卷は法律要件の中の法律行爲を論述せるもの。
近藤 英吉	相續法	布面 裝入判	528	弘文堂	五月	▲相續法を研究せるもので、上卷は緒論、家督相續、遺産相續の三章。
我妻 榮	擔保物權法	布面 裝入判	366	岩波書店	十月	▲擔保物權法を講義せるもので、擔保物權總論、留置權、先取特權外三章。
石田 文次郎	擔保物權法	布面 布入判	396	有斐閣	四月	▲下卷は質權、賣渡擔保、留置權、先取特權外四章。
岩崎 徂堂	動産・不動産・諸債權の實際知識	洋四 布入判	344	日本公論社	二月	▲動産、不動産、諸債權等各種の財産の法律上及び實際上の知識を説く。
荳原 信雄	土地商租權概論	洋四 布入判	166	弘文堂	三月	▲土地商租權の概念並に商租手續を解説せるもの。
齋藤 常三郎	破産法及和議法研究	布面 布入判	466	巖松堂	五月	▲下卷は債權編總則を註釋し講義をせるもの
加藤 正治	破産法研究	布面 布入判	556	弘文堂	八月	▲財團債權者の意義、波蘭の新統一破産法、和議管理人の選任外十六篇。
民衆法令普及會編	破産・和議の實際知識	洋四 布入判	388	民衆法令普及會出版部	二月	▲第九卷は新破産法或問、和議法或問、破産法判例批評、和議法判例批評外一篇。
谷井 辰藏	不動産強制執行の諸問題	洋四 布入判	541	巖松堂	二月	▲破産法、和議法の實際知識を通俗的に述べた書で卷末に條文を掲載。
楠木 馨	判例物權法各論	洋四 布入判	461	巖松堂	一月	▲不動産強制執行に於て實際上常に問題となリ勝ちな部分を叙述したるもの。
楠木 馨	判例物權法各論	洋四 布入判	209	巖松堂	九月	▲用益物權及び擔保物權に於ける判例法の解剖、批判を目的に講述せる書。

法律(民法・商法)

植木馨	藤本正晃	末川弘	桑田熊藏	沼義雄	沼義雄	近藤英吉	磯谷幸次郎	牧野英一	伊澤孝平	飯村淑人	野國丸
民法法	民法法	民法上の諸問題	民法法	民法法	民法法	民法法	民法法	民法の基本問題	表示行為の公信力	會社實務精説	會社法解説
債權法總論	第三卷		精解	總論	總論	總論	總論	第四卷	第一卷	第一卷	第一卷
並判	華入判	布入判	布入判	布入判	布入判	製判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判
179	606	371	563	366	396	125	587	519	285	666	381
一〇〇〇	三三〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	一〇〇	二二〇	二二〇	一〇〇	二二〇	二二〇
巖松堂	巖松堂	弘文堂	學術出版社	巖松堂	巖松堂	巖松堂	巖松堂	有斐閣	有斐閣	同文館	銀行問題
月十	月一十	月五	月四	月六	月二十	月六	月四	月二	月十	月五	月十
▲民法に就ての研究で、債權法總論は債權法一般、債權一般、債權の目的外四章、	▲第三卷は債權者の自救權の限界、挿習集による著作權侵害問題外五篇。	▲民法に關する論文及び判例の綜合研究を収めた書で、權利濫用概説外九篇。	▲民法の一通りがすぐに頭に入るやう判例等を掲げてやさしく解説す。	▲民法を説明せるもので、上巻は民法及民法法規、權利義務總説、權利義務の主體外一篇。	▲下巻は權利の發生、變更及消滅に就て論述す。	▲民法の總則のうち緒論及び權利主體の第一節總説、第二節自然人を収む。	▲民法の一般を記述したもので、序論、總則物權、債權に分つ。	▲第四編は信義に關する問題にて考察せる書で、金錢債務調停法外十一章。	▲表示による禁反言と其の商事に於ける適用を主題とする論文。	▲各種會社の設立及び其機關、組織變更、合併、清算其他の法規、手續及書式を明示す。	▲舊商法の條文と對照して商法改正法案の由來的意義を明かにし解説す。

法律(商法)

平田中央	小町谷採三	加藤由作	塚田十一郎	高瀬二郎	伊藤山三郎	高田源清	佐々穆	鳥賀陽然良	鳥賀陽然良	鳥賀陽然良	鳥賀陽然良	鳥賀陽然良	
會社法概要	海商法要義	海上保險概要	學生の商法	銀行取引に關する商慣習と判例	銀行法法律問題大完	廣告法論	正商法案解義	商法	商法	商法	商法	商法	
第四卷	第一卷	第一卷	第一卷	第一卷	第一卷	第一卷	第一卷	第一卷	第一卷	第一卷	第一卷	第一卷	
洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	洋商判	
258	623	564	273	369	326	684	522	276	481	475	454	464	
二〇〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	
有斐閣	岩波書店	弘文堂	巖松堂	同文館	銀行問題	出版部	大同館	有斐閣	有斐閣	有斐閣	有斐閣	有斐閣	
月五	月二	月二十	月五	月五	月八	月九	月九	月十	月十	月十	月十	月十	
▲企業の形態、合名會社、株式會社其他にて會計法を説明す。	▲本巻は海上企業自體に就て述べた書で、總論、海上物品運送契約の二章及び附録。	▲下巻は海上運送、海損、海難救助、海上保險論の四章。	▲海上保險を英國海上保險法及び同國の實際に就ても意を用ひて解説す。	▲商法の一般を學生の爲に解説せるもの。	▲銀行取引に關する商慣習と判例を調査研究し検討せるもの。	▲銀行業務に必要な各種の事例を蒐集し、之を説明し代表的な學說と判例を掲ぐ。	▲廣告の法學的、廣告私法外七章。	▲法律的特質、廣告私法外七章。	▲商法第一編總則及び第二編會社に關する改正法律案を解説す。	▲第一卷は權利ノ關係ニ就テ、危險負擔論小商人ニ就テ外八篇の論文及び判例批評收載格ニ關スル一大論争外十二篇。	▲第二卷は會社ノ支店ニ付テ、合名會社ノ人地位を論ず、船員トハ何ゾヤ外五篇。	▲第三卷は船舶共有ノ本質、船長の法律上の地位を論ず、船員トハ何ゾヤ外五篇。	▲第四卷は再保險の意義並に性質外十篇の論文及び海上衝突豫防の通則外五篇の判例批評

法律(商法・民事訴訟法)

前大審院部長 柳川 勝二	早稻田大学法律部教授 長場 正利	有斐 開編	義濃部 俊明	大濱 信泉	松本 太郎	三木 純吉	野崎 隆幸
商法總則及商行為	商法體	註頭商法中改正法律案	改正新會社法釋義	手形小切手法要義	獨逸商法	米國有價證券法の研究	保險契約法論
並編	洋函編	並三編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編
製判	布入判	製判	布入判	裝入判	布入判	布入判	布入判
138	358	184	424	562	425	391	456
一〇〇	三〇〇	六三	四〇	四三〇	二一〇	三〇〇	三三〇
巖松堂	巖松堂	有斐閣	託銀協行會信	巖松堂	有斐閣	大同書院	大同書院
月一	月一	月三	月四	月六	月一	月一十	月九
▲商法總則及商行為に就ての研究で、總則篇は商の意義、商法、商業に分つ。 ▲海商法の概念及び限界、海商法の特色、淵源及び法系外八章。上下合冊。 ▲昭和十一年一月發表された商法の改正案を掲げ現行法との異同を明にし頭註を附す。 ▲舊會社法が如何に改正され、新會社法は如何なる主義制度を採用してゐるかを記述す。 ▲手形法及び小切手法を解説せるもので、總論、爲替手形、約束手形、小切手に分つ。 ▲獨逸商法を邦譯したもので、卷末に事項索引及び日獨伊佛商法條文對照表を附す。 ▲米國聯邦有價證券法の解説で、聯邦有價證券法の制定及び改正定義其他を説く。 ▲各種保險の約款を引用し之を商法と比較對照して保險契約法を解説す。							

法律(民事訴訟法・刑法)

研民事法判例會編	恒田 嘉文	二宮 丘一	川島 充術編著	森田 豊次郎	中央大學民事判例研究會編	大西 輝一	坂本 英雄編	安平 政吉	牧野 英一	桑田 熊藏監修	長谷川 澗
判例	補水と土地に關する判例慣行實例要義	實民事裁判手續並抗告訴訟文例	文例並に民事訴訟手續	民事訴訟法概	民事判例研究	捜査記刑事警察要綱	刑事政策法令通譯全書	刑法改正の基本原理	刑法	すい刑法精解	刑法犯捜査提要
洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編
裝入判	布入判	布入判	布入判	製判	布入判	製入判	製入判	布入判	布判	布入判	布入判
581	594	594	629	218	759	250	505	543	479	612	612
四二〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	一七〇	二二〇	一〇〇	三二〇	二〇〇	一八〇	一七〇	一七〇
有斐閣	弘文堂	大阪屋號	立興社	巖松堂	清水書店	松華堂	巖松堂	南郊社	有斐閣	學術出版社	松華堂
月七	月七	月九	月一十	月一	月七	月八	月二十	月六	月五	月四	月十
▲昭和十年度大審院判例集に登載された民事訴訟關係の判決を検討批判す。 ▲耕地整理、開墾、區劃整理、治水、利水に關する判例、慣行、實例の要旨を掲ぐ増補版。 ▲訴訟手續全般に亘り解説し、訴訟、抗告狀申立書を例示し之に關聯せる事項を説明す。 ▲現行民事訴訟法の逐條に亘り文例を示し關係裁判例を蒐録す。 ▲民事訴訟手續の概要を示した書で、上冊には緒論、本論、總則(裁判所外三章)を收む。 ▲最近大審院判例の研究として昭和十一年十二月までに法學新報に發表した判例研究を収録す。											

刑事訴訟法

宮本英備	刑事訴訟法大綱	洋四六	布入判	566	四〇〇	松華堂	月二十	▲刑事訴訟法の大綱を講述せるもので、緒論、第一審手續、上訴外四篇。
小野清一郎	刑事判例	洋四六	布入判	1123	四〇〇	有斐閣	月七	▲明治二十五年より最近に至るまでの刑事判例を分類配列す。
草野豹一編	刑事判例研究	洋四六	布入判	489	三〇〇	巖松堂	月二	▲第二巻は刑事取締法規と類推解釋、家宅侵入と竊盜の著手其他の判例及電報偽造論收載
平沼騏一編	訂増新刑事訴訟法要論	洋四六	布入判	960	七〇〇	松華堂	月六	▲刑事訴訟法に就て論述したもので、緒論及び本論に分つ。
岩井萬龜編著	判例不法行為體系	洋四六	布入判	777	三〇〇	有斐閣	月十	▲不法行為法の領域に新なる一體系を與へ、そこに構成される判例法の指導形態を論述す

地方制

桑田熊藏監修	市町村制精解	洋四六	布入判	402	二〇〇	學術出版社	月四	▲自治團體に必要な市町村制を挿繪、判例等をも掲げて解説す。
--------	--------	-----	-----	-----	-----	-------	----	-------------------------------

諸法

小野寺三郎	正政壓縮瓦斯取締法施行令解説	布四六	裝入判	69	九〇	松華堂	月十	▲改正された壓縮ガス及び液化ガスの取締法施行令を解説す。
今村與作	漁業協同組合規約例解説	布四六	裝入判	263	一〇〇	水産社	月十	▲漁業協同組合及び聯合協規約例を解説せる書で、無限責任何々漁業協同組合規約外三篇
松華堂編輯部編	行政警察教本	洋四六	布入判	271	一〇〇	松華堂	月十	▲行政警察法を解説せるもので、保安警察、營業警察、風俗警察外二章。
荻田胸喜	行政法の天皇機關説	洋四六	布入判	70	三〇〇	原理日本社	月八	▲「新法學全集」の執拗なる「天皇機關説」思想外二篇にて論述す。

美濃部達吉	昭和十年公法判例評釋	洋四六	並判	397	二〇〇	有斐閣	月七	▲昭和十年年度の行政法問題に關係ある行政裁判及び大審院の判例を分類し評論を加ふ。
美濃部達吉	行政法(一) 公用收用法原理	洋四六	布入判	441	三〇〇	有斐閣	月二	▲公用の爲にする一般收用制度を闡明し、收用制度に關する土地收用法に就て解釋す。
元野眞猛	交通事故判例類集	洋四六	布入判	556	二〇〇	巖松堂	月二十	▲大正元年より昭和十年末に至る交通事故に關する判例を集録す。
寒川俊太郎	鑛業の出願手續及經營百般	布四六	裝入判	608	一八〇	厚生閣	月九	▲鑛業の出願手續並びに經營上のことに至る鑛業法全般に亘り詳細に記述す。
朝比奈治郎	鑛業法逐條註解	洋四六	布入判	421	二〇〇	三刷光社	月七	▲平明に叙述せる鑛業法の解説書で、鑛業權土地使用、鑛業警察外五章。
木坂恒一編	産業統制ニ關スル法規全集	洋四六	布入判	376	一〇〇	大同館	月九	▲産業統制に關する主要なる現行法規を蒐集せるもの。
内務省警保局編	出版及著作關係法令集	洋四六	布入判	237	〇〇	開日協本會新	月八	▲出版取締關係法令、著作權關係法令を羅めたもの。
松華堂編輯部編	治安警察讀本	洋四六	布入判	333	一〇〇	松華堂	月九	▲治安警察の意義、内容、信條、基礎知識を述べ、治安警察其他の治安警察を説明す。
福田信夫	教育新恩給法解説	洋四六	布入判	542	三〇〇	株式會社書	月五	▲昭和八年改正された教育職員に關する恩給法を常識的、實踐的に叙述す。
中村總男	退職積立金及法解説	洋四六	布入判	169	一〇〇	野田經濟研究所	月九	▲退職積立金及び退職手續法を實際的方面より解説し、特に課税上の關係をも論述す。
野田經濟研究所編	退職積立金法の解説	洋四六	並判	111	〇〇	野田經濟研究所	月六	▲労働者の解雇又は退職による生活の困難を救済する退職積立金法の解説。
梅津勝夫編	著作出版法規	洋四六	並判	144	〇〇	音樂世界社	月四	▲著作及出版關係法及びラヂオ、舞踏、音樂等に關する法規を收む。
後藤清	當面の労働法問題	洋四六	布入判	315	二〇〇	叢文閣	月三	▲當面の労働法問題、賞與の法律問題、慰勞休暇請求權外四篇の労働法の問題に就て述ぶ

法律(國際法・六法全書・日常法律・願届書式)

寺田 四郎	國際法學界の七巨星	洋函三六 布入判	384	三、五〇	出立命部館	月二十	▲古來歐羅巴に於ける國際公法界の巨擘七人を撰び略歴、著書、學說等を紹介す。
大谷 隆吉	帝國六法全書	洋函三六 布入判	823	一〇、〇〇	中文館	月一	▲憲法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法、地方制及附録に分けた六法全書。
巖 松 堂編	六法全書	洋函四六 裝入判	1078	三、四〇	巖松堂	月九	▲憲法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法及び附録を収む。一版改訂。
松尾 爲文	外國特許の調べ方と其出願手續	上函四六 裝入判	272	二、〇〇	早稻田大學出版部	月五	▲英米獨佛の特許發明の調査に關し述べ、外國に於ける特許出願規程、手数料等を蒐録す。
内 藤 隆	最新特許實用新案手續大全	洋函四六 裝入判	771	五、三〇	詳光堂	月八	▲特許局に對してなすべき出願、請求其他の手續並工業所有權に關し必要な事項を註釋す。

社會大衆福音 安部磯雄著
生活問題 産兒調節
定價一圓三十錢 東京堂

一、經濟・商業

經濟・商業(經濟學一般)

著者	書名	裝釘體	數頁	送定料價	發行所	月行發	內容大意
大阪商科大学 經濟研究會編	大阪商科大学經濟研究年報	並 裝	217	一、〇〇	大阪商科大学 經濟研究會	月五	▲流刑(五島茂)國際貿易に於ける價值問題(名和統一)外五篇。
戸田 武雄	機械の經濟學	洋函四六 布入判	236	一、〇〇	刀江書院	月七	▲機械の問題を把へて經濟學的思维的歩みを述べた書で、序説、機械とは何か外十二篇。
ユヌブハリン著 小林良正譯	金利生活者の經濟學	洋函四六 布入判	341	一、四〇	白揚社	月六	▲ブルジョア經濟學、とくにオーストリア學派の價值論並に利論に對する批判。
岡田 實	經濟科學通論	洋函四六 布入判	250	一、八〇	森山書店	月五	▲經濟認識の對象、法律と經濟の關係、自然科學と社會科學、生産の本質其他にて論述。
土方 成美	經濟學	布函四六 裝入判	699	四、三〇	日本評論社	月二	▲總論、經濟の位置、價格、通貨、企業、所得、景氣變動の七章にて經濟學を論述す。
河川 嗣郎	經濟學原理	布函四六 裝入判	511	三、三〇	日本評論社	月五	▲緒論、價值及び價值論、生産論、分配論に分けて經濟學の原理を叙述す。
氣賀 勘重	經濟學講話	布函四六 裝入判	344	二、八〇	松華堂	月五	▲經濟學の大綱を通俗的に説明せるもので、經濟學とその本則、社會の經濟外十章。
堀 卓次郎	經濟學綱要	洋函四六 布入判	241	一、八〇	弘文堂	月四	▲經濟學の一般を論說せるもので、緒論、生産論、流通論、分配論の四篇。

谷口 雅春	福井 孝治	長野 朗	阿部 定雄	安藤 春夫	川崎 已三郎	高橋 是清	高田 保馬	眞木 傳五郎	田邊 忠男	九州帝國大學	山崎 宗直	平野 啓三	コムアカデ
生と命の	生としての	自治	現資産の本質	國家經濟と公債經濟	現代の信用及び信用組織	經濟論	經濟思想の革命	經濟學の諸問題	經濟學の諸問題	十年紀念經濟學論文	經濟學通論	經濟學の諸問題	經濟學の諸問題
244	358	276	349	325	677	260	270	293	546	374	329	329	329
甲文堂	建設社	一元社	同文館	叢文閣	千倉書房	日本評論社	日新本社の	明善社	岩波書店	有朋堂	叢文閣	叢文閣	叢文閣
五月	十月	二月	九月	七月	五月	十一月	四月	二月	二月	二月	五月	五月	五月
▲物質の生産、消費、循環の原動力を生命的に把握せる經濟國策を提唱す。	▲經濟學の思想的自己反省、經濟學理論の二編を収む。	▲市問題の四篇にて説述。	▲經濟學は生産、交換供給、物質の調濟、都市問題の四篇にて説述。	▲現代資産の本質、現代資産の優遇、現代資産の統制に就て説述す。	▲國家經濟及び公債經濟に就ての検討で、社會現象の關聯性、公債經濟の重要性其他。	▲トラハテンベルグの「現代の信用及び信用組織」の第一節の譯。増補版。	▲日本經濟及財政史上の重要場面に際して高橋翁が發表せる論稿、講演、演説の集成。	▲經濟學に對して著者の提唱する恢復策を記述した書で、不景氣の原因其他。	▲本卷は商業、交通及び保管、貨幣及び信用金融に就て論述す。	▲經濟學に對して著者の提唱する恢復策を記述した書で、不景氣の原因其他。	▲經濟學の一般原理並に學說等を記述したもので、經濟英語及び語彙を譯解す。	▲經濟學の一般原理並に學說等を記述したもので、經濟英語及び語彙を譯解す。	▲前資本主義的諸構成における交換及び商品生産の發展（ライバルト）外七篇の論文集。

川上 貫一	牧野 元次郎	東京朝日新聞	東京朝日新聞	東京朝日新聞	東京朝日新聞	東京朝日新聞	東京朝日新聞	東京朝日新聞	東京朝日新聞	東京朝日新聞	東京朝日新聞	東京朝日新聞	東京朝日新聞	東京朝日新聞
「資本論」讀本	勤儉讀本	經濟新話	經濟問題の解説	經濟問題の解説	經濟問題の解説	經濟問題の解説	經濟問題の解説	經濟問題の解説	經濟問題の解説	經濟問題の解説	經濟問題の解説	經濟問題の解説	經濟問題の解説	經濟問題の解説
337	202	483	428	420	428	420	428	420	428	420	428	420	428	420
ナウカ社	弘文社	經濟知識社	一元社	一元社	一元社	一元社	一元社	一元社	一元社	一元社	一元社	一元社	一元社	一元社
五月	六月	三月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	六月
▲資本に關する知識を經濟學的に平易に解説せるもので、價值論、剩餘價値の生産外六篇での剩餘價値理論の發端からアダム・スミスまでの	▲勤儉の精神を説き、それを實際生活の上に實行出来るやうに記述す。	▲下巻は産業的部門の展開に就て述べた書で動力篇、軍需工業篇、輸出工業篇外七篇。	▲内外に於ける經濟問題の解説で、世界政治經濟情勢總観、主要諸國の財政狀態外五篇。	▲新聞に現れる經濟用語、相場用語を五十音順に配列して解説す。増補改訂。	▲シムムベーターの理論經濟學の本質とその内容内容を譯述す。	▲十六、七、八世紀の歐洲に於ける經濟及び人口學說思想一般の歴史を研究す。	▲交換價値或は富一般に就いて、需要の法則に就いて外十章、附録數篇に對する註解。	▲工業經濟としての「用」の經濟學を研究せるもので、二つの經濟學外八篇。	▲下巻は流通論及び結論の二篇を収む。	▲シムムベーターの理論經濟學の本質とその内容内容を譯述す。	▲十六、七、八世紀の歐洲に於ける經濟及び人口學說思想一般の歴史を研究す。	▲交換價値或は富一般に就いて、需要の法則に就いて外十章、附録數篇に對する註解。	▲工業經濟としての「用」の經濟學を研究せるもので、二つの經濟學外八篇。	▲下巻は流通論及び結論の二篇を収む。

大森義太郎著 新剩餘價值學說史 第二卷第一部	カールマルクス著 新剩餘價值學說史 第二卷第二部	猪俣津南雄譯 信用・地代・恐慌 マルクス主義經濟學(3) 第二卷第二部	ラオストロフイチャノフ著 獨占資本主義の發展 マルクス主義經濟學(4)	ラオストロフイチャノフ著 獨占資本主義の發展 マルクス主義經濟學(4)	マルクス・エンゲルス マルクス・エンゲルス 第一卷第二分冊	レニン著 ロシアに於ける 資本主義の發展 第二卷第二分冊	西大レニ著 ロシアに於ける 資本主義の發展 第二卷第二分冊	西大レニ著 ロシアに於ける 資本主義の發展 第二卷第二分冊	野村象太郎著 英國經濟史概論	宮川貞一郎著 經濟學說大系 上巻	末永茂喜著 經濟學說大系 中巻	ミヤカニ著 經濟學說大系 下巻	野村象太郎著 英國經濟史概論	宮川貞一郎著 經濟學說大系 上巻	末永茂喜著 經濟學說大系 中巻	ミヤカニ著 經濟學說大系 下巻
布面判 350	布面判 375	布面判 363	布面判 366	布面判 265	布面判 484	布面判 492	布面判 423	布面判 430	布面判 459	布面判 217	布面判 217	布面判 217	布面判 430	布面判 459	布面判 217	布面判 217
二、二〇〇	二、二〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇
改造社	改造社	白揚社	白揚社	ナウカ社	岩波書店	岩波書店	南郊社	南郊社	雄風館	岩波書店	岩波書店	雄風館	南郊社	雄風館	岩波書店	雄風館
月七	月四	月一	月一	月五	月五	月九	月六	月六	月一	月五	月五	月一	月六	月一	月五	月一
▲第二卷第一部は剩餘價值と利潤 地代の二章にて論述	▲マルクスの剩餘價值學說史の第二卷第二部の譯で、地代、資本蓄積と恐慌外一章。	▲貸付資本と貸付利子、信用及び銀行、地代農業における資本主義の發展の二篇。	▲帝國主義論、資本主義のアルゲマイネ・クリゼの根本的特徴、特殊景氣論の三篇。	▲賃銀、價格および利潤(マルクス)マルクスの一資本論(エンゲルス)外八篇。	▲上巻は露國農業における資本主義の發展を叙述したもの。	▲下巻は工業における資本主義の發展を大機械工業の發展外二章。	▲英國經濟史の概論で、序論、英國國民の創設英國封建制度、都市經濟の發達外四章。	▲方法論的基礎、中世の中期より最近世の初期に至る迄の經濟的進歩の過程外一編。	▲ジョン・ステュアート・ミルの「經濟學の若干の未解決の問題に關する試論集」の譯。	▲經濟學に於ける各學派の代表者の學說を紹介解説せる書で、上巻は經濟學の建設者其他	▲若干の未解決の問題に關する試論集の譯。	▲若干の未解決の問題に關する試論集の譯。	▲英國經濟史の概論で、序論、英國國民の創設英國封建制度、都市經濟の發達外四章。	▲方法論的基礎、中世の中期より最近世の初期に至る迄の經濟的進歩の過程外一編。	▲ジョン・ステュアート・ミルの「經濟學の若干の未解決の問題に關する試論集」の譯。	▲經濟學に於ける各學派の代表者の學說を紹介解説せる書で、上巻は經濟學の建設者其他

田村浩 五人組制度の實證的研究	安瀾彰三譯 資本主義發達史概論	グエー・ライハルト著 前資本主義社會經濟史論	永住道雄譯 訂改日本佛敎經濟史論考	細川龜市 明治産業發生史	神長倉眞民 協同組合研究	本位田祥男 協同組合研究	エム・カントール著 協同組合論	平館利雄譯 國民健康保險と産業組合	山崎勉治 産青聯は何を爲すべきか	馬場光三 資本主義の再建と産業組合の職能	松浦誠之 商業組合の經營	産業組合問題 第二回産業組合問題研究會報告書	田村浩 五人組制度の實證的研究	安瀾彰三譯 資本主義發達史概論	グエー・ライハルト著 前資本主義社會經濟史論	永住道雄譯 訂改日本佛敎經濟史論考	細川龜市 明治産業發生史	神長倉眞民 協同組合研究	本位田祥男 協同組合研究	エム・カントール著 協同組合論	平館利雄譯 國民健康保險と産業組合	山崎勉治 産青聯は何を爲すべきか	馬場光三 資本主義の再建と産業組合の職能	松浦誠之 商業組合の經營	産業組合問題 第二回産業組合問題研究會報告書
布面判 136	布面判 240	布面判 395	布面判 359	布面判 543	布面判 502	布面判 450	布面判 240	布面判 160	布面判 394	布面判 370	布面判 331	布面判 331	布面判 136	布面判 240	布面判 395	布面判 359	布面判 543	布面判 502	布面判 450	布面判 240	布面判 160	布面判 394	布面判 370	布面判 331	
一、一〇〇	一、一〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇
嚴松堂	刀江書院	叢文閣	東學社	ダイヤモンド社	高陽書院	高陽書院	成美堂	高陽書院	馬場光三著 有馬三郎著	巖松堂	高陽書院	高陽書院	嚴松堂	刀江書院	叢文閣	東學社	ダイヤモンド社	高陽書院	高陽書院	成美堂	高陽書院	馬場光三著 有馬三郎著	巖松堂	高陽書院	高陽書院
月七	月四	月二	月二十	月七	月三	月十	月四	月五	月二	月二十	月五	月五	月七	月四	月二	月二十	月七	月三	月十	月四	月五	月二	月二十	月五	月五
▲舊藩時代の五人組制度が現代の社會機構に於て如何なる形に遺存し活動してゐるかを究む	▲中世に於ける資本主義の最初の發現、近世初頭の資本主義外八章にて論述	▲唯物史觀を適用して過去の社會經濟的發展の合法則性を論述す	▲寺領庄園制度概要、東大寺領庄園の研究外五篇及び附録に分けて日本佛敎經濟史を論ず	▲銀行、會社、汽車、電線、瓦斯燈等が設立され敷設された明治時代の産業發生史	▲協同組合の思想と理論、消費組合の諸問題外四篇の協同組合に關する論文集	▲協同組合の理論と實踐を述べたもので、マルクス及びエンゲルスの協同組合論外十三章	▲國民健康保險と産業組合を述べ、各國國民健康保險制度を概説す	▲産青聯運動を批判し、運動を進める上に何を爲すべきかを指示せる書	▲放任資本主義經濟組織の危機とそれを脱する道に説き、産業組合の役割と限界を論述する	▲商業組合の經營理論と本質、前編と現勢、經營一般、金融、事業、統制等を研究す	▲商業者と産業組合の問題(平井泰太郎)農産物販賣統制と産業組合(勝賀瀬實)其他	▲商業者と産業組合の問題(平井泰太郎)農産物販賣統制と産業組合(勝賀瀬實)其他	▲舊藩時代の五人組制度が現代の社會機構に於て如何なる形に遺存し活動してゐるかを究む	▲中世に於ける資本主義の最初の發現、近世初頭の資本主義外八章にて論述	▲唯物史觀を適用して過去の社會經濟的發展の合法則性を論述す	▲寺領庄園制度概要、東大寺領庄園の研究外五篇及び附録に分けて日本佛敎經濟史を論ず	▲銀行、會社、汽車、電線、瓦斯燈等が設立され敷設された明治時代の産業發生史	▲協同組合の思想と理論、消費組合の諸問題外四篇の協同組合に關する論文集	▲協同組合の理論と實踐を述べたもので、マルクス及びエンゲルスの協同組合論外十三章	▲國民健康保險と産業組合を述べ、各國國民健康保險制度を概説す	▲産青聯運動を批判し、運動を進める上に何を爲すべきかを指示せる書	▲放任資本主義經濟組織の危機とそれを脱する道に説き、産業組合の役割と限界を論述する	▲商業組合の經營理論と本質、前編と現勢、經營一般、金融、事業、統制等を研究す	▲商業者と産業組合の問題(平井泰太郎)農産物販賣統制と産業組合(勝賀瀬實)其他	▲商業者と産業組合の問題(平井泰太郎)農産物販賣統制と産業組合(勝賀瀬實)其他

奥谷 松治	日本産業組合批判	布四六	裝入判	330	一、五〇	高陽書院	月六	▲日本産業組合の發達過程を述べ、産業組合の機能、指導理論の推移を記述す。
八木 芳之助	農村産業組合の研究	洋四六	布入判	464	三、四〇	有斐閣	月四	▲産業組合の本質と我が國農村、日本農業政策と産業組合外十一章にて論述す。
シニマールンバツハ著	會社金融論	洋四六	布入判	599	四、〇〇	同文館	月一十	▲會社金融の理論を研究せるもので、企業の評價、株式會社の設立、増資外八篇。一改訂版。
鍋島 達譯	貨幣概論	洋四六	布入判	594	四、三〇	有斐閣	月二十	▲貨幣理論の一般を解説し、貨幣政策、貨幣制度の將來に就て述ぶ。
荒木 光太郎	貨幣論	洋四六	布入判	594	四、三〇	有斐閣	月二十	▲貨幣や金融に關する断片的の記述で、貨幣に關する若干の用語、貨幣單位難考其他。
山崎 覺次郎	貨幣瑣話	洋四六	布入判	417	二、五〇	有斐閣	月一十	▲景氣變動を貨幣側の要因から説明せるロバートソンの「銀行政策と物價水準」の譯。
大原 裕六著 助教授	トソフ「貨幣政策と物價」	洋四六	布入判	157	一、〇〇	大同書院	月七	▲貨幣と金融の最も單純化されたロシアの現實に就て貨幣と金融の問題を分析す。
L・E・ハーバード著	貨幣と金融	洋四六	裝入判	328	二、〇〇	叢文閣	月十	▲貨幣の購買力を決定する原理を明かにし、購買力の變動、生計費の騰貴に就て研究す。
高城 仙次郎	貨幣の購買力	洋四六	布入判	465	三、〇〇	改造社	月七	▲職能、貨幣の職能體系、價值單位職能、職能相互の關係外五章にて貨幣の職能を研究す。
佐原 貴臣	貨幣の職能	洋四六	布入判	229	一、四〇	巖松堂	月六	▲貨幣本質論外四篇の論文を収む。アダム・スミスの貨幣本質論に關するマルクスの新しい資料について（レオン・チエフ）其他。
岡橋 保	貨幣本質の諸問題	洋四六	布入判	552	四、八〇	有斐閣	月十	▲著者の諸著の中から貨幣に關する若干の基本的問題を集録せるもの。
金原 賢之助	貨幣の發展と恐慌	洋四六	布入判	324	三、四〇	巖松堂	月五	▲金融現象の法制的準則たる金融關係法令を蒐集し、系統的に編別す。

廣 畑 茂	支那貨幣・金融發達史	布四六	裝入判	428	三、〇〇	叢文閣	月一十	▲支那歴代貨幣、現代貨幣、支那固有の金融機關に就て記述す。
章 乃 次	支那貨幣	布四六	裝入判	168	一、〇〇	叢文閣	月一十	▲一九三五年に發表された支那の新貨幣制度の問題を説き、支那貨幣の本質を究明す。
王 永 次	支那金融資本論	洋四六	布入判	346	二、八〇	森山書店	月一十	▲中國金融問題の各方面に對して體系的に叙述したもので、中國金融資本の特殊性に叙した。
小林 幾次郎	資本主義貨幣制度論	洋四六	布入判	256	一、八〇	慶應書房	月一十	▲資本主義貨幣制度論（ヨノルソン）銀問題（フレイ）の二篇の譯。
永住 道夫	生命保險會社の金融的發展	洋四六	布入判	253	二、三〇	栗田書店	月一十	▲金融情勢の展開と生命保險會社に就て述べ、生命經營に於ける投資情勢と其動向を記述す。
高橋 龜吉	統制金融と自由金融	洋四六	布入判	473	二、〇〇	千倉書房	月八	▲統制金融と自由金融に關する諸論文を収めた書で、自由金融より統制金融への變轉其他組織の機關外十三章にて論述す。
杉本 正幸	不動産金融機關論	洋四六	布入判	662	五、五〇	巖松堂	月三	▲多くの文獻著述を参照して編述した恐慌史で、十八世紀一九三二年に及ぶ。
志 儀 長	恐慌史	布四六	裝入判	554	三、五〇	叢文閣	月八	▲指數法の立場から經濟統計論を研究せるもので、景氣研究の發展外五編。
郡 菊之助	景氣指數論	洋四六	布入判	482	三、八〇	巖松堂	月五	▲景氣政策と景氣理論、産業統制政策、インフレーション政策外一編。
高橋 次郎	景氣政策批判	洋四六	布入判	213	一、五〇	高陽書院	月二	▲シニエビトホフの「恐慌論」の譯で、景氣交替に固有なる諸現象外五篇。
シニエビトホフ著	景氣理論	洋四六	布入判	376	二、七〇	三省堂	月五	

岸忠助	景氣論通説	布四六 裝入判 426	一、八〇	叢文閣	月六	▲景氣現象に對する全般的な説明で、マルクスによる景況(殊に恐慌)の解釋第二章。▲一九二九―三三年の世界經濟恐慌とその政治的結果とを要約的に分析記述す。
ケアルガ著	大恐慌と政治的結果	布四六 裝入判 367	一、四〇	叢文閣	月五	
經濟政策・統制經濟						
前田美稻	銀及銀政策	洋四六 布入判 428	二、一〇	創造社	月三	▲銀價論、銀の需要と供給、銀政策の三編にて銀と銀政策に就て叙述す。
柄倉正一	銀經濟論	洋四六 布入判 410	一、二〇	改造社	月五	▲現時に於ける銀經濟上の諸問題及び政策を叙述、分析、批判す。
グスタフ・カツセル述	計畫經濟と獨裁政治	並四六 裝入判 66	六、二〇	東洋經濟社	月七	▲保護政策の發展、世界金本位制の崩壊、計畫經濟には實現性ありや外三篇にて論述す。
小出保治譯	經濟政策總論	並四六 裝入判 269	二、三〇	有斐閣	月三	▲經濟政策の意、國民經濟と世界經濟、自由經濟と統制經濟外五章にて記述す。
河津退	經濟政策總論	洋四六 布入判 329	二、一〇	弘文堂	月五	▲經濟政策の研究で、上巻は重商主義、自由主義の二篇。
宇野弘藏	經濟政策上論	洋四六 布入判 311	一、四〇	改造社	月一十	▲最近一ケ年に亘る歐米諸國の見聞、經濟の統制並にその立法の實際に就て論述す。
栗栖越夫	經濟の統制と新立法	洋四六 布入判 347	一、四〇	斗南書院	月七	▲非常時日本の經濟機構は如何に理解し、如何に運用すべきかを述べた書。
高橋是清	國策運用の書	洋四六 布入判 258	二、一〇	大同書院	月十	▲統制の是非、經濟戰國時代に於ける產業統制を論述し、業界人の所見を収む。
新田直藏	產業統制論	洋四六 布入判 138	一、六〇	野田經濟研究所	月五	▲自由經濟及び統制經濟に就ての論述で、經濟政策に於ける能動主義と自由主義外五章。
野田直藏	自由經濟か統制經濟か	並四六 裝入判 342	一、六〇	千倉書房	月三	▲自由と統制、自治的統制、社會化による統制經濟、大陸開發政策の諸問題外五章。

東洋經濟新報社編	新日本の産業政策	並四六 裝入判 102	六、三〇	東洋經濟社	月五	▲本邦工業の質的缺陷とその對策(西田博太郎)人口問題と貿易政策(上田貞次郎)其他
小濱重雄	戰時經濟方策論	洋四六 布入判 174	三、一〇	調査局	月一十	▲國家經濟の全部門を特に戰時的視野から學問上の研鑽と實際的考案によつて輯録す。
東洋經濟新報社編	當業者の語る統制經濟	並四六 裝入判 82	三、三〇	東洋經濟社	月六	▲池尾芳藏、鮎川義介、森藤規外五氏出席の座談會にて統制經濟を語る。
向井鹿松	統制經濟講話	洋四六 布入判 245	一、〇〇	時事新報社	月七	▲統制經濟機構論及び統制經濟原理論の二篇にて統制經濟を叙述す。
鈴木憲久	統制經濟と景氣の動向	洋四六 布入判 370	二、三〇	森山書店	月八	▲どうして統制經濟へ轉向せねばならぬかを述べ、それと景氣の動向を説明す。
大隈毎日・東京日日新聞社	統制經濟讀本	布四六 裝入判 480	二、四〇	一元社	月一十	▲統制經濟の意義、實狀、諸外國の統制化方法、その實績等を檢討す。
經濟諸問題						
津田信吾	鐘紡の現状と將來	並四六 裝入判 76	三、三〇	東洋經濟社	月五	▲鐘紡の現状と將來(津田信吾)鐘紡の全面的檢討(梅井義雄)の二篇。
石野アツト、二夫著	極東に於ける綿業	布四六 裝入判 540	三、一〇	叢文閣	月二	▲日本、ランカシャ、支那等極東に於ける綿業に就て研究す。
日本工業俱樂部	最近經濟の重要問題	並四六 裝入判 456	一、四〇	一元社	月三	▲米國に於ける事業統制の近況(山口喜三郎)滿蒙の産業經濟(十河信二)外十三篇。
高橋龜吉	現代中小商工業論	洋四六 布入判 436	二、一〇	千倉書房	月三	▲現下の中小商工業問題を研究せるもので、中小商工業の窮迫打開問題外三篇。
小島精一	國營と民營	上四六 裝入判 212	一、〇〇	千倉書房	月九	▲國營思想の史的發展、日本統制經濟の發展動向と國營問題、電力國營批判の三篇。
野依秀市	頼母木選信大臣の言説を反駁す	並四六 裝入判 99	三、一〇	實業の世界社	月九	▲電力民有國營案に對する頼母木選信の言説を反駁し、軍部の反省を促せる書。

奥村喜和男	電力國營	電力國營の目標と概念、電力國營の提唱其他	四六判	118	六〇	千倉書房	三月八日	▲電力國營に關する種々の論議を収めた書で電力國營の目標と概念、電力國營の提唱其他
ダイヤモンド社編	電力國營案の批判	▲電力國營案の批判、電力國營案の發達を説き電力國營案を批判す。	四六判	58	三〇	モントイヤ	三月十日	▲電力國營案の必要、民有國營と國有國營、民有民營、電力國家管理案の全貌外四章。
堀川武夫	電力國營案の原理	▲電力國營案に對する批判で、電力國營は目的か手段か、電力國營案を裁く其他。	上四六判	114	九〇	交通經濟社	三月十日	▲電力國營問題を檢討した座談會の筆記で、出席者は松本慈治、若田均外七氏。
時事新報社編	電力國營案を裁く	▲電力國營案を檢討せるもので、政府案の概要、我國の電氣普及率は世界第二位外十七篇	四六判	99	三〇	時事新報社	三月九日	▲電力國營案を檢討せるもので、政府案の概要、我國の電氣普及率は世界第二位外十七篇
東洋經濟新報社編	電力國營は是非か	▲電力國營問題を検討した座談會の筆記で、出席者は松本慈治、若田均外七氏。	四六判	82	三〇	東洋經濟社	三月八日	▲電力國營問題を検討した座談會の筆記で、出席者は松本慈治、若田均外七氏。
頼母木桂吉	電力國營の急務	▲電力國營の急務、電力國營の根本理由と其利益、料金値下の可能性其他。	四六判	107	六〇	講談社	三月十日	▲電力國營の急務、電力國營の根本理由と其利益、料金値下の可能性其他。
奥村喜和男	電力國策の全貌	▲電力國策の全貌、電力國策の根本理由と其利益、料金値下の可能性其他。	四六判	176	九〇	通信社	三月九日	▲電力國策の全貌、電力國策の根本理由と其利益、料金値下の可能性其他。
松岡久雄	電力統制と基礎知識	▲電力統制と基礎知識、電力統制の必要と其利益、料金値下の可能性其他。	四六判	110	一〇〇	電氣新報社	三月二十日	▲電力統制と基礎知識、電力統制の必要と其利益、料金値下の可能性其他。
實業之世界社編	電力の民有國營絕對反對	▲電力の民有國營絕對反對、電力の民有國營の必要と其利益、料金値下の可能性其他。	四六判	71	三〇	實業之世界社	三月九日	▲電力の民有國營絕對反對、電力の民有國營の必要と其利益、料金値下の可能性其他。
池尾芳藏	電力民有國營の檢討	▲電力民有國營の檢討、電力民有國營の必要と其利益、料金値下の可能性其他。	四六判	56	三〇	東洋經濟社	三月八日	▲電力民有國營の檢討、電力民有國營の必要と其利益、料金値下の可能性其他。
北澤新次郎	各國經濟統制の實態	▲各國經濟統制の實態、各國經濟統制の必要と其利益、料金値下の可能性其他。	洋函菊	564	二〇〇	千倉書房	三月二十日	▲各國經濟統制の實態、各國經濟統制の必要と其利益、料金値下の可能性其他。
外務省通商局編	各國通商の動向と日本	▲各國通商の動向と日本、各國通商の動向と日本の關係、料金値下の可能性其他。	洋函菊	24	一〇〇	日本協國會	三月五日	▲各國通商の動向と日本、各國通商の動向と日本の關係、料金値下の可能性其他。

世界經濟・國際經濟

アフリカ	金と世界經濟	▲金と世界經濟に關する諸論文を収めた書で金の世界的分配の不均衡とその原因外二篇。	洋函菊	270	一〇〇	時潮社	三月七日	▲金と世界經濟に關する諸論文を収めた書で金の世界的分配の不均衡とその原因外二篇。
中村金治	國際經濟研究	▲國際經濟研究、國際經濟の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。	洋函菊	487	三〇〇	言海書房	三月三日	▲國際經濟研究、國際經濟の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。
富田勇太郎	最新歐米の經濟事情	▲最新歐米の經濟事情、最新歐米の經濟事情の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。	洋函菊	57	四〇	東洋經濟社	三月八日	▲最新歐米の經濟事情、最新歐米の經濟事情の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。
外務省通商局編	世界各國對外貿易統計	▲世界各國對外貿易統計、世界各國對外貿易統計の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。	洋函菊	338	三〇〇	國際經濟研究所	三月二十日	▲世界各國對外貿易統計、世界各國對外貿易統計の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。
外務省通商局編	世界各國の關稅改正と通商政策	▲世界各國の關稅改正と通商政策、世界各國の關稅改正と通商政策の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。	洋函菊	354	三〇〇	國際經濟研究所	三月二十日	▲世界各國の關稅改正と通商政策、世界各國の關稅改正と通商政策の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。
東京商工會議所編	世界景氣年報	▲世界景氣年報、世界景氣年報の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。	洋函菊	213	九〇	改造社	三月二日	▲世界景氣年報、世界景氣年報の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。
東京商工會議所編	世界景氣年報	▲世界景氣年報、世界景氣年報の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。	洋函菊	199	九〇	改造社	三月七日	▲世界景氣年報、世界景氣年報の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。
細野孝一	世界經濟回復の諸想	▲世界經濟回復の諸想、世界經濟回復の諸想の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。	洋函菊	316	一〇〇	時政經濟社	三月一日	▲世界經濟回復の諸想、世界經濟回復の諸想の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。
田井要助	世界經濟事情	▲世界經濟事情、世界經濟事情の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。	洋函菊	316	二〇〇	有斐閣	三月五日	▲世界經濟事情、世界經濟事情の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。
グアルガ著	世界經濟年報	▲世界經濟年報、世界經濟年報の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。	洋函菊	153	六〇	叢文閣	三月四日	▲世界經濟年報、世界經濟年報の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。
グアルガ著	世界經濟年報	▲世界經濟年報、世界經濟年報の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。	洋函菊	142	六〇	叢文閣	三月七日	▲世界經濟年報、世界經濟年報の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。
廣島定吉	世界政治經濟情報	▲世界政治經濟情報、世界政治經濟情報の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。	洋函菊	321	一〇〇	ナウカ社	三月五日	▲世界政治經濟情報、世界政治經濟情報の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。
ナウカ社	世界政治經濟情報	▲世界政治經濟情報、世界政治經濟情報の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。	洋函菊	439	一〇〇	ナウカ社	三月八日	▲世界政治經濟情報、世界政治經濟情報の現勢、支那の幣制改革とその國際政治的意義、アメリカ合衆國外三篇。

野田經濟研究所編	ナチス電力國策の理論と實際	並四六判	212	三〇六	野田經濟研究所	月七	▲英帝國プロック問題を本國側及び屬領側から叙述した書。
慶應義塾各國經濟研究會編	大英プロック經濟政策	洋四六判	456	三〇〇	改造社	月三	▲獨逸電氣事業組織の經過と精神に就ての新法律及び斯界の權威の言説を譯載す。

滿洲經濟事情

東京商工會議所編	日滿支經濟問題講話	並四六判	547	一〇五	巖松堂	月一	▲世界經濟より見たる銀問題(荒木光太郎) 滿洲現狀批判(大藏公望) 外九篇。
木村増太郎	日滿支經濟論	洋四六判	334	一〇八	時潮社	月三	▲日滿支經濟プロック論の再検討、日支貿易の展望外十四章にて日滿支經濟を論述す。
竹内可吉	滿洲國經濟建設の現状	並四六判	41	三〇〇	新東洋經濟社	月八	▲經濟建設の指導精神、財政の基礎確立す、成功した幣制の統一外十三篇にて叙述す。

支那經濟事情

日本國際協會編	支那各省經濟事情	並四六判	376	一〇八	日協本會	月四	▲下卷は江西省、福建省、山東省、浙江省、安徽省、江蘇省の經濟事情を記述す。
東京商工會議所編	支那經濟年報	並四六判	657	三〇〇	改造社	月一	▲政治經濟の動向、地理概説、原始産業、商業、金融、外國貿易及關稅外五篇。
東京商工會議所編	支那經濟事情講話	洋四六判	359	一〇八	森山書店	月一	▲日支間の諸問題(有吉明)我等の大ナジヤ主義と支那(松井石根)外九篇。
田中忠夫	支那經濟の崩壊過程と方法論	洋四六判	782	三〇〇	學藝社	月五	▲現代支那の政治過程の基礎並にそれに依て反作用を受けつゝある經濟崩壊過程を論述す。
高橋龜吉	支那經濟の崩壊と日本	洋四六判	619	一〇八	千倉書房	月一	▲日支經濟提携と其の奥底に横はる諸問題、支那の財政金融貿易工礦労働外一編。
有澤廣巳編	支那工業論	洋四六判	444	三〇〇	改造社	月八	▲天津の南開經濟研究所で公刊された支那工業に關する代表的研究論文六篇を譯載。

大阪毎日新聞社	經濟十年史	洋四六判	572	三〇〇	大村書店	月三	▲財政、金融、株式市場其他に分けて最近十年間の經濟を記述せる書。普及版。
東京毎日新聞社	獨占資本と農業問題	洋四六判	319	一〇五	學藝社	月六	▲各種形態の資本の農業に於ける諸作用を取扱つたもので、土地所有と農村金融外九章。
栗原藤七郎	日本經濟の再編成	洋四六判	406	一〇五	經濟情報社	月九	▲日本經濟再編成過程に於ける財政金融の特質(金原賢之助)其他。
日本經濟研究所編	日本經濟四年報	並四六判	273	一〇〇	改造社	月一	▲第一輯は一九三六年第三四半期に於ける經濟の動きを取扱つたもの。
日本經濟研究所編	日本經濟四年報	並四六判	303	一〇五	叢文閣	月四	▲第四輯は一九三五年、第四四半期で一般的理論、特殊問題の検討、景氣循環の分析外二部
全國經濟調查會編	日本經濟年誌	並四六判	330	一〇〇	改造社	月一	▲昭和十年に於ける本邦經濟上の重要な事業及び事項を述べたもので、經濟界概況其他
東洋經濟新報社編	日本經濟年報	並四六判	330	一〇〇	新東洋經濟社	月二	▲支那に於ける銀恐慌と日・英・米の抗爭、日本重要資源の分析外一部。

日本經濟事情

經濟・商業(支那經濟事情・日本經濟事情)

經濟・商業（人口・統計・食糧・産業・貿易・各種事業）

北野 大吉	松嶋 鹿夫	國司 浩助	民谷 利昭	末政 幸作	生島 廣治郎	荒木 源	谷口 重吉	堀江 邑一	南 亮三郎	小島 亮三郎	ダイヤモンド社編	
貿易思想史	通商條約講話	新時代の海洋漁業	實用英和貿易用語辭典	支那貿易實踐	現代の貿易と貿易政策	樺太の産業と港灣	オーリンの貿易理論	統計學と辨證法	世界各國の食糧政策	人口論發展史	經濟統計年鑑	
洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	
布入判	製入判	製入判	布判	布入判	布入判	布入判	布入判	製判	製判	製判	製判	
261	154	91	293	188	543	187	344	212	823	244	548	
二〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇〇	二〇〇	二〇〇	九〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	
言海書房	研國經所	新報社	大洋經濟社	大同書院	日本評論社	北海道通信社	三省堂	ナウカ社	日協本會	三省堂	モダンド社	
月一	月一十	月八	月七	月二	月四	月八	月二	月六	月八	月九	月四	
▲保護貿易の理論的根據並に史的考察としての價值を述べ社會問題と保護貿易を論述す。	▲支那貿易上必要な書信の實例を例示すると共に實際の取引に必要な事項を網羅す。	▲貿易用語を蒐集し之を英和對譯にて示し、世界商工業地名便覽を附す。	▲新時代の漁業及び我國の海洋漁業の現狀に就て述べたもの。	▲國際通商關係の基礎觀念を講述せるもので通商條約の意義、最惠國待遇外六章。	▲樺太の産業、貿易、金融、財政、町村の觀光と港灣施設、港灣改善意見外二章。	▲現代の貿易問題を社會經濟學乃至世界經濟學の立場から考察せるもの。	▲オーリンの貿易理論を説明せる書で、地域貿易論、國際貿易論に分つ。	▲「統計學と辨證法」の譯。	▲世界に於ける最近の農業情勢及び諸外國に於ける食糧政策其他重要な農業政策を収録す。	▲スミットの論文集「ソヴェト統計學の理論と實踐」中の「統計學と辨證法」の譯。	▲最近十年間に於ける人口論的發展史的記録で、日本人口問題の緒論外七章。	▲景氣、經濟、財政、金融、貿易、産業其他の諸統計を収めた經濟統計年鑑の十一年版。

産業・貿易・各種事業

經濟・商業（産業・貿易・各種事業・財界・景氣觀測）

山一證券調査部長	朝日新聞經濟部編	勝田 貞次	和田 六灘子	前田 梅松	景氣研究所編	北山 米吉編著	中外産業調査會編局長	大坂毎日新聞社	三鬼 陽之助	後藤 藤一平	朝日新聞社編	橋本 敏雄
稅制改革と證券投資の採算	昭 和 財 界 史	財界變轉期の財産運用	財界進軍譜	株式を中心とする財界觀測の仕方	好景氣必來論	財界のこの人を見よ	研究	景氣	社會と經營者	新しい景氣循環理論と株價騰落	貿易非常時	貿易政策論
並 菊	洋函編	上 四	布 四	洋 四	並 四	上 四	上 四	上 四	洋 四	洋 四	並 四	並 菊
製判	布入判	製判	製判	布判	製判	製入判	製判	製判	製判	布入判	製判	製判
61	628	224	347	284	21	367	373	510	349	106	210	106
二〇〇	二〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	九〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
新東洋報社	朝日新聞社	千倉書房	大同書院	經濟知識社	景氣研究所	協同出版社	一元社	投資經濟社	學藝社	朝日新聞社	有斐閣	
月二十	月九	月三	月四	月五	月十	月二	月二	月七	月三	月一十	月四	
▲稅制改革による證券投資の採算に就て説明せるもの。	▲昭和元年より十年に至る我國財界史で、景氣、産業篇の二篇及び附録。	▲昭和二六事件後の財界觀、事業觀、市場觀投資觀を考察す。	▲於ける財政經濟時評を収めたもの。	▲財界觀測の歴史とその必要、株式の正常價格、株式の市場價格を解説す。	▲齊藤前内閣時代から岡田内閣迄約二年半に於ける財政經濟時評を収めたもの。	▲工業發展と財政インフレに基いて日本に好景氣が必來することを論述す。	▲池田成彬、小倉正恒其他の現代財界人物の事業、性格、技術等を研究す。	▲景氣研究の基礎知識、景氣觀測の方法を理論と實際に互つて記述す。	▲社會の盛衰場裡に如何に社會當局者が活躍善處したかを中心に書いた財界人物評論。	▲新しい景氣循環理論に基いて株價の騰落を研究せる書で、基本研究、特殊研究に分つ。	▲第一分冊は世界恐慌と最近貿易の動向、貿易理論、貿易學說史論外一部。	▲通商懇談會、全國輸出組合座談會に於ける速記録。

鈴木茂三郎	中外産業調査會	財三井の新研究	四六判	390	一、四〇〇	調中外産業會	月十	▲三井財閥の全事業を系統づけて記述せるもので、發祥篇、合名篇、大番頭の變遷其他。▲三井、三菱二大財閥の外形と内容を解剖せるもの。――新訂普及版▲財界の王者三井の指導精神、三井王國の全貌及び新方向を物語る。
岩井良太郎	三井三菱物語	三井三菱物語	四六判	357	一、〇〇〇	千倉書房	月六	
山田武太郎	三井物語	三井物語	四六判	154	九〇〇	學而書院	月六	
有本邦造	會社決算の分析と批判	會社決算の分析と批判	四六判	60	六〇〇	大同書院	月四	▲昭和七年上半期以後の日立製作所の考課狀其儘に基き分析、批判す。
東洋經濟新報社編	會社	會社	三五判	350	六〇〇	新東洋經濟社	月六	▲投資對照としての全國各株式會社の内容、事業成績、株價其他を揭示す
東洋經濟新報社編	會社	會社	三六判	364	六〇〇	新東洋經濟社	月九	▲各株式會社の特長、内容、將來性、重役、事業成績、株價其他の事項を掲載。
東洋經濟新報社編	會社	會社	三六判	368	六〇〇	新東洋經濟社	月二十	▲各株式會社の最近の營業狀態、大株主、收支勘定、株價等を記述す。
山崎武久	金儲け無手勝流	金儲け無手勝流	四六判	257	一、〇〇〇	トウソン社	月二	▲金に關する綺話、仕事に就ての偶話、商賣繁昌の急所等を述ぶ。
野村證券株式會社	株式	株式	四六判	216	一、〇〇〇	研精社	月二十	▲相場即ち株價の變動を構成する要素を分解し、その全體又は個々に就て研究す。
卷島信之助	株式	株式	四六判	213	一、〇〇〇	協同出版社	月四	▲株式精取の方法を實際に即して解説せるもので、精取買賣の意義外十四章。
難波篁人	株式	株式	四六判	266	一、〇〇〇	協同出版社	月四	▲株式投機技術、相場戦略戰術を語つたもので、實踐必勝法、昇線の書方見方外四章

大屋商店株式會社	株式	株式	四六判	1307	五、〇〇〇	大同書院	月六	▲全國各株式會社の株式相場、貸借對照表、業績一覽表其他の必要事項を掲げた年鑑。
富倉堅三	株式	株式	四六判	213	六〇〇	言海書房	月一	▲勸業債券に依る利殖の方法を記述せる書で貯金か預金か債券か、債券入門其他。
今大助	株式	株式	四六判	193	一、〇〇〇	鳳山堂	月九	▲勸業債券の性質其他の知識及び最善の利殖法を述ぶ。
古宮剛之	株式	株式	四六判	309	一、四〇〇	新東社	月十	▲昇線に對する概念、昇線の描き方外二章にて昇線の正しい見方と用ひ方を説明す。
矢野治	株式	株式	四六判	174	一、〇〇〇	春潮社	月一	▲最近の景氣狀態を觀察し、更に賣買と取引の鐵則を語る。
大阪屋商店調査部	株式	株式	四六判	108	六〇〇	大同書院	月七	▲關東に於ける株式會社の内容、資産狀態、將來性等を座談的に説明す。
ダイヤモンド社編	株式	株式	四六判	153	六〇〇	ダイヤモンド社	月九	▲新東の解剖、新情勢と株式、花形株の觀測等三篇にて説述す。
ダイヤモンド社編	株式	株式	四六判	182	九〇〇	ダイヤモンド社	月九	▲新東相場の本質を研究せるもので、株價を科學的に研究する必要外四篇。
原三	株式	株式	三五判	218	六〇〇	創造社	月六	▲株式、米穀、綿糸、人絹、砂糖、生糸取引の手引を述べ、投資第六感及相場用語を收む
讀賣新聞經濟部編	株式	株式	四六判	412	六〇〇	景氣研究所	月八	▲増税時代の株式投資方法論を述べ、この二三年に亘る株式投資の方法と物件とを記述す
景氣研究所編	株式	株式	四六判	140	〇〇〇	森山書店	月十	▲貸借對照表の監査に就て述べた書で、總説金銀勘定監査、營業貸借金監査外九篇。
本村積橋	株式	株式	四六判	146	〇〇〇	新東洋經濟社	月二	▲東京短期開始以來の新東前後場の寄付、高値、安値其他を採録せるもの。――増補版
東洋經濟新報社編	株式	株式	四六判	198	〇〇〇	新東洋經濟社	月二	▲大新新報日産鋼管東電の五種株の東京短期市場に於ける前後場の寄付其他を收む。――増訂版

勝田 貞次	一九三七年 投資相談	上四六判	578	二、五〇〇	千倉書房	月二十	▲一九三七年度の財産對策を如何にすべきかを中心に投資の知識を述べ。
阿部 熹作	株式 日足半日足確認大規則	洋四六判	171	二、〇〇〇	新東社	月八	▲昇線と興論、相場高下波動常軌的運行、日足・半日足認識原則外四章及び附録を収む。
勝田 貞次編著	ポケット投資便覽	洋三六判	254	一、〇〇〇	千倉書房	月二	▲市場性の豊富な各會社の内容、株價變動其他の事項並に株式投資に必要な知識を掲ぐ。
奥村 永藏	放資眞理の探究	洋四六判	174	一、〇〇〇	大同書院	月二	▲富の集積手段としての株式放資に就て説述せる書で、景氣變動と株價の騰落外四編。
有本 歡之助	低金利時代と投資	洋四六判	364	一、〇〇〇	日本業社の	月一十	▲低金利時代に於ける利殖と投資を検討し、之を具體的に説く。

交通經濟

下村 健一	現代海運論	洋四六判	320	二、五〇〇	千倉書房	月三	▲世界及び日本の海運の現状趨勢並に推移を記述せるもの。
-------	-------	------	-----	-------	------	----	-----------------------------

農業經濟・米穀經濟

中澤 辨次郎	蠶絲統制經濟講話	洋四六判	536	三、〇〇〇	學藝社	月四	▲蠶絲業を取りまく客觀的諸情勢を検討し之に統制を加ふべき理由及び對策を述べ。
早川 二郎著	支那の農業經濟	洋四六判	597	三、〇〇〇	白揚社	月二	▲支那農業經濟機構のアジア的特質を分析し經濟的政治的基礎を闡明せる書。
鄭 然 圭	朝鮮米資本主義生産對策	洋四六判	178	一、〇〇〇	滿蒙時代社	月一	▲耕地及産米獨占支配、朝鮮人農家没落、内地米同格米價、資本主義生産對策外二章。
北原 金司	農業經濟學	洋四六判	469	二、〇〇〇	東京學友社	月五	▲實踐を中心とする農業經濟學書で、總論、農業要素論、農業組織論外二編。
中澤 辨次郎	米價變動の知識	洋四六判	87	三、〇〇〇	學藝社	月三	▲諸般の經濟關係下に於て常に變動しつゝある米價變動に關する全ての智識を説く。

石川 梯次郎	米穀統制經濟講話	洋四六判	422	三、〇〇〇	學藝社	月二	▲米穀問題、米穀問題現下の動向、米價騰貴の研究、米穀統制に關する法規を解説す。
中澤 辨次郎	米穀統制經濟講話	洋四六判	422	三、〇〇〇	學藝社	月二	▲米穀問題、米穀問題現下の動向、米價騰貴の研究、米穀統制に關する法規を解説す。
平井 泰太郎	アシュレイ經營學概説	洋四六判	275	一、八〇〇	同文館	月九	▲アシュレイの生涯、學說並に環境を述べ、彼の經營學を檢討せるもの。
日本經營學會編	カルテル及經營學の重要問題	洋四六判	323	二、三〇〇	同文館	月五	▲經濟政策的論理的基礎（氣賀健三）カルテル精神（目崎憲司）其他。
西村 勝太郎	企業財務表分析論	洋四六判	440	三、〇〇〇	大同書院	月五	▲財務表を説明し、財務表分析の理論的考察をし、實踐的方法を論述す。
竹内 謙二解説	マリーフ企業組織論	洋四六判	393	二、三〇〇	有斐閣	月四	▲カルテル、コンツェルン、トラスト等の企業組織を解説す。
沼田 嘉穂	經營學の歴史	洋四六判	340	一、八〇〇	同文館	月一十	▲經營學の歴史的發展、シュマートレンパツハ利潤概念外九章。
向井 梅次著	賣買	洋四六判	417	二、五〇〇	森山書店	月一	▲ホフマンの經營學の第二篇第四部賣買の部を譯せる書で、市場機能論を論述す。
増田 健三	ビルディングの經營と管理	洋四六判	304	二、五〇〇	新誠社	月三	▲實際的諸問題を引照してビルディングの經營並に管理の一般を論述す。
經營學研究會編	米國の經營學	洋四六判	322	二、三〇〇	森山書店	月六	▲米國の會計學（黒澤清）アメリカに發展せる豫算統制（長谷川安兵衛）外七篇。
長谷川 安兵衛	我企業豫算制度の實證的研究	洋四六判	318	二、七〇〇	同文館	月一十	▲我國に於ける企業豫算制度を實證的に研究せるもので、我企業豫算制度の現状外七章。

銀行・會社・信託・保險

經濟・商業（農業經濟・米穀經濟・經營・企業・銀行・會社・信託・保險）

經濟・商業（株式・投資・交通經濟・農業經濟・米穀經濟）

野村 男三	野村 喜太郎	中村 喜太郎	野村 男三	前納 悅三	長谷川 安兵衛	宮崎 賢一	水口 吉藏	甲斐 精一	吳 文炳	吳 文炳	三上 勝	磯野 正登	F. W. Paish G. L. Schwartz
合名會社 設立・合併・清算・登記・説	株式會社合併運用論	株式會社實務知識 設立・登記・清算・利源法則	株式會社實務の手引 設立・株式・社債	株式會社の實際	漁船保險	銀行取引の法理	銀行預金増減研究	銀行	信託	新生命保險講話	生命保險約款釋義	保險積立金と其運用	保險積立金と其運用
洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判
400	258	295	294	848	319	394	325	241	414	232	273	147	147
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
東榮堂	至泉堂	日本公論社	大同書院	東京泰文社	東亞商會	文雅堂	玄文社	日本評論社	日本評論社	保險經濟社 (株式會社)	保險經濟社 (株式會社)	保險銀行 (株式會社)	保險銀行 (株式會社)
月十	月二	月五	月四	月十	月九	月三	月五	月四	月一	月六	月七	月八	月八
▲合名、合資會社の設立、合併、清算、登記及び税に就ての法律的實務を記述す。	▲法律論に立脚し且つ實際に即して株式會社合併の運用を論述す。	▲株式會社の設立、變更登記、解散及合併並清算、制法規則等を書式雛形を掲げて解説す。	▲株式會社實務のうち設立、株式、社債に就ての手引を記述す。	▲改正法律案を現行法に比較して株式會社の實際を記述す。	▲海上保險會社の組織、保險契約の種類と條件、保險の申込と契約外四章及び附録。	▲銀行取引法の研究で、銀行預金の返還請求と其の消滅時効外四章。	▲銀行預金の増減に關して研究せる書で、銀行預金増加の部、銀行預金増減の部外一篇。	▲銀行經營論の全面的叙述で、緒論、普通銀行及其の業務、振替及手形交換制度外十章。	▲法律並に經濟の兩方面より信託を論述せる書で、信託法、營業信託に分つ。	▲保險機構の成立並に生命保險資産の運用に關する知識を述べ。	▲緒論、模範約款の規定、模範約款以外の諸規定の三編にて記述す。	▲非生命保險會社に依る積立金の形成、保險會社の投資の檢討外五章。	▲我國の株式會社に於ける株式所有の分散、株主總會決議權の行使、支配形態を叙述す。

大澤 一六	山本 信次	山口 辰男	前馬 治一	向井 梅次	鈴木 保良	倉本 長治	宇原 義豊
商業關係法規解説	株式取引所論	銀行問題研究会編 資料商品取引と金融	經濟商品研究の基礎	新倉庫論講義	日本商品配給解説	業務改善の計畫と實際	業務改善の計畫と實際
洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判
85	466	324	465	254	453	197	90
三五	三五	二〇	二〇	二〇	二〇	一〇	一〇
文錄社	高陽書院	銀行問題研究会	昭晃堂	巖松堂	千倉書房	森山書店	森山書店
月六	月六	月九	月六	月十	月五	月九	月九
▲商業關係の法律を談話の形式にて解説せるものゝ速記。	▲株式取引所の研究で、證券制度、株式取引所の意義、株式取引所の沿革外十五章。	▲現在に於ける各種商品の有のまゝの取引経路と金融事情を叙述す。	▲本邦商品及びその母體たる産業界の技術的經濟的基礎機構を實證的に説明す。	▲倉庫の經濟、經營及び證券に就て論述し、倉庫關係法規を附す。	▲我國の各般の商品に就て其配給狀態を掲げたもので、配給費とは、棉花其他。	▲業務改善計畫の卷、業務改善教育の卷の二編にて業務改善の計畫と實際を述べ。	▲商品の註文の受け方、商品又は文書の發送其他一般店員として必要な事項を説明す。

田所 稔編著	商務便覽	昭和十二年年度版	三冊	洋判	531	1,000	千倉書房	月一十	▲經濟、法規、運輸、通信、日常便覽に分けて商務に關する諸事項を收む。
中川 恭漢	最新電報規則解説	附・無線電報規則・日滿電報規則	三冊	洋判	312	2,000	清教社	月一十	▲内國電報規則、無線電報規則、日滿電報規則、日滿無線電報規則を解説す。
坂本 重	能率技師二宮尊徳	日本精神を基礎とする 産業統制運動の理想	四冊	洋判	296	1,200	研精社	月一十	▲わが中小工業界の爲に日本精神に基く産業統制運動の師表たる二宮尊徳を描く。
上野 陽一	人を説く法	日本産業研究會所長	四冊	洋判	352	1,000	千倉書房	月一十	▲心理、生理其他あらゆる方面から人を説く方法を述べ人を動かす力を説く。―新定版及版一

爲替

小林 行昌	實務外國爲替	洋判	598	3,800	東京泰文社	月五	▲外國爲替の理論と實際を述べたもので、序説、爲替手形、貨幣制度外十二章。
松岡 孝兒	金爲替本位制の研究	洋判	633	4,500	日本評論社	月七	▲資本主義制經濟の發展に即せる金爲替本位の特性に關する研究。
小西 彦太郎	用實手形・小切手の知識	上四六 洋判	204	1,000	同文館	月六	▲書式、記入例を掲げて手形及小切手の實踐的知識を説く。
伊藤 和雄	荷爲替信用狀論	洋判	341	2,400	同文館	月五	▲荷爲替信用狀に就ての論述で、荷爲替の意義及性質、信用狀の種類第二章。―修正版―

會計・簿記

倉本 長治	新しい商店會計	上四六 洋判	204	1,250	新光文社	月八	▲新商店經營法の手段としての會計を述べた書で、商店の帳簿組織の決め方外四十三章。
陶山 誠太郎	會計組織論	洋判	252	2,000	大同書院	月七	▲會計學發達史、貸借對照表の本質、固定資産外十章にて會計學を講義す。
青木 倫太郎	管 企業經營者に必要な會計の知識	洋判	281	2,100	東洋出版社	月九	▲會計組織の企業設定に就ての論述で、總論述べて書で、企業管理者と會計の計算其他。
東 爽五郎	記帳省略に據る 小店の會計組織	並四六 洋判	164	1,400	同文館	月七	▲小規模の小店に適用し得る會計取扱方に關して試みた會計整理の一方方法を説述す。
渡部 寅義二雄	改訂原價計算法綱要	洋判	147	600	同文館	月六	▲總論、原價と原價計算、材料の使用、工賃間接費外十一章にて原價計算法を説く。
辻 眞	小賣店記帳法	並四六 洋判	147	600	同文館	月六	▲小賣店帳簿の記帳實務の全般に亘つて講述せるもので、會計の目的外四章。
和歌山高等商業學校教授	工業會計概論	洋判	322	2,500	同文館	月一十	▲工業會計の意義、原價計算の意義、原價計算の目的、原價要素論外八章にて論述。
加藤 金次郎	商業會計綱要	洋判	420	3,300	大同書院	月六	▲商業經營に於ける會計組織の研究で、緒論簿記原理、帳簿及帳簿組織外三篇。
竹田 正己	商業簿記要領	洋判	113	1,000	會計社	月三	▲平易化能率化せる複式による商業簿記を解説せるもの。
早稻田大學教授	商業簿記要領	洋判	249	2,000	東京泰文社	月二十	▲複式及び單式の商業簿記の記帳法を説明せるもので、複式簿記の要件其他。
竹田 正己	易分り新式商業簿記	洋判	212	1,400	自立社	月六	▲帳簿を基礎とし、實例、圖解等を示して商業簿記を説明す。
帝國會計士協會理事	實中小商工簿記	洋判	264	1,800	同文館	月九	▲商業及び工業に就ての標準簿記組織を説述せる書で、簿記會計の概念外五章。
金子利八郎	簿記新論	洋判	405	3,100	森山書店	月一	▲複式簿記の基本を定むる勘定理論、勘定學說批判其他にて學としての簿記を論述す。
濱谷 源藏	貿易會計	洋判	207	1,800	同文館	月六	▲貿易業に於ける會計整理法を記述した書で貿易業の事務組織と會計事務の流れ外十章。

商用通信・商業數學

商店經營・販賣

橋本修	小崎政臣	志水松太郎	倉本長治	堤巖	吉田良三	染谷濱七	堀口一洋	名取昇	編賣新聞社	上野陽一	使讀新聞社
實踐英語商業通信	電話運用論	賣れて行く本の話	新し外交販賣	壹千四百菓子パン店開業案内	間接費の研究	五百圓喫茶店開業案内	物研究	營讀本	小賣店開業の手引	小賣店經營の規本原則	こんなものが金になる
洋四六布入判	洋四六布入判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判
403	412	107	194	220	350	200	126	444	135	86	220
三〇〇	二〇〇	九〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
文憲堂	交通經濟社	峯文莊	新光文社	誠光堂	森山書店	誠光堂	堀口商店	名取經營科研究會	讀賣新聞社	文錄社	八重洲書房
三月	八月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	五月	三月	六月	十月
▲商業書翰の構成及び形式の一般を説き、商業英語の全般並に商業通信を説明す。修正版。▲電話の通話制度、私設及官廳用電話、鎖業特設電話、結言の四編。		▲一冊の本が賣れて行く仕事の成績を検討せるもので、本に出来上つて外十五章。	▲あらゆる角度から外交販賣に就て書いたもので、外交員を見る眼、信頼を得よ其他。	▲新らしく菓子パン店を開業する人の爲に過去十六年の體験により經營法を説く。	▲工企業經營上重視すべき間接費の研究で、間接費總論、間接費能力論外一篇。	▲五百圓で出来る喫茶店の開業法を説明せるもので、開業の目的、建築の要領其他。	▲屑物に就て語り、屑物營業各種の開業案内を説く。	▲大理想店主となつた著者の體験による經營法を述べたもので、新經營主義外九篇。	▲書籍雜誌小賣店開業に關する案内を述べたもので、古書店の開業の手引も記述す。	▲小賣店經營法の原則を能率の意義、商店經營の原則に分けて説明す。	▲讀賣新聞に掲載された「こんな物が金になる」を説いた書。

井關孝雄	門脇逸司	西下貞次	河合清二郎	加藤清二郎	川喜田煉七郎	室田庫造	倉本長治	藤卷治吉	商店界編	河村清一	讀賣新聞社	便利新聞社	字原義豊	江坂佐太郎	時事新報經濟部編	
用商店金繼の知識	商店經營と其會計	商店經營の知識	商品仕入の研究・店員時代の成功法	商品陳列と店舗設計・店頭裝飾	商品陳列と店舗設計・店頭裝飾	商品陳列と店舗設計・店頭裝飾	商品陳列と店舗設計・店頭裝飾	商品陳列と店舗設計・店頭裝飾	商品陳列と店舗設計・店頭裝飾	商品陳列と店舗設計・店頭裝飾	商品陳列と店舗設計・店頭裝飾	商品陳列と店舗設計・店頭裝飾	商品陳列と店舗設計・店頭裝飾	商品陳列と店舗設計・店頭裝飾	商品陳列と店舗設計・店頭裝飾	
上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	上四六製判	
220	364	270	62	108	219	336	418	222	188	92	493	516				
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
同文館	協同出版社	言海書房	文錄社	文錄社	文錄社	文錄社	文錄社	文錄社	文錄社	文錄社	文錄社	文錄社	文錄社	文錄社	文錄社	
六月	十月	二月	六月	六月	九月	四月	五月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	
▲小賣商店の金繼の仕方と小賣店の財務の一部面を解り易く述ぶ。	▲商店を如何にして、經營し如何にして記帳すべきかを説明す。	▲商店經營全般の知識を述べたもので、仕入のコツと賣るコツ外十四章。	▲商品仕入の研究（河合清二郎）店員時代の成功法（加藤清二郎）の二篇。	▲商品陳列と店舗設計（川喜田煉七郎）店頭裝飾（室田庫造）の二篇。	▲小賣店で最も必要な商品の陳列法を説いたもので、這入り度くなる店其他。	▲商略は如何なるところからヒントを得て之を如何に思考し、實行するかを記述す。	▲雜誌「商店界」の昭和十年新年號の附録に口繪及び百數十頁を増頁せるもの。	▲書籍雜誌店、たばこ店及び古本店の經營の裏表と急所を説明す。	▲拾圓を標準にし、それだけの資金で出来る各種商賣を紹介す。	▲事務用紙標準化の種類と効能並に標準化の方法を促進策に就て記述す。	▲青果價格構成に關する各種の條件を引例して、販賣改善乃至合理的販賣の實際を記述す。	▲護謄及び護謄製品、精密機械、アルマイト其他新興商品の製造から販賣までを説く。				

經濟・商業（商店・經營・販賣・廣告・宣傳）

渡邊 支店	萬田 一治	相原 壽	倉本 長治	住友 善之助	野元 伊太郎	田中 要人	住吉 忠義	井關 純	増田 太次郎
最新商業術	最新商業術	最新商業術	新し店頭販賣の研究	獨立營業	千二百圓 賣藥化粧品店 開業案内	販賣技術論	千二百圓 婦人子供服店 開業案内	良店員を育てるまで	失業者も必ず露店商賣開業案内
四六判 69	四六判 68	四六判 82	四六判 190	四六判 315	四六判 206	四六判 374	四六判 237	四六判 196	四六判 208
三三三	三三三	三三三	一三三	一三三	一三三	二二二	一〇〇	一〇〇	二〇〇
文録社	文録社	文録社	新誠社	啓方閣	誠光堂	森山書店	誠光堂	雄風館	康業社
月六	月六	月六	月十	月四	月七	月二十	月七	月十	月十
▲店頭研究の意義、店頭研究の根本概念、ウキンドー、接客外六篇にて説く。	▲販賣用語、接客術等店頭にて直接客に對する販賣法を述べ。	▲店頭販賣に必要な知識を研究し、店頭心得十七ヶ條を掲ぐ。	▲店員の爲に正しく生きた販賣術を説いたもので、先づ信念を持って、接客の直前其他。	▲獨立して營業をなさんとする者の爲に決意を促し且必要な知識を養成す。	▲賣藥化粧品店の開業から經營法までを説明したもので、店舗の位置の選定其他。	▲販賣技術の科學的原理、豫期の結果を齎し得る營業の法則を見出さんとせるもの。	▲千二百圓で開業出来る婦人子供服店の開業の手引書で、洋裝店の將來性其他。	▲中小小賣店に於ける店員教育、店員操縦法を説いた書で、店員難時代外十二篇。	▲露店商人になる迄、露店商賣の仕方、露店商賣の實例の三章及び附録を収む。

五五〇

經濟・商業（廣告・宣傳・商工人名簿）

商工人名簿

廣告界編輯部編	長岡 逸郎	水谷 孫利夫	萬年 社編	都筑 賢藏編	ダイヤモンド社編
廣告界圖案集	廣告圖案と文案の實際	廣告と宣傳	廣告	主として實用廣告便覽	ポケット社職員錄
四六判 152	四六判 90	四六判 155	四六判 408	四六判 84	三三三 871
二二二	三三三	三三三	一〇〇	一〇〇	一〇〇
新誠社	文録社	文録社	萬年社	信友堂	モダインド社
月七	月六	月六	月一	月十	月六
▲廣告界に掲載された廣告創作圖案の昭和十一年度の前半分を集成す。	▲廣告圖案及び廣告文案の作り方を實際的に説明せるもの。	▲廣告と宣傳に就て説明せるもので、廣告と宣傳の區別、商賣の進化其他。	▲廣告大觀、新聞總覽、雜誌總覽、廣告實務廣告調査、廣告名鑑等を掲げた年鑑。	▲専門雜誌向きの正確な廣告計畫資料を収めたもので、廣告代理業の本質其他。	▲約二千會社、約三萬人に亘つて重役、課長其他幹部の職名、出身地、住所其他を調査す

早大教授 西村眞次 著
 文學博士
 日本民族理想
 忽三版 定價一圓八十錢 東京堂

五五一

工業・工業

(11-1)

工業・工業(工業一般)

著者	書名	形態	頁数	送料	発行所	月行	内容大意
東洋經濟新報社編	東洋經濟新報社編 急迫せる原料問題	並四六判	65	三〇〇	東洋經濟出版部	月八	▲纖維原料供給問題とステープル・ファイバ ▲工業外三篇にて論述。
岡本正道	工業會計大要	並四六判	145	二〇〇	明倫館	月六	▲工業組合に關する論說、工業組合經營事例 隨想、シナリオ等を収録。
佐野卓男	工業組合運動の第一線より	並四六判	574	二〇〇	明倫館	月六	▲現下の工業經濟の見地から工業組合制度の 凡ゆる問題を述べ、工業組合の現勢を説明す
磯部喜一	工業組合論	並四六判	750	二〇〇	甲文堂	月一十	▲科學的工業經營の動向を基礎付けた もので、工業經營の基礎概念外十二章
大河内正敏	工業經營總論	並四六判	331	二〇〇	千倉書房	月十	▲非金屬工業材料の全般に亘つて、各種材料 の性状、品質、試験法等を網羅し説明す
東京商工會議所編	工業實務講話	並四六判	409	二〇〇	式會社	月一	▲工業と經濟-諸井貫一(工業組合及統制問 題-神田運)外八篇。
九州帝國大學教授 森井二郎	工業政策要論	並四六判	444	二〇〇	森山書店	月九	▲工業經濟及び工業政策に就ての解明で、經 濟生活と經濟政策外四篇及び附録。

五五三

◇◇目書學科理威權行發圃鶴老◇◇

大學	物理學通論	本多光太郎氏著	五〇〇	實有機合成化學(全二冊)	森山剛一郎氏著	上二八〇 下八〇〇
高學校	物理學本論	本多光太郎氏著	五〇〇	新兵器毒ガスと煙	西澤勇志智氏著	七〇〇
物理學	詳解講義	本多光太郎氏著	五〇〇	新兵器花火の研究	西澤勇志智氏著	八〇〇
應用物理學	實驗	眞島正市氏 外四名	四〇〇	土木建築主要材料	永井彰一郎氏著	六〇〇
電氣磁氣學		三枝彦雄氏著	四〇〇	無機標準工業分析法	庄司務氏著	二〇〇
質點の力學		玉城嘉十郎氏著	四〇〇	珪酸鹽工業要覽	永井彰一郎氏著	四〇〇
剛體の力學		玉城嘉十郎氏著	四〇〇	油脂工業化學	中江大部氏著	七〇〇
分析化學の研究		永海佐一郎氏著	三〇〇	石鹼製造化學	中江大部氏著	七〇〇
無機化學の基礎		永海佐一郎氏著	三〇〇	化粧品製造化學	西澤勇志智氏著	四〇〇
詳解無機化學		石川總雄氏著	四〇〇	植物分類學 第一卷	早田文藏氏著	二〇〇
高等化學深論 全三卷		森元七氏著	一七〇〇	植物分類學 第二卷	早田文藏氏著	二〇〇
理論無機・有機・化學要說		越山季一氏著	三〇〇	被子植物總論	早田文藏氏著	一〇〇
有機化學構造論(全二冊)		山岡望氏著	上六〇〇 下七〇〇	日本細胞學史	篠道喜人氏著	六〇〇
近世有機化學講義(上・下)		加納清三氏著	上六〇〇 下六〇〇	日本海藻誌	岡村金太郎氏著	三〇〇

五五二

六四一二一東京替振
一九五五町場茅話電

圃鶴老田内

橋本日・京東
日丁一町馬傳大

市川 一英夫	米田 英夫	高橋 龜吉	小松 一雄	ファイナル著
發明家必携	日本工業發展論	日本工業發展論	獨逸工業論	獨逸工業論
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六
布入判 356	布入判 350	布入判 480	布入判 361	布入判 361
二、四〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
株式會社	株式會社	千倉書房	叢文閣	叢文閣
月七	月六	月一十	月七	月七
▲資本主義のアルゲマイネ・クリーゼ時代の獨逸工業界に於ける腐朽の過程を明かにす。▲日本工業の發展の現状及び其の前途の見透しに就て論述す。▲工業の歴史的基礎、工業の分布状態、日本の原料資源としての滿洲外十三章にて論述。▲發明、考案をなしてより特許又は登録をうけ之を實際化するまでの知識、心得を述べ。				

工學

一般

應用力學上學

工業雜誌社

月十

▲上卷は剛體力學に就ての説明で、力、豫備數學、靜體力學の一般原理外十五章。▲後篇は梁の撓及撓角、垂直力と曲げモーメント其他の問題に解を施す。

應用力學問題集

工業雜誌社

月二

▲直接計算に至便なる各種表、換算表及び數學、工學用諸公式等を輯録す。換算表及び數學、工學用諸公式等を輯録す。

工業立地變動論

中興館

月一十

▲工業立地の變動に關する理論を考察せるもので、工業立地に對する私の立場外三章。

最近工作術

株式會社

月一十

▲工作物全般に亘つて正確なる技術の習得法を説明した書で、模型工作外五篇。

弾性學

株式會社

月一十

▲大學程度の弾性學を解説せるもので、上卷は應力及び歪み、弾性係數外六章。

力學の解法

株式會社

月九

▲剛筒構造物即ちライメンに就き解法を試み算式を誘導して秩序的に整へた書。

土木工學・土木材料

工業會社

月三

▲中等實業學校程度の力學及び材料強弱學を解説せるもの。改訂版。

各種鐵筋コンクリートの實地設計計算

鐵道圖書局

月二十

▲土木工事各種の鐵筋コンクリート工の設計計算法に關して平易に叙述す。

橋梁美學

成美堂

月八

▲審美的方面から橋梁を研究せるもので、緒論、橋梁美學思潮、美的構成の諸原則外三章。

中等學校作業科の參考書としてコンクリートの原理、計算、作業を専門的見地から説く

鐵道圖書局

月二十

▲煩雜な理論を避けて初等橋梁工學を説明したもので、橋梁一般外十二章。改訂増補。

我國獨特の治水工學を解説せるもので、總論、氣象、水文、水理、高水工事外二編。

株式會社

月七

▲土木學に關する深いものを中心に水理學を説明せるもので、總論、流體力學外九章。

道路用タールの木質、製造法の特異點、タール舗裝混合物の設計等の記録を收む。

株式會社

月二

▲道路用タールの木質、製造法の特異點、タール舗裝混合物の設計等の記録を收む。

セメント、コンクリート、粘土製品、石材

株式會社

月二十

▲セメント、コンクリート、粘土製品、石材其他の主要土木材料の基礎知識を説明す。

道路工事に必要な諸種の事項及び表を收め

株式會社

月五

▲道路工事に必要な諸種の事項及び表を收め内務省土木試驗所設計の設計圖十五枚を附す。

製圖

製圖

清家 正	末松 榮	山内 俊吉	谷宗 雄	本間 仁	宮本 武之輔	櫻井 盛男	加藤 誠平	中村 猪市	櫻井 盛男
製圖論	技術者必携 道路便覽	土木材料	タイル舗裝	水理學	治水工學	初等橋梁工學	橋梁美學	中等學校作業科の參考書としてコンクリートの原理、計算、作業を専門的見地から説く	各種鐵筋コンクリートの實地設計計算
洋四六	洋三六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六
布入判 475	布入判 325	布入判 240	布入判 175	布入判 346	布入判 320	布入判 400	布入判 96	布入判 115	布入判 283
二、八〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	三、八〇〇	一、〇〇〇	三、六〇〇	三、三〇〇	一、〇〇〇	三、五〇〇	二、六〇〇
パワース社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	鐵道圖書局	成美堂	鐵道圖書局	鐵道圖書局
月四	月五	月二十	月六	月二	月七	月二十	月八	月二十	月二十
▲製圖上に於ける各要項を科學的に説明し、製圖の方法、圖面整理法等を解説す。改訂版。									

建築・家具

清家正製圖論抄	建築研究社編	ア	並四六判	70	六〇	建築研究社	月四	▲製圖を技術的に經營學上から論じた先著「製圖論」中より初學者向の部分を選択す。
堀口捨己 一住宅と其庭園	建築研究社編	ア	並四六判	60	二五〇	洪洋社	月十	▲各國のアパート圖譜、アパートの設計要領及び關係法規抄を掲ぐ。
加納四十二 椅子張法とマツトレス法	東京府工務局長 木工工務課長 加納四十二	最新 椅子張法と マツトレス 法	洋函菊 布入判	161	二〇〇	太陽堂	月二十	▲和洋折衷の住宅と庭園を持つ某邸の内外を寫眞に收めたもの。
洪洋社編 異色あふるる料亭	建築研究社編	異色あふるる料亭	新函菊 製入判	48	二〇〇	洪洋社	月二十	▲住宅用椅子張法を主として述べ、クツシヨン及びマツトレス法をも説く。
建築研究社編 飲食	建築研究社編	飲食	並四六判	69	六〇	建築研究社	月二	▲料亭縁風莊及び縁風閣の内外の建築構成を寫眞に收む。
中野楚溪 近江の林泉	建築研究社編	近江の林泉	並四六判	111	四〇〇	昭森社	月九	▲飲食店内外の寫眞、理想設計草案圖、實例圖、飲食店の設計要領及關係法規を收む。
小栗吉隆編 家具製圖	建築研究社編	家具製圖	布函四六判 製入判	30	一五〇	中央工學會	月一	▲近江の庭園中より社寺の代表的庭園を主とし、之を寫眞に收め解説をなす。
鈴木三郎 家具製圖	建築研究社編	家具製圖	上四六判 製入判	86	九〇	洪洋社	月一十	▲中等實業學校の家具製圖科教材用の實習書で、本立、花臺、机外廿七圖を收む。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	一〇〇	洪洋社	月三	▲家具製圖の目的、製圖用具、注意事項、圖示法、作圖法、採色法其他を説明す。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月四	▲新設計室内裝飾展に出品された書齋、應接室、客間、寢室其他の家具セット寫眞集。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月十	▲松坂屋及び白木屋に催された展覧會作品中より抜萃せるもので、化粧室其他。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月十	▲日本橋高島屋に開かれた新興洋藝家具創作展に出品されたものを寫眞に收む。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月七	▲最近に於ける英米國標の圖書雜誌より居間家具に關する家具の諸相を選択採萃す。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月六	▲白木屋に開かれた夏の室内裝飾を主題とせる洋家具陳列會の全體的蒐集。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月十	▲一九三四年より三六年に至る歐米家具作品を收めた寫眞集。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月十	▲第七輯は上野松坂屋に於て開催された國風家具展の寫眞を收む。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月十	▲十一月下旬三越本店に開催された新設計室内裝飾展覽會の全體的蒐集。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月十	▲歐米に於ける金屬製グリルの最近作を寫眞に收めたもの。
吉田全三編 建築材料	建築研究社編	建築材料	洋函四六判 布入判	287	二〇〇	吉田工務所	月二十	▲各種建築材料及び實地に即して解説し、日本標準規格拔萃及び建築材料時價表を附す。
西川友克武平 現代家具製作の知識	建築研究社編	現代家具製作の知識	洋函四六判 布入判	260	二〇〇	東學社	月十	▲椅子、机、棚等に現代家具の製作上に於ける基礎的な機能方面に重點を置いて説く。
國際建築協會編 國際建築住宅圖集	建築研究社編	國際建築住宅圖集	上四六判 製入判	208	二〇〇	國際協會	月九	▲日本及び海外の國際的住宅建築及びアパートメント並に室内家具の圖版を收輯す。
山下正夫 工場建築	建築研究社編	工場建築	洋函四六判 布入判	329	二〇〇	工業圖書株式會社	月四	▲工場の建築設計に關する事項を記述したもので、概論、本論に分つ。
建築研究社編 興業	建築研究社編	興業	並四六判 製入判	70	六〇	建築研究社	月三	▲日本及び歐米の興行圖譜、興行場草案圖譜、興行場の設計要領、興行場取締規則等を收録す。
住宅改良會編 住宅改良會	住宅改良會編	住宅改良會	並四六判 製入判	98	一〇〇	住宅改良會	月五	▲新時代に於ける三十五坪までの住宅設計圖三十六案を撰蒐す。
廣江文彦 寺建築	寺建築	寺建築	並四六判 製入判	98	一〇〇	鈴木書店	月五	▲社寺建築に關する諸種の設計資料を收め解説す。

洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月六	▲最近に於ける英米國標の圖書雜誌より居間家具に關する家具の諸相を選択採萃す。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月七	▲白木屋に開かれた夏の室内裝飾を主題とせる洋家具陳列會の全體的蒐集。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月十	▲一九三四年より三六年に至る歐米家具作品を收めた寫眞集。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月十	▲第七輯は上野松坂屋に於て開催された國風家具展の寫眞を收む。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月十	▲十一月下旬三越本店に開催された新設計室内裝飾展覽會の全體的蒐集。
洪洋社編 近代家具裝飾資料	建築研究社編	近代家具裝飾資料	上四六判 製入判	20	九〇	洪洋社	月十	▲歐米に於ける金屬製グリルの最近作を寫眞に收めたもの。
吉田全三編 建築材料	建築研究社編	建築材料	洋函四六判 布入判	287	二〇〇	吉田工務所	月二十	▲各種建築材料及び實地に即して解説し、日本標準規格拔萃及び建築材料時價表を附す。
西川友克武平 現代家具製作の知識	建築研究社編	現代家具製作の知識	洋函四六判 布入判	260	二〇〇	東學社	月十	▲椅子、机、棚等に現代家具の製作上に於ける基礎的な機能方面に重點を置いて説く。
國際建築協會編 國際建築住宅圖集	建築研究社編	國際建築住宅圖集	上四六判 製入判	208	二〇〇	國際協會	月九	▲日本及び海外の國際的住宅建築及びアパートメント並に室内家具の圖版を收輯す。
山下正夫 工場建築	建築研究社編	工場建築	洋函四六判 布入判	329	二〇〇	工業圖書株式會社	月四	▲工場の建築設計に關する事項を記述したもので、概論、本論に分つ。
建築研究社編 興業	建築研究社編	興業	並四六判 製入判	70	六〇	建築研究社	月三	▲日本及び歐米の興行圖譜、興行場草案圖譜、興行場の設計要領、興行場取締規則等を收録す。
住宅改良會編 住宅改良會	住宅改良會編	住宅改良會	並四六判 製入判	98	一〇〇	住宅改良會	月五	▲新時代に於ける三十五坪までの住宅設計圖三十六案を撰蒐す。
廣江文彦 寺建築	寺建築	寺建築	並四六判 製入判	98	一〇〇	鈴木書店	月五	▲社寺建築に關する諸種の設計資料を收め解説す。

伊藤 虎三	遠藤 於菟	森 規矩郎	森 規矩郎	森 規矩郎	建築研究社編	伊藤 虎二	山田 醇	金杉 哲伊	佐々木 達三	洪 洋	黒木 謹質
日本建築細部圖集	日本建築構造圖説	塗装工工作下法	塗装工工作中法	塗装工工作上法	庭園圖集	日本手摺圖鑑	中流住宅設計圖	續市街地建築圖集	寢室(木村工務所設計)	住宅(建築家)	住宅テキスト
新刊 48	新刊 79	新刊 135	新刊 149	新刊 166	新刊 80	新刊 416	新刊 33	新刊 72	新刊 28	新刊 82	新刊 50
1935	1935	1935	1935	1935	1935	1935	1935	1935	1935	1935	1935
洪洋社	大倉書店	東學社	東學社	東學社	建築研究社	成美堂	洪洋社	新誠社	洪洋社	洪洋社	洪洋社
月六	月九	月八	月八	月七	月八	月二	月十	月三	月十	月八	月八
▲日本建築に於ける古来の細部形式を収めた ▲香檳間、雲窓の部其他	▲木造建築の仕口、継手等の構造を編集せる ▲下巻は塗料、ペイントの製造法、特殊塗料 ▲パイロキシリン・ラツカを講述す	▲中巻は油ワニス塗装法、ラツカ塗装法、 ▲漆の塗装、壁塗装、塗装標準仕様書外一篇	▲塗装工工作法を説明したもので、上巻は塗料 ▲と塗装工工作法を説明したもので、上巻は塗料 ▲と塗装工工作法を説明したもので、上巻は塗料	▲内外古今の庭園の代表的なものを蒐集し、 ▲建築と庭園との交渉、接觸面を解明す	▲日本庭園史概要(龍居松之助)庭園の觀賞 ▲と意匠(田村剛)庭木(中島卯三郎)外四篇	▲最近設計した中流住宅の設計圖三つを選び ▲それに豫算數量書を掲ぐ	▲市街地に建つ商店建築の設計圖を収めたも ▲ので、撞球場、寫眞館、呉服店其他	▲寢室と家具に就て解説せる書で、家具の種 ▲類、寢室の例外二篇	▲名古屋市の高燥なる住宅地街にある榮萃莊 ▲の規模、内容等を紹介せる寫眞類聚	▲住宅に就ての諸知識を平易に述べた書で、 ▲宅地について、設計の方針外八章	▲建築研究社

森 光三	矢野 勘三郎	磯野 達一郎	前川 幸一郎	市川 繁彌	東京電機株式會社社務部	洪 洋	洪 洋	小泉 吉兵衛	主婦之友社編	建築研究社編	福井 縣編	上原 敬二
交流理論と過渡現象論	交流理論	交流理論	屋内電氣設備	屋内電氣設備	屋内電氣設備	和洋住宅の門	和洋住宅の門	和洋住宅の門	和洋住宅の門	和洋住宅の門	和洋住宅の門	和洋住宅の門
新刊 295	新刊 136	新刊 443	新刊 341	新刊 232	新刊 48	新刊 50	新刊 319	新刊 184	新刊 70	新刊 41	新刊 320	
1935	1935	1935	1935	1935	1935	1935	1935	1935	1935	1935	1935	
尚賢堂	工業圖書	養賢堂	修教社	共立社	洪洋社	洪洋社	東學社	主婦之友社	建築研究社	洪洋社	成美堂	
月六	月一	月三	月六	月七	月二	月九	月九	月九	月六	月二十	月八	
▲正弦波交流、三相交流、歪形波交流、分布 ▲定數回路、過渡現象の五編にて説明す	▲中等程度の數學を以て交流理論を説明せる ▲書で、正弦波交流、直列回路外七章	▲交流電氣機械の全般に亘つて其の概念を理 ▲論的、實際的に解説す	▲配線、電氣應用設備の二編	▲建築物の電氣設備を解説せるもので、屋内 ▲配線、電氣應用設備の二編	▲日本式庭園に於て最も核心をなす石組、岩 ▲組に就ての構造法其他を説述す	▲福井縣に於て募集した農村住宅懸賞設計圖 ▲の當選圖五案を収む	▲内外實例寫眞、ビルディング草案圖譜、本邦 ▲實例寫眞及設計圖、設計要領、法規等を収む	▲初めて家を建てる人の心得を説き、便利な ▲家の寫眞を掲げ説明をなす	▲和風住宅と家具、和家具製作法、和家具製 ▲作圖解、主人室用家具外八篇	▲和風及び洋風住宅の門の寫眞五十葉を収め ▲たもの	▲邸舎住宅建築に於て重大な役割をもつ前庭 ▲の和洋兩風の寫眞を収む	